

法文ニハ懲役ハ懲役場禁錮ハ禁錮場トアレドモ實際此區別ヲ設クルニハ多額ノ費用ヲ要スルヲ以テ假ニ同一ノ獄舎ヲ以テ仕事ヲ爲ス場所ノ設ケアルノミ  
 第二刑期ノ長短アルハ刑罰ノ重輕ヲ定ムルニ必要ナル一ノ原素ナリ夫レ然リ  
 刑罰ノ重輕ヲ定ムルニ期限程精密ナルモノハアラズ竊盜ハ何年偽証ハ何年違  
 警罪ハ何日ト云フ如ク罪ト刑トノ權衡ヲ得セシムルニ適當ニシテ良刑ノ性質  
 ナ備ヘリ然ルニ惜哉我立法官ハ十分之ヲ利用セサルナリ其証據ヲ申サハ我刑  
 法ニ拘留ハ一日以上十日以下禁錮ハ十一日以上五年以下重懲役重禁獄ハ九年  
 以下十一年以下輕懲役輕禁獄ハ六年以上八年以下有期徒刑有期流刑ハ十二年  
 以上十五年以下ト確定セルヲ以テ今茲ニ一ノ犯人アリ七年以上十年以下ノ刑  
 ニ相當スル罪ヲ犯シタルコトアルモ斯ノ如キ刑ヲ設クルコトヲ得ザルヘシ立法官  
 ノ精密ナル此ノ區別ハ却テ其期限ヲ精密ニ區別スルコト能ハサルニ至ラシメダ  
 リ英獨諸國ニ於テハ此ノ如キ區別ナキヲ以テ斯ノ如キ弊ヲ生セザルナリ  
 第三定役ニ服スル者ハ徒刑懲役ニ禁錮ノミナレトモ刑法上服役ノ重輕アルニ  
 非サルナリ

定役トハ獄ニ在ルノミナラス勞役ニ服スルモノナリ古ノ學者ハ曰ク重キ罪ニ  
 ハ重キ役ヲ科シ輕キ罪ニハ輕キ役ヲ科スヘシト唱フレトモ此說ハ到底行フ能  
 ハサルノミナラス學理上許サ、ル所ナリ何トナレハ最上ノ重刑ニ石ヲ負フノ  
 役ヲ科セシトセハ最下ノ罪人ニハ科スルノ役ナキニ至ルナリ又囚徒六十歳以  
 上ニ至ルハ体力相應ノ定役ニ服スヘシト此レ不相應ノ定役ニ服セシムルハ  
 ハ到底体力カ絶エ得ヘカラサルヘシト考ナリ十九條二十二條若シ然リトセ  
 ハ六十歳以下ノモノニハ不相應ノ役ヲ科スルヤト云フニ又然ラス何トナレハ  
 不相應ナルハ結局死ニ至ルヘシ之ヲ以テ見レハ此區分ハ立タサルナリ  
 定役ハ何故ニ刑罰ノ一種ナルヤト云フニ近代ノ大發明タル新說ニ囚レハ第一  
 其役ハ人々自由ニ執ルニ非スシテ法律カ強テ命令スルモノナレハナリト例ヘ  
 ハ一ノ囚徒ニシテ外國語ニ通スル場合ニ翻譯ヲ命セラル、ハ之ニ從ハサル  
 ヘカラス若シ從ハストスレハ必ス獄則ニ照シテ處分セラルヘシ是レ己レノ欲  
 セサル即「ウイル」ニ反對シテ強制スルモノ刑罰ナリ第二ニハ働キ得タル利益ハ  
 已レノ有トナラスシテ官ノ利益トナル故ナリト例ヘハ彼ノ艶聞事件ニ有名ナ



ル花井於梅ノ獄中ニ在リテ絹ノ「ハンケチ」ヲ縫ヒ居ルモ己レノ爲ニアラスシテ皆官ノ爲ニスルノミノ事ニテ毫モ身体ニ對スル苦痛アラサルナリ之ヲ以テ見レハ定役ノ性質ハ痛苦ヲ與フルノ主義ニ非ルヤ明ナリ若シ痛苦ノ上ヨリ看察スルキハ囚徒ヨリ平人ハ一層苦役ニ服スルモノト云ハサルヘカラス例ヘハ人力車夫ノ如キ冬ノ夜寒ニ襤褸一領ノ儘ニテ客待スルモノアリ之ヲ彼ノ囚徒ノ夜八十時ニ伏シ三飯ハ定時ニ賄ハレ病アレハ直ニ西洋醫ニ診察セラレ五日若クハ十日毎ニ浴湯シ且テ一ノ痛苦ナキカ如キニ比スレハ如何ソヤ故ニ曰ク苦痛ノ有無ヲ以テ較スヘカラサルナリト然ラハ其異ナル點ハ何レカト云フニ前述ノ如ク彼ノ平人ノ痛苦ハ痛苦ナレトセ自ラ執ルノ勢力ニシテ其結果ハ二錢若クハ三錢ナルモ皆己レノ利益ニ属スルヲ以テ刑罰ニアラサルナリ定役ノ性質ハ己レノ自由ニアラサルト其利益ハ官ニ歸スルトノ二ナリ今若シ工錢ヲ囚徒ニ與フルトセハ之レ刑罰ノ理論ニ違フナリ刑法第二十五條ニ定役ニ服スル囚人ノ工錢ハ監獄ノ規則ニ從ヒ其幾分ヲ獄舎ノ費用ニ供シ其幾分ヲ囚人ニ給與スト是ハ學者ノ大ニ非難スル所タリ何トナレハ刑ノ刑罰タル

理由ヲ消滅スルニ至ルヘケレハナリ且ツ其幾分ヲ給與スルカ如キハ大ナル不公平ヲ生スルニ至ルヘシ例ヘハ茲ニ一囚アリ身体飽ク迄モ強壯ニシテ米搗キニモ煉瓦職ニモ車力ニモ適シ一日中幾多ノ賃錢ヲ得ルニ老者婦女ノ如キハ一心從事シテ齷齪スルモ其成業ノ結果賃錢ヲ得ルノ多寡ハ壯者ノ一舉手一投足ニモ及ハサルナリ斯ノ如クナルキハ壯者ハ苦マヌシテ數多ノ工錢ヲ得婦女ハ苦テ少許ノ賃錢ヲモ得ル能ハス豈ニ不公平ナラスヤ我刑法ノ規定ノ如クンハ之レ勉強心ヲ賞スルニ非スシテ囚人ノ自然力(自然トハ天然ニ稟クル所ノ力量ヲ云フ)ニ報酬ヲ與フルモノト云フヘシ

### 第十三回

#### 假出獄

假出獄トハ讀テ文字ノ如ク已決ノ囚徒ヲ一時牢獄ヨリ娑婆へ出サシムルノ法ニシテ若シ期限ヲ無事ニ經過セシナラハ恰モ入牢シテ服從セシト同一ノ効力



ナ有セシムルナリ凡テ裁判確定ニ因リ服從スル囚徒ヲ放免スルニハ種々アリ  
 大赦特赦假出獄ノ如キ皆是ナリ且シ大赦特赦ニ至リテハ放免スルノミナレモ  
 假出獄ニ至リテハ其手續較々重クシテ或條件ノ具備スルヲ要スルナリ若シ其  
 條件ヲ破ルルハ再度入牢セラル、ノ危険アリ此點コソ即其異ナル所トス而シ  
 テ假出獄ハ刑期ノ範圍内ニ於テ之ヲ行フモノニシテ實際ハ刑期ヲ短縮ニスル  
 ノ譯ナリ例ヘハ十年ノ刑期ナルキ七年ノ服役ヲ終リタル後殘餘ノ三年ニ對シ  
 テ假出獄ヲ行フ如キ是ナリ故ニ其何時ニ於テ行フテ可ナルヤハ一定ノ制限ア  
 ルコトナシ大赦特赦ノ如キニ至リテハ何時ニテモ行フコトヲ得過日ノ憲法頒布ノ  
 際ニ方リテ赦アリタルカ如キ一例ナリ  
 假出獄ハ刑期ノ終リニ爲スヘキモノナレハ必ス一旦ハ刑ノ執行ヲ受ケサルヘ  
 カラス然ルニ赦ニ至リテハ然ラサルナリ假出獄ハ裁判ノ効果ヲ破毀スルモノ  
 ナルヤ否ヤハ一ノ考究スヘキ問題ナリトス赦ハ無論裁判ノ効力ヲ破毀スルモ  
 ノト云ハサルヘカラス帝國憲法ニ天皇ハ大赦特赦ヲ行フコトヲ得ルト是レ裁判  
 ノ効力ヲ破ルルノミナラス併テ刑ノ執行權ヲモ奪フモノナリ例ヘハ十年ノ刑ニ

處セラレタルモノニ特典ヲ以テ放免スルカ又ハ幾等ヲ減輕スト言渡スト同様  
 ナレハ法律ヲ破ルルノ敕令ナリト云フヘシ假出獄ハ此ノ如ク甘クハ參ラスト雖  
 併シ如才ナキ裁判官ハ始ヨリ見込ヲ付ケテ裁判スルナリ故ニ十年ノ刑ヲ言  
 渡スモ七年後ニ至リ或條件ヲ具備スルキハ三年丈クハ假出獄ヲ與ヘテ少シモ  
 裁判ノ効力ニハ影響ヲ及ホサ、ルナリ  
 假出獄ノ目的ハ凡テ一旦入獄シタル人ヲ可成の良善ナラシムル様ニナシ若シ  
 改悛アリタル後ハ公益上入獄セシムルノ必要ナシトノ點ヨリ來ルナリ斯ノ如  
 シ假出獄ノ制度アル國ニ於テハ其時代ニ二期アルコトヲ知ルヘシ則チ未ダ刑期  
 ナ了ヘサル時ト已ニ了ヘタル時ト是レナリ  
 第一ノ時期ニ於テハ假出獄ヲ得タキトノ希望第二ノ時期ニ於テハ此出獄ノ特  
 權ヲ失ハサラントノ危懼是ナリ  
 日本刑法五十三―四十七條ニ從ヘハ假出獄ハ如何ナル刑ニモナルヘキモノニ  
 ハアラスシテ必ス重輕罪犯ナラサルヘカラス故ニ違警罪犯ノ如キハ此ノ制度  
 ノ利益ヲ受クルコト能ハス且ツ事實上又出來得ヘカラス事多シ例ヘハ十日ノ



拘留ニ七日ヲ經過シタル後其狀ヲ内務大臣ニ具申セントスレハ指令ノ下ル迄ニ已ニ滿期トナルヘク中央政府ヲ距ル甚タ遠キ地方ニ在リテハ郵便ノ到着スル十日以上ヲ費スニ非スヤ併シ違警罪ニ假出獄ヲ適用セサルハ日數ノ短縮ナルトノミノ理由ニアラサルカ如シ若シ單ニ此ノ理由ノミトセハ輕罪ニモ十一日ノ禁錮アリ違輕罪ノ場合ト逕庭アラサルナリ歐州諸國ニ於テハ刑期ノ短キモノニハ此制度ヲ施サス何トナレハ一年以内位ニテハ改悛ノ狀アルヤ否ヤ到底知ルヲ得ヘカラスシテ實際何ノ用ニモ立タサレハナリ然レモ事實ヲ外ニシテ理論上ヨリ見レハ刑期ノ長短ヲ問フニ及ハサルヘシ日本刑法ニテハ重輕罪ニ限リタル上ニ尙ホ無期徒刑ニハ十五年其他ノ刑ニハ刑期四分ノ三ヲ經過シタル時ト規定セリ故ニ十二日ノ刑期ナルモ九日ノ後ナレトモ殘餘ノ三日間ニ内務大臣ニ伺フノ猶豫ナケン此場合ニハ始メヨリ見込テ伺書ヲ出スヘキカ但シ四分ノ三時間ハ犯人ノ行狀ノ正不正ヲ見ルヘキノ時ナレハ豫メ此手續ヲ行フヲ得サルナリ

假出獄ニ類シテ一ノ免幽閉制度(二十一條)アリ之ハ流刑ニ處セラレタルモノ則

國事犯者ニ限リテ適用サル、モノニシテ有刑ナレハ三年無期ナレハ五年ヲ經過シタル後ナリ斯ノ如ク無期流刑即終身囚ニ五年後ハ直ニ嶋地ニ送リテ制限内ニ幾分ノ自由ヲ得セシム裁判官ノ汗水ヲ垂ラセシ折角ノ判決モ行政處分ニ因テ忽チ徒勞ニ屬スル點ヨリ見レハ法律ハ實ニ子供ノ翫弄物ナリ子供ノ翫弄物ナレトモ扱法律ト云ヘハ己ムヲ得ス遵守セサルヘカラサルモ假出獄ノ如キハ獄則ヲ謹守シ悛改ノ狀アル犯人ニ被ラシムル恩典ナレハ本人ニ於テ希望セサレハ法律ハ強制スルヲ能ハサルナリ

假出獄ヲ取消スノ條件ハ刑法五十六條ニ規定セリ即假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタルモノハ直ニ假出獄ヲ停止シ云々トアレトモ元來假出獄ハ品行ノ良善ナルモノニ被ラシムル恩命ナレハ若シ不良ノ操行アリ次第再ヒ入獄セシムルニ於テ何ノ用捨カアラン然ルニ我刑法ハ明文ノ制限アル故ニ其制限外ニ於テハ如何ナル不行狀アルトモ其ハ違警罪ヲ犯ストモ苟モ重輕罪ヲ犯サ、ルニ於テハ取消サル、ノ憂ナキナリ今一ノ犯人アリ此五十六條ニ因テ處分サレタルモ其出獄中ノ日數ハ如何ニ計算スヘキヤ例ヘハ今年二月十一日ノ紀念日ニ



三年ノ刑ニ處セラレタルモノアレハ三年後即明治廿四年二月十一日ニハ揚々トシテ出獄セラレヘキナリ然ルニ二十三年頃其方儀獄則チ循守シ改悛ノ狀アルヲ以テ假出獄ノ沙汰ニ及フト申渡サレタル後十月ヲ經テ再ヒ入獄セシメラレタルキハ如何假出獄アラサレハ尙ホ二月ヲ歷テ丁度滿期トナルニ生意氣ニモ恩命アリタル爲メ却テ難有迷惑トナルナリ何トナレハ我刑法ニ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入スルヲ得ストアレハナリ獨逸國ノ如キハ全ク之ト反對ニシテ矢張り刑期中ニ算入セリ其理由トスル所ハ假出獄ヲ行フタルハ行政官ノ鑑定ノ目利ノ足ラサルニシテ敢テ犯人自身ノ過誤ニアラストスレハナリ假出獄ヲ許サレタルモノハ自由自在ニ如何ナリ所爲ルモ行フヲ得ルカト云フニ然ラス別ニ特別監視ニ付セラレ漸ク治産ノ禁ノ幾分ヲ免サルニ過キサルナリ

附加ノ自由刑

附加ノ自由刑トハ我國ニ於テハ監視ナリトス監視トハ警察官カ終始見廻ル意

味ニテ例ヘハ十年ノ服役ヲ了リタルモノハ或ハ尙ホ不正ノ所業ヲ爲スアアラサルカチ監督視察スルヲニテ惡ルク云ヘハ犯人タリシモノ、番人ナリ如何ナル犯罪ニ向テ監視ヲ付スルヤト云フニ其性質危險ナル犯罪ニ付スルモノナレハ重罪ハ勿論輕罪ト雖モ各本條ノ規定ニ從ヒ附加スルナリ但シ無期徒刑死刑ニ於テハ監視ノ必要モナク又事實執行スルヲ得サルナリ我刑法三十七條ニ曰ク重罪ノ刑ニ處セラレタルモノハ別ニ宣告ヲ用ヒス各本刑ノ短期三分ノ一ニ等シキ時間監視ニ付スト故ニ輕懲役ニ處セラレタルモノナレハ別ニ宣告ナクトモ六年以上八年以下ノ短期即チ六年ノ三分ノ一ノ二年ハ泣キ面ニ蜂ノ思ヲナサ、ルヘカラス輕罪ノ場合ニハ必ス幾年間監視ニ付スト宣告スヘキモノトス(二十八條)

我刑法三十九條ニ曰ク死刑及ヒ無期徒刑ノ期滿免除ヲ得タルモノハ別ニ宣告ヲ用ヒス五年間監視ニ付スト此ハ少シ考慮ヲサ、ルヲ得サル疑案ナリ既ニ主刑カ消滅シタルモ尙ホ附加ノ監視アルトハ奇怪千萬ナラスヤ最惡ナル犯人最重ナル死刑スラ免除ヲ得タルニ濱ノ眞砂ニモ比スヘカラサル監視ニ免除ヲ



與ヘストハ學理ニ背反スルノミナラズ此ノ規定ハ一般ニ通スルニモアラズシ  
 テ單ニ期滿免除ノミノ適用ナリトセハ一層不思議ニ堪ヘサルナリ何トナレハ  
 大赦特赦ノ場合ニハ何等ノ規定ナケレハ無論監視ヲ受ケサルナラン監視ハ前  
 述ノ如ク重罪ニハ其短期三分ノ一ナレハ輕懲役ニハ二年重懲役ニハ三年有期  
 徒刑ニハ四年ノ任着セアリ輕罪ハ各本條ノ規定ニ從フ監視ノ期限ハ斯ク始  
 ヲリ決定シ置クヘキ性質ノモノナルヤ否ヤ未タ入牢セサル前ヨリ監視ノ約束  
 トハ不都合ナラスヤ例ヘハ一ノ竊盜犯ニ裁判官ハ三年ノ重禁錮及ヒ一年ノ監  
 視ヲ宣告セリ裁判官ハ何カ故ニ此判決ヲナセシヤ法律ニ從ヒシナリ法律ハ何  
 カ故ニ此規定ヲナセシヤ一ノ竊盜犯ナルモ入獄後ハ非常ニ謹慎シテ釋迦然タ  
 ル人モアルヘク又ハ相變ラズ原トノ青鬼然タルモノモアルヘシ此等ノ操行ヲ  
 斟酌シテ定ムルコソ至當ナルニ未タ其人トナリヲ知ラサル以前ニ言渡ストハ  
 ナト早計ニシテ却テ有害ナリト思ハル歐洲諸國ニ於テハ裁判官ハ各事件ニ付  
 テ監視ニ付スヘキヤ否ヤヲ定テ其實行スヘキ監視ノ期限ハ擧ケテ行政官ニ一  
 任セリ

監視ノ執行トハ如何蓋シ監視トハ警察官カ犯人ノ行狀ノ如何ヲ見ルモノニシ  
 テ他アラサルナリ併シナカラ此監視ヲ行フニ便利ナル爲メ規則ニ因リテ或ル  
 義務ヲ負ハシム一定ノ居所ヲ定メシムルカ如キ或ハ一定ノ住所ヨリ外猥リニ  
 旅行スルコトヲ許サ、ルカ如キ又ハ監視ニ付セラレシモノ、家屋ニハ警察官令  
 狀ヲ帶ヒスシテ何時ニテモ侵入スルコトヲ得ルカ如キ是ナリ故ニ決シテ監視自  
 身ト監視執行規則トヲ混同スヘキニアラス  
 右ノ外一ノ手數ナルコトハ月ニ二度警察署ヘ出頭シ自分共ハ此程大人數ク候  
 ト云ハヌ計リニ極メ込マシムルノ奇定是ナリ而シテ之ニ違反スルキハ又刑ニ  
 處セラル殊ニ田舎漢ノ如キハ陰曆ヲ用フル故時々警察署指定ノ時日ト取り違  
 ヘテ思ハサル罰ヲ受クルコトアリ又酒宴ノ席群集ノ場ニ入ルコトヲ禁セラル、故  
 無論青樓ニ春ヲ買フコトモ出來サルナリ例ヘハ拘留十一日ニ處セラレ滿期後規  
 定ヲ守ラスシテ酒宴ニ臨ミ一杯飲ミタル爲メ監視規則違反ノ罪トシテ更ニ六  
 ケ月ニ該テラル、コトモアラズ實ニ法律ハ何レノ國ヲ問ハス兒戲ニ類スルモノ  
 ナリ余ハ之ヲ評シテ「オボツチャン」主義ト云フ



此主義アルヨリシテ監視規則違反者非常ニ多ク殆ント我國ノ常備軍ヨリモ其  
數少カサラレナリ而シテ此多數ノ徒ハ定役ニ服スルニ非ラス只獄裡ニ座食ス  
ルニミ而シテ他ノ良民ハ此座食ノ厄介物ヲ養フニ多額ノ監獄費ヲ支辦スルノ  
責ヲ負フカ爲メニ此世ニ生レ來レリ  
以上述ヘシ酒席ニ列リ群集ノ場ニ入ルカ如キハ監視規則ニ違背ナル罪ニシテ  
決シテ監視ヲ逃レタルハアラス日本中何レノ所ニモ警察署アリ警察官アリ  
十分監督シ得ヘクシテ少シモ逃カル、能ハサルナリ實際ニ於テハ警察署ハ各  
其管轄區域アルト雖モ何ノ神田區ト云フ如キ漠大ナル牢獄アルヘキヤ或人之  
ニ戲テ曰ク空氣カ圍繞スル想像上ノ大牢ナリト考ヘルナラントサレトモ是レ  
採用スヘカラサル空氣論ナリ  
我刑法ニ於テ監視執行ヲ逃カル、罪ヲ規定スルハ不可ナリ何レ各論ニ至リテ  
講述スヘキナレトモ畧說セハ刑ノ執行ヲ逃カル、ヲ罰セントセハ殆ント際限  
ナカルヘシ例ヘハ其方儀何々ノ罪科ニ因リ三年ノ禁錮ニ處スト宣告スルヤ否  
ヤ被告人ハ直ニ逃走セリ故ニ又逃走罪ヲ宣告セリ再三斯ノ如クナルハ復タ

### 財産刑

々々ト循環シテ終極ナキニ至ル既ニ刑ノ言渡アレハ國家ハ其實力ヲ以テ執行  
スヘキモノニシテ決シテ制裁ニ制裁ヲ科スヘカラサルナリ  
財産刑ノ主刑ハ罰金及科料ナリ科料ハ五錢以上一圓九十五錢以下二十九條罰  
金ハ二圓以上二十六條トシテ其最多額ヲ定メス各本條ノ規定ニ照シテ其多寡  
ヲ區別ス科料ハ何故ニ五錢以上ト制限セシヤヲ考フルニ各國多クハ自國ノ最  
低銀貨ヲ以テ其基本トセルカ如シ我國モ五錢ノ最低銀貨アル故ニ此制ニ倣ヒ  
シナラン且ツ一圓九十五錢以下トナセシハ二圓トナレハ已ニ罰金ノ名目ヲ付  
スル故實際必要ナケレハナリ之ヲ以テ見レハ罰金科料共ニ同性質ノモノニシ  
只名義ノ異ナルノミナルヲ知ルヘシ而シテ何故ニ一圓九十九錢九厘九毛マ  
テチ置カサルヤ蓋シ其稱呼ノ繁ナルヲ避ケンノミナルヘシ  
罰金科料ハ共ニ本人ノ納ムヘキモノナリ例ヘハ甲者小便五錢ヲ申渡サレタル  
片ハ自身直接ニ政府ニ上納シテコソ能ク其當ヲ得タルモノナリ然ルニ我刑法



ハ親屬其他ノモノ代テ納ムルヲ得ルト規定セリ是レ大ニ學者ノ非難スヘキ  
點ニシテ刑ノ濫用ト謂ハサルヘカラス例ヘハ大井憲太郎ノ罰金ヲ申渡サレタ  
ルニ方リ余ヨリ代テ上納スルキハ裁判官ハ曰ク罰金ハ已ニ江木衷ヨリ代納シ  
タレハ其方ヲ放免スト命セサルヘカラス此理ニ由レハ他日我國ニ於テ好事者  
ノ或ハ罰金救濟會社ノ設立ヲ圖ルモ知ルヘカラス又法廷ニ於テ罰金立換請求  
ノ訴訟ヲ見ルニ至ラン嗚呼我國ノ法廷ニハ様々ノ公事アリ  
前述代納ノ場合ニ在テハ却テ難有迷惑ニ感スル人アラフ何トナレハ罰金ニハ  
換刑處分アリ此ハ二年ヨリ超過スヘカラサルモノナレハ一日一圓ノ割トシテ  
七百三十圓ニテ先ツ濟ムナリ今五千圓ノ罰金ヲ科セラレタルニ方リ換刑ヲ請  
求セハ二年即七百三十圓ナルモ代納セラレタル爲メ四千二百七十圓ノ損ヲ來  
セハナリ斯ク重箱ノ隅ヨリ隅迄ト穿鑿セハ法律ニハ大ナル缺點アルモノナリ  
上納期限ハ言渡裁判確定ノ日ヨリ罰金ハ一ヶ月以内科料ハ十日以内ニ納完ス  
ヘク若シ納完セサルキハ一日一圓ノ割ニテ勘定スル上尙ホ禁錮中ハ國家ノ公  
資ヲ以テ何不足ナク衣食スルノ利益アレハ隨分ヨキ給金ナリト云ハサルヘカ

ラス獨逸ノ如キハ一圓以上三圓以内ト範圍ヲ立テ貧富ノ等差ニ隨ヒ階級ヲ立  
テタリ我國ニテハ上ハ大臣ヨリ下裏店稼ニ至ル迄同一ノ割合トハ餘リ買ヒ過  
キナリトノ評判モアリコハ學理上ノ議論ナレトモ實際刑餘ノ人タルハ多ク貧  
人ト而モ拘留所ニ雨ヲ凌キ賄料理ニ腹ヲ肥サントスル窮民ナレハ却テ拘留期  
日ノ長久ヲ欲スル希望ナレハ此規定モ時ニ取リテノ良好案ナリ  
一旦換刑ノ處分ヲ受テ其限内ニ於テ罰金ヲ納メタルキハ其經過シタル日數ヲ  
扣除シテ禁錮ヲ免ヌ例ヘハ十五圓ノ罰金ヲ納メサル故十五日ノ拘留ニ代ヘタ  
リ後三日ヲ歷テ親屬ヨリ上納スルキハ恰モ此レ三日間牢米ヲ食セラレタル故  
三圓ヲ謝禮金トシ殘餘ノ十二圓ニテ可ナリト云フカ如シ實ニ輕便ナル法律ト  
謂フ可シ  
終リニ説明スヘキハ何故換刑處分ハ二年以内ト限リシヤ罰金ニハ最多額ヲ定  
メサル故他日數十萬圓ノ多額ヲ科セラルノコモアラフ此場合ニ一日一圓トセ  
ハ終身禁錮セラル、モ尙ホ償ヒ終ラサルヘシ去リトテ罰金犯者ノ如キハ他ノ  
重罪ノ如ク可厭的ノ性質ノモノニモアラサル故他ノ刑期ト混同セシテ恐レ



且ツハ犯人ニモ氣ノ毒ナル故カク制限セシナラシメ數千圓數万圓ノ罰金犯者ハ  
換刑ヲ請求スル方頗ル利益アラシク何トナレハ此ノ場合ニハ一日ノ割付高數百  
千圓ニ上ルコトアレハナリ

### 附加ノ財産刑

附加ノ財産刑ハ罰金及ヒ沒收ノ二ナリ罰金ハ主刑ニモ附加刑ニモアレトモ其  
性質ハ同一ナレハ爰ニハ單ニ沒收ノミヲ説明スヘシ  
我刑法ニ因ルルハ法律規則ヲ以テ別ニ沒收ノ例ヲ定メタルモノハ其法律ニ從  
フト然レト別ニ定ムル所ナクハ宣告スルヲ當然ナリトス而シテ法律規則ニ  
於テ沒收スルモノ三アリ  
一 法律ニ因テ禁制シタル物件  
二 犯罪ノ用ニ供シタル物件  
三 犯罪ニ因テ得タル物件  
第一 法律ニ於テ禁制シタル物件トハ則チ法律ヲ以テ所有使用製造又ハ輸入

ヲ禁シタル物件ニシテ例ヘハ銃砲彈藥爆裂彈ノ如キ是レナリ論者アリ曰ク銃  
砲ノ如キハ法律ノ禁制物ニアラス何トナレハ大倉組ノ如キ官許ヲ得テ所有ス  
ルニアラスヤ然ラハ禁制シタル物件ニアラサルナリト果シテ論者ノ言ノ如ク  
ノハ只彼ノ鴉片煙吸飲品ヲ除クノ外禁制物ナルモノハ天下一モナキニ至ラン  
豈ニ夫レ然ランヤ元來禁制物トハ前例ノ如ク社會危險若クハ風儀ニ關スルヲ  
以テ禁スル物件ナリ

第二 犯罪ノ用ニ供シタル物件トハ犯罪ノ手段トナリタル物件ナリ是ハ第一  
手段ニシテ第二物件ナラサルヘカラス

手段トハ罪体中ノ主体物件手段ノ手段ニシテ人ノ身体以外ノモノナラサルヘ  
カラス拳ヲ揮フテ他人ヲ打撃スルモ其拳ハ附加刑トシテ沒收スヘカラサルナ  
リ又竊盜ノ溝堀ヲ越ヘン爲メ架ケシ階子ノ如キ只踰越ノ用ニ供シタルモノニ  
シテ犯罪ノ用即チ奪去ノ所爲ニ關係ナキモノナレハ沒收スヘカラサルナリ換  
言スレハ犯罪ノ當時犯罪ノ所爲ニ付テ用ヒタルモノナラサルヘカラス  
或人曰ク罪体ハ沒收スルコト得スト蓋シ佛國法學者ハ罪体ノ意味ヲ誤解シテ



手段ノ没収スヘカラサルヲテ説ケリ  
 次キニ物件ナラサルヘカラス余此ノ講壇上ニ在ル本校所有ノ茶碗ヲ盗メハ其  
 手段ハ何ナリシヤ即手ナリ手ハ身体ノ一部ニシテ物件ニアラサレハ没収スル  
 不能ハス又狼褻罪ノ如キ其手段ハ何ナリヤ變的物ナリ此變的物ハ物件ニアラ  
 サレハ決シテ没収スル不能ハサルナリ  
 重罪輕罪ハ勿論違警罪ト雖モ犯罪ノ手段タル物件ハ皆没収スルナリ通行禁止  
 ノ場所ニ馬車ヲ馳リ入レタルカ如キ馬車ヲ没収スルトセハ主刑ヨリ付加刑ノ  
 方却テ重罪ナレハ過酷ニ流ル、ノ弊アルヲ以テ之カ解釋ニ付テ左ノ理由ヲナ  
 セリ  
 一ハ罪体ト罪体ニアラサルモノ、區別ニシテ例ヘハ發砲禁止ノ場所ニ放發セ  
 シキハ手即チ犯罪ノ手段ナレハ銃砲其物ヲ没収スルヲ得ス之ト異ニシテ若シ  
 獸獵禁止ノ場所ニ於テ銃獵セシキハ鐵砲ハ犯罪ノ手段ナレハ無論没収スルヲ  
 得ヘシ又馬車通行禁止ノ場所ヘ馬車ヲ驅リ入レタルカ如キハ御者ノ手カ即  
 犯罪ノ手段ニシテ馬車ハ手段ニアラス然レモ通行禁止ノ場所ヘ馬車ヲ驅リ入

レタルカ如キハ犯罪ノ手段タルモノ馬車ナレハ没収スルヲ得ヘシ  
 二ニ曰ク凡テ違警罪ニハ故意ヲ要セサル故ニ没収スルヲ得スト何トナレハ  
 犯罪ノ用ニ供シタルモノトノ解釋ニハ必ス故意ノ思想ヲ要セハナリ  
 右ノ違警罪ニハ故意ヲ要セストノ論ハ不可ナラン何トナレハ過失ヲ罰スル  
 多クレハトテ必スシモ無意犯ノ律ナリト云フ可ラス彼ノ重輕罪例ニ過失即チ  
 無意ニテ人ヲ殺スモ若クハ火ヲ失スルモ同ク罰スルニアラスヤ違警罪ニハ此  
 過失ヲ罰スルノ類多キノミ豈ニ他ノ例ト異ナランヤ  
 第三 犯罪ニ因テ得タル物件トハ犯罪ノ所爲ニ因テ収獲若クハ産出セル物件  
 ナリ例ヘハ此「ランブ」チ盜ムキハ此「ランブ」カ即チ犯罪ニ因テ得タル物件ナリ而  
 シテ其物件トハ必ス確定物ニシテ流通ノ性質ナシ且ツ直接ニ犯罪ノ所爲ニ因  
 テ得タルモノナラサルヘカラス他人ノ物品ヲ賣却シテ得タル利得ノ如キハ犯  
 罪ノ所爲ノ間接ノ結果即賣買ニ因テ得タルモノナリ此利得ヲ以テ商業ノ資本  
 トシ莫大ノ利潤ヲ得ルヲアルモ此レ商業ノ結果ニシテ犯罪ノ所爲ノ直接ノ利  
 得ニアラサルナリ故ニ此等ハ没収スル不能ハサルナリ



貨幣ハ世界ノ融通物ニシテ確定ノ性質ヲ帶ヒサルモノナレハ沒収スルコト能ハ  
 ズ然シナカラ近來迄ハ我國ニ於テ之ヲ贓品中ニ列セリ之ヨリ生スル奇怪ナル  
 結果ノ一例ヲ舉クレハ竊盜アリ甲家ニテ五圓札乙家ニテ二圓札丙家ニテ一圓  
 札ヲ竊取セシキ犯人三圓丈ヲ消費シタルキハ如何殘餘ノ五圓ハ甲ノ所有物ト  
 シテ其儘甲へ還付スヘキヤ否甲乙丙ノ被害者ハ平等ニ配當スヘキナリ  
 以上講述セシ三種ノ物件ヲ何故沒収スルナルヤ  
 一ニ曰ク危險ナリ社會ノ害ヲ爲セハナリト例へハ人ヲ刺殺セシ出刃庖丁ノ如  
 キ之ヲ沒収セサレハ再犯ノ恐レアリト  
 二ニ曰ク沒収ハ犯人ヲシテ痛苦ヲ感セシムル爲メナリト故ニ毎ニ犯人所有ノ  
 物件ナラサルヘカラス法律ノ禁制物トハ其性質異ナレハ何人ノ所有ト雖モ沒  
 収スルヲ得トハ云フヘカラサルナリ  
 三ニ曰ク自己ノ不正ニ由リ利得ヲ得ルコト能ハストノ理由ニシテ犯人ヲシテ犯  
 罪ニ由リ得タル利益ヲ私セシメサルナリ但シ所有主アルキハ所有主ニ返還ス  
 ヘク所有ナキキ政府ニ沒収スルナリト

是等ノ理由ハ未ダ沒収ノ性質ヲ盡サ、ルノミナラス却テ無用ノ解釋ナリト云  
 フヘシ

法律ノ禁制物ヲ沒収スルノ規定ハ無用ナリ例へハ大倉組ニ於テ官許ヲ得テ爆  
 烈彈ヲ販賣スルニ竊盜之ヲ奪ヒ政府又之ヲ沒収スルトハ過酷ナラスヤ且ツ之  
 ナ總則ニ規定スルハ不可ナリ唯之ヲ禁制セシ法律規則違反ノ制裁トシテ沒収  
 スレハ十分ナリ他ノ法律規則ノ爲メニ別ニ此ノ一項ヲ刑法中而カモ總則ニ規  
 定スルハ奇ナラスヤ尙ホ大不都合ナルハ大倉組ノ被盜品ニ向テ犯人ニ沒収ス  
 ルノ宣告ヲナスノミナラス利害ノ關係ヲキ犯人ハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ルモ  
 被害者タル大倉組ハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス尙ホ一步ヲ進メテ禁制物ハ付加  
 刑トシテ沒収スルニ及ハス己ニ人民ノ所有スルヲ得サルモノナレハ所有權ヲ  
 キヤ明ナリ無主物ハ當然政府ノ手ニ歸スヘシ故ニ路傍ニダイトナマイトアルキ  
 ハ遺失品トシテ行政上ノ處分ニ任スヘシ何ソ司法上ノ目的トスルニ及ハソヤ  
 犯罪ノ用ニ供シタル物件ヲ沒収スルモ無益ナリ例へハ刺客ノ用ニシタル菜刀絞  
 殺ニ供シタル手拭若シハ繩ヲ沒収スル如キ何ノ効アラソ手拭繩ノ如キ世間其



類多クレハ一ヲ没スルモ尙ホ他ノ一ヲ以テ再犯ヲナスヲ得ヘシ且ツ犯人ニシテ無期徒刑若クハ死刑ニ處セラレタル如キ何ソ再犯ノ虞アラシヤ赤兒ノ如キハ他ニ代用ノ便アルヲ知ラサル故ニ阿母ノ手ヨリ剃刀ヲ取り上クレハ實際危険ナカラン野郎ニ向テ此赤兒同様ノ取締ヲ施サントスルハ笑フニ堪ヘタリ此議論ハ所謂剃刀主義ナリ

英國ニ於テモ此ノ如キ例ハ今日コソ廢セラレタルモ古代ニ於テハ往々見ル所ナリ併シ其理由トスル所ハ汚レタリトノ宗教上ノ觀念ヨリ來リシナリ一口ニ申セハ野蠻風ノ思想即チ畜生目此ノ刀ガ人ヲ殺セシカトノ感情ニ基セシモノニテ米國有名ノ法學者ホームズ氏ノ没収論ニ曰ク此レ論理ヨリ生セシニアラズ唯吾人カ物件ヲ憎惡スルノ点ヨリ出ツト例ヘハ吾人ノ戸扉ニ指ヲ閉チラレタルヲ知ラス識ラス打チ返スト同ジク古禪ニテ人ヲ絞殺セシキ此ノ禪ヲ惡ムノ感情ト一般ナレハ之ヲ犢鼻褌主義ト云ハシ

犯罪ニ因テ得タル物件ヲ没収スルニ方リ犯人ニ向テ宣告スルモ所有主アレハ無論還付スヘク宣告ノ當時所有主知レスシテ一年ヲ經過シタル後飄然出テ來

リ彼ノ物件ハ自分ノ所有物ナリト云フキハ如何斯ノ如キ場合ニモ矢張還付スヘキナリ故ニ其判決ノ確否ハ數年後ニアラサレハ知ルヲ能ハサル例多シ數々述フルカ如ク行政上ノ處措ニ任セハ此ノ不細工ハアラサルナリ余ヲ以テ見レハ第一第二ノ原則ハ徒法モナキ徒法ナリト評シ去ルヘシ

日本刑法ニ禁制物ヲ没収スルノ沿革ハ源チ佛國法律ニ汲ムモ今日ノ規定ハ伊太利刑法ト全ク同一ナリ獨逸ノ如キハ一步ヲ進メテ犯人ノ所有ニ限リテ適用シ何人ノ所有ヲ問ハス云々ノ如キ不條理ハアラズ最モ近來ノ和蘭刑法草案ハ全ク之ヲ總則ヨリ排除シ刑典ニ掲ケサルニ至テハ學者ノ大ニ賞揚スル所ナルニ我國ノ某先生ハ或ハ之ヲ非難セシトナン英國モ各國ト同シク没収スルヲアルモ其理由ハ之ヲ沒収スル他ノ法律規則ナルヲ以テノ故ニシテ敢テ刑法ノ總則ニ憑據スルニハアラサルナリ

### 名譽刑

各譽刑ニ二種アリ一ハ己ニ有スル權利ヲ剝奪或ハ停止スルト他ノ一ハ新ニ恥



辱ヲ與ヘテ不名譽ヲ感セシムル是ナリ今日モ此第一種ノ權利ヲ剝奪スルノ刑ハ依然トシテ存スルモ恥辱ヲ與フルノ刑ハ種々ノ弊害アルヨリ已ニ各國ノ採用セサル所トナレリ但シ野蠻時代例ヘハ我徳川氏覇業ノ盛ナル時ニ於テ大ニ用サレタル黥墨劓刑及ヒ引キ廻シノ如キ或ハ是等ノ遺孽トシテ今日行ハル、新聞廣告ノ如キ尙一層奇異ナルハ標榜シテ犯罪ヲ公示スルカ如キ皆第二種ノ刑ナリ儲何等ノ必要アリテ公告スルヤヲ尋ヌルニ犯罪人ニ恥辱ヲ與ヘテ道徳上其罪惡ヲ賠償セシムルノ目的ナリ

榜示公告ノ刑ハ一聽其不都合ナルヲ知ル此法ハ犯罪ノ有様ヲ世人ニ知ラフルヲナレトモ其性質殆ト身體刑ト同シク犯罪人ニシテ恥辱ヲ知り廉耻ヲ重スルノ人ナラシメハ却テ自棄ニ陥ラン例ヘハ諸君ニシテ如何ナル風ノ吹キ廻シニテアリシカ不圖艶聞事件ニ浮名ヲ隅田ノ川上ニ流シ夫婦氣取りニテ吾妻橋下ニ漂フ折柄相當ノ刑ヲ受ケ此榜示ノ法ヲ行ハル、昔ハ普通ノ感情トシテ他日世ニ出ルモ何トナク厭シク天高キニ尙闊ミ地厚キニ尙ホ踏スルノ極ハ反動ノ爲メ却テ大ナル弊害ヲ醸生スルニ至ルモ知ルヘカラサラン然レトモ或ハ曰ク專賣

商標偽造罪ノ如キニ至リテハ此法ヲ行フモ可ナリト論スル學者アレトモ採ルニ足ラサルナリ成程皮想ノ見ヲ以テスレハ好案ナルニ似タレトモ此ノ如キ刑ヲ明許スルハ立法官ノ度量ノ狭少ナルヲ公衆ニ披露スルニ均シ何トナレハ一度刑ニ處セラレタルモノヲシテ尙赤耻ヲ世上ニ曝ラサシメントスル何ソ立法官ノ根ツコキヤ而シテ實際ニ之ヲ行ハントスレハ新聞紙ナトニ裁判宣告ノ拔萃ヲ登載セサル可ラス果シテ然ラハ新聞屋カ刑ノ執行ノ取次ヲナスニアラスヤ之レ不都合ノ甚シキアルノミナラス尙ホ其費用ト手数トヲ要スルノ損耗アリ耻辱ヲ與フルノ刑ハ今日下火ニ屬セシト雖モ公權ヲ剝奪スルノ刑ハ方サニ燃ヘ盛リナリ我刑法ノ第三十一條ニ規定スル公權是ナリ此九項ハ「ユニツト」即チ單位トセラル、故ニ同時ニ此等諸種ノ權利ヲ悉皆剝奪スルナリ此規定ニ付テハ學者ノ是非スル處ニテ或ハ曰ク宜ク分割シテ以テ國事犯者ニハ參政權ヲ奪ヒ竊盜犯者ニハ後見人トナルノ權ヲ剝削シカ如クナサハ適當ナルニ非スヤト剝奪スヘキ九種ノ公權ハ左ノ如シ

一、國民ノ特權 本項ハ參政權ノ謂ニシテ往々諸君ノ心中ニ願望スル彼ノ帝國



議會ノ議員若クハ市町村會ノ議員トナリテ政治ニ參與スルノ權ナリ國民トハ一ノ政治社會ヲ基礎トシテ云ヒタル比喩的ノ言ニシテ社會上ノ權利ノ如キ空漠タルモノハ國民ノ特權ニ非ルナリ我國ニ於ケル參政權ハ日本國民ニ非サルヨリハ參與スルヲ能ハサル故ニ特筆大書シテ以テ公權ノ首位ニ置ケリ土地所有權結婚自由權及ヒ營業自由權ノ如キハ何國人ニ於テモ自在ニ享有シ得ヘキ社會權ニシテ決シテ某國某人ノ特有權ニアラザレハ國民ノ特權ト云ハサルナリ但シ我國ニ於テ外國人ニ土地ノ所有ヲ禁スルハ條約ニ因リ生セシ結果ニシテ我國人ノミ享クル特權上ヨリ來ルニハ非ルナリ

二、官吏トナルノ權 帝國憲法第二章臣民ノ權利義務篇ニ明カニ日本人ハ公務ニ就クノ權ヲ有セリトアリ此ノ權利ハ國民ノ特權(參政權)トハ性質上大ニ異レリ然ルニ或學者バ曰ク官吏トナルノ權モ國民ノ特權ノ一部ナレトモ特權中ノ特權ナレハ特ニ掲ケ出セシナリト實ニ馬鹿下駄吐キ間違ト云フヘシ何トナレハ國ト官トハ同一物ニアラス官吏ハ國家ノ奴隸(奴隸トハ少々酷ナレトモ)天皇陛下ノ御門番ナリ參政權トハ唯、口拍子ニ唱フルスラ滑カニシテ官吏ノ如

キ下<sup>カ</sup>卑<sup>ビ</sup>タルモノニアラス國家ノ權例ヘハ立法權ナトニ關與スルノ特權ナリ參政權及ヒ官吏トナルノ權ハ諸君ノ共ニ有スル所ナリ併シ權利ト云ヘハ語弊アリ宜シク能力ト云フヲ穩當ナリトス何トナレハ諸君ニ於テハ今總理大臣タラントナ政府ニ申請スルモ省セラレサルヘシ裁判所ヘ此救正ヲ訴ヘ權利ノ伸張ヲ計ラントスルモ同シク受理セラレサルヘシ是レ權利ヲ有セサルノ明證ナラスヤ然リト雖<sup>レ</sup>諸君ニ於テ年齡其他ノ條件ヲ具ヘ認可試驗ヲ受ケタルモノナラハ高等官吏ナリトモ十二圓屬ナリトモ拜命シ得ラル、丈ケノ能力ヲハ有シ居ルナリ

三、勳章年金位記貴號恩給ヲ有スルノ權 此等ハ皆國家ヨリ付與セシモノナレハ或ル犯罪ニ因リテ剝奪スルヲ得ルナリ特ニ此類ノ的例ハ兵卒ニ多シ兵卒ハ皆勳八等以上ノ名譽ヲ有スルモ若シ竊盜テモヤレハ直ニ剝奪若クハ停止サレテ元ノ平人トナリ下ルナリ吳々モ申サンニ必ス國家ヨリ付與セシ權利ナラサルヘカラス今假リニ天爵大臣アリトセンニ此ハ剝奪スヘカラス又皇族ノ如キ其身分タル國家ヨリ付與セシモノニ非ラスシテ自然ノ血統上ノ一族ナレハ



剝奪スヘカラス諸君ノ胸中ニ滿々タル學力才氣ノ如キモ國家ヨリ付與セシモノニ非レハ剝奪スヘカラス特ニ名譽ナル專修學校々友ノ資格ノ如キモ無論剝奪スヘカラサルナリ

外國政府ヨリ與ヘタル勳章ノ剝奪スヘカラサルハ是レ外國政府ヲ尊敬スルカ爲メニ非ラス全ク一私人ノ授受ト同一ニ見認レハナリ吾人カ試ミニ勳一等章ナリトテ「ニツケル」標ヲ他人ニ付與シ他人之ヲ名譽トシ誇リ顔ニ佩用スルモ毫モ政府ノ關係セサル所ナレハ剝奪スヘキ限リニアラス西洋ニテハ實際私人ヘ依勳標ヲ付與シ名譽ヲ表彰セシムルコアルナリ町村ヨリ其町村ニ對シテ功勞アルモノニ頌德表若ハ名譽章ヲ贈ルカ如キ或ハ他町村人ニシテ我カ町村ニ功勞アルキハ我町村ノ公民タルノ資格ヲ與フルカ如キ種々ノ例アリ

四、外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權 前項ト同一ノ理由ニシテ佩用ノ權ハ我政府ノ付與セルモノナレハ無論剝奪スルコトヲ得ヘシ

五、兵籍ニ入ルノ權 我カ憲法ニ日本臣民ハ兵役ニ就クノ義務アリトシ此刑法ニハ兵籍ニ入ルノ權トセリ畢竟公義務ハ公權利ナレハ權利モ義務モ其性質ニ

於テハ異同アラサルナリ例ヘハ裁判スルノ權利アル司法官ハ又裁判ヲ爲サ、ル可ラサルノ義務アルカ如シ諸君ハ兵籍ニ入ルノ權ヲ有シ又義務ヲ有セリ

六、裁判所ニ於テ證人トナルノ權 本項ノ規定ニ就テハ學者間ニ議論アリ先ツ普通ノ思想ニ由レハ盜犯或ハ詐欺犯タル人ノ如キハ證人トスル程ノ信用ナケレハ不信用ノ人ノ彼ハ盜セリ姦セリ何日何時現場ヲ實見シタリト申立ツルモ採用スルコト能ハサルヘシト然リト雖モ又他方ヨリ考フレハ事實ノ觀想ハ當事者ヨリ嚴ナルハナシ蛇ノ道ハ蛇ノ譬ノ如ク犯罪人ハ犯罪人ノ事情ニ通スルヲ以テ却テ良好ナル證人ナラスヤ去レトモ此ニハ被告人ニ取リテ大ナル迷惑ヲ來スノ一事アリ犯罪人ハ最早自己ノ責任ヲ以テ證人トナラス出放題出鱈目ヲ以テ證人トナルナリ例ヘハ法廷ニ於テ不實ノ証言ヲナスキハ偽証罪トシテ處分セラル、ハ普通ナリ然ルニ無期刑ノ囚徒ノ如キハ如何程偽証スルモ無期ヨリ重刑ニ處セラル、コナキヲ以テ何ノ感知モナク偽証ヲ以テ却テ功名手柄トスルニ至ル故ニ被告人ニシテ此輩ノ偽言ノ爲メ罪ニ陷ラル、コアラフ何トナレハ証言ニアレ証據物件ニアレ証トシテ採用スヘク以テ裁判官ノ心証ヲ動ス



ニ足ルモノナレハ其量ノ大小ヲ問ハス罪ヲ斷スルノ材料トナルナレハ無責任ナル犯人ノ偽証ノ爲メ思ハサル仕置ヲ受クルコトアラン之ヲ以テ被告人ヨリ見レハ譬ヒ偽証セサルニセヨ囚徒ノ証人トハ感覺ノ良カラヌ話ナリ併シ宣誓ヲ以テ証人トスルニアラス單ニ事實參考人トシテ陳述セシメルハ此限ニアラス既ニ參考人ナレハ其陳述ニ付テ証トシテ採用スヘキヤ否ヤハ全ク裁判官ノ良心ニ一任スルヲ以テナリ

七、後見人トナルノ權 後見人ハ信用ヲ要スルモノナルニ重罪犯ニ處セラレタルモノ、如キハ信用ヲ置クニ足ラストシテ之ヲ剝奪スルナリ但シ親屬ノ許可ヲ得テ子孫ノ爲メニスルハ此限ニアラス

八、分散者ノ管財人トナリ又ハ會社及ヒ共有財産ヲ管現スルノ權 前項ト同一ノ理由ナリ管財人ニ付テハ種々ノ議論アレトモ今日ハ講セサルヘシ

九、學校長及ヒ教師學監トナルノ權 本項ノ規定ハ人ヲ教フルコトヲ禁スルニアラス此等ノ地位ニ立ツ權ヲ剝奪スルナリ故ニ余ニ於テ若シ本項ノ規定ニ束縛セラレ、コトモアリナハ刑法ノ講議モ直ニ止メサル可ラサルナリ

### 停止公權

我刑法ニ停止公權ハ附加刑トシテ重罪犯者ハ宣告セサルモ當然終身間以上九項ノ諸權利ヲ行フコトヲ禁セラル、ナリ

禁錮ニ處セラレタルモノハ別ニ宣告ヲ用サズ現任ノ官職ヲ失ヒ刑期間ハ公權ヲ行フコトヲ停止スト立派ニ掲ケアルモノ云ハスト知レタ事ナリ何トナレハ囚徒ノ朱袈裟ノ上ヘヨモヤ勳章ヲ佩用スルカ如キ痴漢アラシヤ

停止トハ權利ヲ剝奪スルニ非スシテ其能力ヲ行フコトヲ停止スルノ謂ナリ

### 禁治産

禁治産ト云ヒ治産禁ト云ヒ同一ノ意味ニシテ賣買讓與ヲ爲スノ私權ヲ行フコトヲ禁スルナリ獄中ニ在リテ賣買ノ所爲ハ實際行フ能ハサルモ讓與ノ所爲例ヘハ囚徒ヨリ囚徒ヘ物品ヲ贈ルカ如キモ之ヲ禁スルノ意カ否然ラス其意味スル所ハ唯公債若クハ株式賣買ノ如キ相場ハ行フ可ラサルヲ示スモノニシテ後見

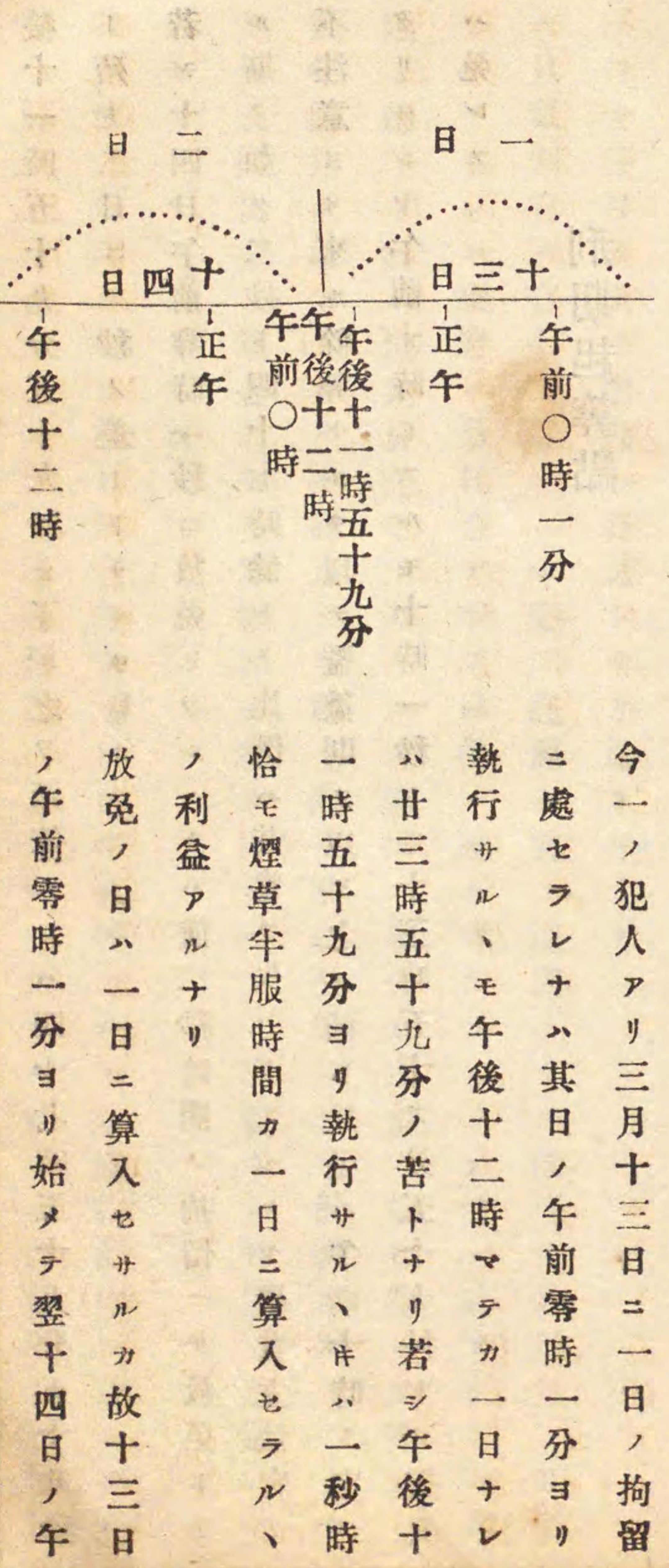


人ヲシテ其私産ヲ處分セシムルカ如キハ敢テ問フ所ニアラサルナリ  
 重罪犯者ハ主刑ノ終ル迄停止サル、モ假出獄ノ場合ニハ幾分ヲ免ゼラル、ナ  
 リ

刑期計算

刑法上一月ト稱スルハ三十日ニシテ二十八日二十九日三十日卅一日等ノ如ク  
 數様ノ區別ヲ爲スヲ許サス之ニ反シテ一年ト稱スルハ全ク曆法ニ從ヒ平年潤  
 年ノ區別ヲ立ツルヲ許サ、ルナリ故ニ今日即三月十三日一年ノ禁錮ニ處セラ  
 レタルキハ來年ノ三月十三日ヲ以テ滿期放免トシ以テ其三百六十五日ナルヤ  
 又ハ三百六十六日ナルヤハ毫モ間ハサルナリ又一月ハ三十日ナレハ三月ノ禁  
 錮ニ處セラレタルモノ第一月ハ三十一日ナレハ一日ヲ減スヘク第二月ハ二十  
 八日ナレハ二日ヲ増シ斯ノ如クシテ以テ通計三月九日ヲ算スヘキナリ  
 月ト年トノ規定ハ聞ユレトモ一日ハ二十四時ナリトノコトハ蛇足ナリ若シ斯ノ  
 如ク精密ニ曆法ヲ登載スルナレハ宜シク一時ハ六十分ナリ一分ハ六十秒ナリ

一圓ハ百錢ナリ一錢ハ十厘ナリト掲ケサル可ラス但シ西洋ニ於テハ此規定ノ  
 必要アルヲ見ル何トナレハ或刑期ハ時ヲ以テ計算スレハナリ例ヘハ今日午前  
 八時ヲ一日ノ拘留ニ處セラレハ明日ノ午前八時ニ放免セラル我刑法ハ然ラス  
 シテ受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス一日ニ算入シ放免ノ日ハ刑期ニ算入セサルモ  
 ノトス(四十九條二項)之ヨリ生スル奇怪ナル結果ハ左圖ノ如シ



刑法



後十一時五十九分五十九秒ニ了ル之ヲ通算スレハ四十七時五十九分五十八秒  
一殆ト二日ニ二秒ノ差トナルヲ見ル  
若シ十四日午前零時一秒ニ放免セラレ、キハ僅二秒時間ノ拘留ニテ放免トナ  
ルスノ如ク二秒ト四十七時餘トノ比例ハ其當ヲ失ハサルヘキヤ畢竟立法官ノ  
不注意ヨリ來ル餘弊ナルヲ以テ監獄則チ以テ之ヲ補ヒ放免ハ午前十時ト定メ  
タリヨシヤ午前十時トスルモ十時一秒ト二十三時五十九分五十九秒トノ差異  
ハ免レヌ

### 刑期起算點

刑期ノ起算ニ二法アリ一ハ裁判宣告ノ日ヨリシ一ハ裁判列確定ノ日ヨリス但シ  
何レモ確定裁判ナラサルヘカラス例ヘハ禁錮ヲ申渡サレタルモノアルモ三日  
間ノ上訴期限アレハ此期限ヲ經過セサル内ハ未タ裁判ハ確定セサルナリ之ヲ  
以テ學理上ヨリ論スルキハ常ニ裁判確定ノ日ヨリ起算スヘシシテ刑名宣告ノ  
日ヨリ起算スルハ寧ロ變例ニ屬スルモノト云ハサルヘカラス然ルニ我刑法ニ

於テハ此變例ヲ採用セリ蓋シ立法官ハ刑期ノ重キニ從ハシヨリ輕ニ失セヨト  
ノ慈惠主義ニ從ヒシナラン故ニ裁判ニシテ確定セハ宣告ノ日ニ遡リテ刑期ノ  
計算ヲ始ムルナリ

刑期ヲ計算スルニハ例ヘハ三年ノ宣告アレハ申渡ノ日ヨリ三年ノ期限ハ引續  
キ刑期ト云フ故ニ廿二年三月十三日ニ三年ノ禁錮ノ申渡ヲ受クレハ二十五年  
三月十三日ニ至リ刑期ハ終尾トナリ過クルナリ

一旦裁判官カ宣告シ了レハ年限ノ經過ト共ニ滿期トナル故可成的早急ニ服役  
セシメサレハ政府ノ損耗否テ刑ノ目的ヲ達ス可カラサラン併シ時トシテハ年  
限ノ終了ト共ニ滿期放免トナサ、ルノ例アリ被告人逃走ノ場合等ニテ若シ  
數年間逃ケ延ヒタル片ハ遁走ノ日數ヲ除キ前後受刑ノ日ヲ計算スルナリ(五十  
二條)又假出獄ノ場合ニモ重罪輕罪ヲ犯シタルモノハ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算  
入セサルナリ(五十六條)  
我刑法ノ規定ニ從ヒ縱ヒ刑名宣告ノ日ヨリ計算スルモ未決拘留中ハ決シテ刑  
期ニ算入スヘカラサルナリ諸君諸君ニアラサル人ナル彼ノ窃盜犯者カ三年間



未決檻ニ拘留セラレテ漸ク一年間ノ宣告ヲ受ケタルキト實ニ殺生ナル仕打ナルモ政府ノ都合ナレハ仕方モナシ尙一層酷ドキハ五六年間モ未決囚トナリ居テ終ニ一ノ證據ノ徴ス可キナク免訴トナリタル曉キ程ツマラスハナシ犯人上訴シテ上訴ニ勝テ得タルキハ前判ハ裁判官ノ過誤失策ヨリ來リシモノト見做スカ故ニ犯人ノ利益ノ爲メ前判宣告ノ日ヨリ刑期中ニ計算ス例ハ予カ被告人ニ向テ三年ノ刑ヲ言渡シタルニ犯人上訴シ大審院ハ江木ノ裁判ハ不當ナリトシテ破毀シ更ニ二年ノ刑ヲ宣告スルキ此ノ宣告當日ヲ以テ刑ノ起算點トスルハ學理上正當ナルモ實際ハ犯人ニ取リテ不利ナル故予ノ裁判セシ日ヨリ刑期ハ依然繼續シテ流過ストナス是レ上訴ノ正當ナリタルキニ限ル一ノ恩典ナリト云フヘシ

又被告人ノ願下ケ例ヘハ大審院へ上訴セシニ上訴中不利ノ廉アルヲ發見シ願下チナシタル場合ニハ如何ト云フニ理論上願下ケノ時ヨリ裁判確定スルヲ以テ此時ヨリ起算スルヲ正當トスレモ上訴中ノ未決勾留ヲ以テ刑期ニ算入スルヲ本則ナリト信スル學者達ニ於テハ矢張前判宣告ノ日ヨリ起算スルモノナリ

トスルニ至ルヘシ

上訴ニハ檢察官ノ上訴及ヒ被告人ノ上訴アリ被告人ハ或ル一ノ宣告ヲ以テ十分ナリト満足スルモ檢事ニ於テ不服ナリトシ上訴スルキハ其申分ノ正當ナルト否ラサルトナ問ハス前判ノ日ヨリ起算スルモノトス何トナレハ被告人自己ノ所爲ニアラスシテ檢察官一己ノ所爲ヨリ來ルモノト見做セハナリ

上訴中保釋ヲ得又ハ責付セラレタル者ハ無論未決中ナルモ拘留スルヲナキヲ以テ刑期ニ算入スヘキ拘留日數アルヲナシ故ニ其日數ヲ刑期ニ算入スルヲナキハ當然ナリ

### 刑ノ適用及ヒ消滅

上來講述セシ所ニテ漸ク犯罪及ヒ刑罰ノ何物タルヤヲ知レリ今ヤ一步ヲ進メテ刑ノ適用及消滅ニ論及スヘシ

刑ノ適用トハ即チ刑ニシテ及フ區域ヲ云フモノニシテ刑法ノ管轄ニ外ナラス而シテ其管轄ヲ定ムルニ四個ノ要點アリ時、所、人、事、是レナリ



時ニ關スル刑法ノ効力

刑法ハ何時ヨリ其効力ヲ有スルヤ蓋シ刑法ナルモノハ公ニ頒布スヘキヲ要シ尙ホ特別ノ法律アリテ其頒布後直ニ効力ヲ有スルトノ規定アラサル以上ハ通常施行期限ナルモノアリテ期限ノ至ル迄ハ其効力ヲ停止セサルヘカラス古昔ノ學者曰ク刑法ハ一般人民ニ於テ知了シタル當時ヨリ始メテ効力ヲ有スヘキハ原則ナリト雖其ノ果シテ一般人民カ知了シタルヤ否ヤヲ定ムルト困難ナルヲ以テ法律ハ一ノ推測ヲ設ケ施行期限ヲ經過シタル以上ハ一般人民ハ既ニ知了シタルモノト見做ス故ニ法律ノ不識ハ以テ犯罪ノ責任ヲ免ルノ理由トスルヲ得スト此ノ説タル淺薄ニシテ決シテ從フヘキニアラサルナリ若シ果シテ一旦頒布シタル以上ハ一般人民知了シ得ルモノト假認スルモ尙ホ奇怪ナル結果ヲ生スヘシ何トナレハ中央政府所在地ノ人民ハ直チニ知了シ得ルモ施行期限迄ハ之ニ背反シテ何ノ制裁ナク而シテ地方人民ハ之ヲ知ルト前者ニ比スレハ遲キト通常ナルヲ以テノ故ニ今日ハ東京ニ行ハレ明日ハ大坂明後日

ハ九州ニ至リテ効力ヲ生ストノ如ク刑法旅行ノ里數即チ速力ヲ計算スルノ愚チ學ハサルヘカラス而シテ若シ大井川ニ洪水ニテモアル片ハ刑法ハ島田驛ニ泊セサルヘカラス豈ニ此ノ如キ不理アラシヤ故ニ一旦法律ノ頒布アリテ施行期限ヲ經過シタル以上ハ人民ノ之ヲ知了セルト否トニ關セス直ニ之ヲ適用スヘシ何トナレハ施行期限ヲ經過スルトハ法律自身ニ効力ヲ生スルノ條件ニシテ人民ノ知リ得ルトチ推測スル爲メニアラサレハナリ若シ人民ノ知リ得ル爲メニ設ケシモノトセハ現ニ法律ヲ識ラサルトノ確乎タル證據アリテ此推測ヲ覆スニ足ルニ於テハ犯者ハ責任ヲ免レ得ルニ至ラン此レ余ノ諸君ニ對シテ最モ注意ヲ促ス點ナリトス

刑法ノ致反効

學者ノ説ニ從ヘハ法ハ已往ニ遡ルノ効力ナシト云ヘトモ必スシモ之レ原則ニハアラサルナリ唯其疑ハシキ場合ニハ已得ノ權ヲ害スヘカラストノ解釋上ノ規則ニ過キス故ニ治罪法、訴訟法ノ如キ其効力ヲ已往ニ及ホスモ已得ノ權ヲ害



スルモノニアラサルヲ以テ勿論已往ニ派リテ法律ノ効力ヲ有スヘシ又立法官ニ於テ法律ノ効力ハ已往ニ及フト規定セハ一モナク二モナク及フヘシ我刑法ニ法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ストアルヨリ考フルキハ犯罪以外ニ属スル事柄ニ至リテハ法律ハ既往ニ及フモ妨ケナキ旨ヲ示セルモノニシテ第三條ノ規定ハ我刑法中稀ニ見ル手際ナリ但シ一ノ非難ヲ容ルヘキハ頒布以前ナル文字ハ効力ヲ有スル以前トノ文字ニ修正シタキナリ尙ホ第二項ニハ舊法ニ比シテ新法輕キキハ已往ニ及ホシ得ルヲ規定セルニアラスヤ今左ニ新舊法適用ニ關スル規則ヲ説明スヘシ

第一則 犯罪ハ其犯罪ヲ行フ當時ニ在テ効力ヲ有スル所ノ法律ニ對シテ其當時ニ成立スルモノニシテ裁判々決ヲ待テ始メテ成立スヘキモノニアラサルナリ故ニ一ノ所爲ノ罪トナルニハ法ナル相手ニ照シテ知ルヲ得ルモノニテ犯罪ト法律トノ時ノ關係ニハ凡テ一ノ犯罪ハ所爲ノ當時ニ有効ナル法律ニ由テ成立スルモノナリ之レ當然ナルヲニシテ假ヘハ今日竊盜スルモノハ懲役ニ處スルトノ法アルキハ今日ノ竊盜ハ今日ノ法ニ因テ罪トナルモノニシテ明日ノ

法ニ因テ斷セラレハニアラサルナリ此ノ原則タル條理明晰ニシテ一ノ疑ヲ容ルヘキ餘地ナシ何トナレハ所爲ノ終リタル後ニ發セラレタル法ヲ以テ罰スルトセハ即チ既得權ヲ害スルモノナルヲ以テナリ而シテ此原則ヨリ別ニ一ノ原則ヲ生スルナリ

第二則 第一則ト正ニ反對ニシテ犯罪ヲ行フ當時ノ法律ニ由リテ犯罪トナルヘキ所爲ナレハ其所爲タル勿論一ノ犯罪ヲ成立スルモノナリ例ヘハ舊法時代ニハ下宿屋ノ下女ト和姦シタルモノヲ罰セシモノト假定セシニ其後ニ新法ノ頒布アリテ此ノ如キ承諾上ノ所爲ハ罪トナラスト規定スルヲアルモ苟モ一旦犯罪ナリト認タルモノハ無論法ヲ行ハサル可ラサルナリ然ルニ新法ノ之ヲ不問ニ措クハ之ヲ罰スルノ必要ナクシテ却テ罰スルノ害アルヲ以テノ故ニシテ決シテ被告人カ既得權ヲ得タルニハアラサルナリ

第三則 第二則ト同一ノ理由ニシテ唯複數ナルノミ即チ施行限期ヲ定メタル一時限ノ法律ニシテ其期限經過スルキハ其法ノ効力モ亦消滅スルモノナリ例ヘハ虎列刺病流行ノ時節ニ發スル豫防規則是レナリ今其規則ヲ見ルニ凡テ傳



染病發生ノ當時ニけるくびちくスル患者アルヲ知ルキハ國手モ藪醫モ共ニ之ヲ警察へ届出テサル可ラス若シ之ヲ怠ルキハ罪トナルヘシ然ルニ流行セサル當時ニ在テハ届出ルノ面倒モナク又必要モナシ其規則タル年カ年中依然トシテ存スルトモ其効力ハ終年繼續セサルナリ内務大臣一片ノ布令ニテ某所ヲ何日ヨリ何病流行地ト認ムトアリシ日ヨリ効力ヲ有スルモノニシテ隨テ此令ヲ解キシ日ヨリ該規則モ効力ヲ失フナリ故ニ假ニ該規則施行期限ハ七月ヨリ九月迄ナリトセハ其期限中ニ背キタルモノト雖モ十月ニ至レハ最早之ヲ罰セサルヲ穩當ナリトス何トナレハ第二ノ原則ノ示ス如ク罰スルノ必要ナケレハナリ然ルニ數年前ニ於テハ此等ノ原則ヲ知ラサリシモノト見ヘ罪セシ役人モアレハ又罰セラレシ鈍馬モアリシ

第四則 舊法ニ於テモ犯罪トナリ新法ニ於テモ亦犯罪トナリ而シテ新舊ノ刑ニ輕重ノ別アリテ未ダ判決ヲ歷サルノ場合ニハ新舊ノ法ヲ比照シテ輕キニ從フテ斷處スト云ヘル原則ニ包用サル五個ノ小原則アリ

一 刑法ニ數次ノ改正アリタルキハ舊法ノ施行ノ當時成立セル犯罪ヲ罰スル

ニハ新法ニ比較シ該法律中最モ輕キ刑ヲ適用スルナリ例ヘハ甲乙丙ノ刑法時代アリタルキ甲時代ノ犯罪カ丙時代ニ至リテ發見スルキハ其三者中最モ輕キ刑期ニ中ル罰ヲ科スルナリ之レ唯法律ノ恩典ニ出タルニ過キスシテ學理上衡平ト云フヘカラサルナリ夫レ然リ一ノ犯罪ニシテ第一ノ法律ニ從ヘハ八年ノ刑ニ相當シ第二ノ法ニテハ四年第三ノ法ニテハ六年ニ該當スルモノヲ其輕キニ從フキハ第二ノ法律ヲ適用シテ四年ヲ科セサルヘカラス去レトモ社會ニ於テハ尙六年ニ科セサル可ラサルノ必要アルヲ以テ宜ク犯罪成立當時ノ法律ト現行ノ法律トヲ比照シテ定メサルヘカラサルナリ之ヲ要スルニ刑法ノ改正毎ニ刑期短縮スルキハ罰スルノ必要減少スルノ徴ナレトモ之ニ反シテ改正毎ニ刑期永クナルキハ罰スルノ必要愈多キ證ナリト知ルヘシ

前者ノ場合ニ於テ中間ノ時代ニ逮捕セラレ處刑ヲ受ケタルキハ四年ニテ可ナレトモ不幸ニシテ現行法時代ニ捕ヘラレ六年ニ科セラル、モ決メテ四年ノ處刑ヲ受クル既得權ヲ害セラレタリト云フヘカラス故ニ純理上ヨリ論スルキハ此場合ニモ犯罪成立當時ノ刑ヲ以テ處スルヲ最モ正當ナリトス



二 刑ノ輕重ハ法律全體ノ寬嚴ニ關セズ各犯罪事件ニ付キ新舊法ヲ比照シ其輕キニ從テ所斷スルモノトス

三 新舊ノ刑法ヲ比照スルニ方リ刑期ニ範圍アルキハ往々繁雜ヲ來タスヲ免レスト雖モ然レモ之ヲ比照スルニ左迄困難ニアラス例ヘハ舊法ニ因リテ窃盜スルモノ五年ノ懲役ナルニ新法ニヨリテ二年以上五年以下ノ禁錮ニ相當スルキハ二年以上五年以下ノ範圍内ニテ罰スヘシ此ノ如ク都ヘテ其長短期ノ輕キ者ヲ取リテ相對照シ以テ定ムヘキナリ

四 刑名ニハ新舊法相異ナル所アルモ其犯罪ニ由リ各々之ニ相當スル新舊法ヲ比較シテ適當ノ刑ヲ適用セハ可ナリ

五 新舊法ヲ比照スルニハ各犯罪ニ相當スル刑ヲ比照スルノミナラス期滿免除宥恕減輕ノ期限等モ亦之ヲ比照セサルヘカサルナリ

土地ニ關スル刑法ノ管轄

場所ニ關スル刑法ノ管轄ヲ論スルニハ其區別種々アリ即チ内國ニ於テノ管轄

アリ外國内ニ於テノ管轄アリ國外ニ於テノ管轄アリ逐次之ヲ述フヘシ

内國ニ於ケル刑法ノ管轄

凡ソ獨立國ノ封土内ニ於テ罪科ヲ犯スモノアレハ其内外人タルヲ問ハス之ヲ處罰シ得ヘキハ今日各國ノ認ムル所ニシテ犯罪ノ地ハ犯罪ノ管轄ナリトノ確言ノ由來スル所以ナリ之ヲ刑法ノ属地主義ト云フ

然リ而シテ犯罪ノ地トハ如何ナル場所ヲ包含スルヤハ一朝一夕ノ談ニアラサルヲ以テ他日治罪法ヲ講スルキニ於テ詳述スルノ期アルヘシ

外國ニ於ケル刑法ノ管轄

本節ヲ論スルニハ便宜ノ爲メ左ノ二項ニ區分スヘシ

甲 外國ニ於テ本國人ノ犯シタル犯罪

乙 外國ニ於テ外國人ノ犯シタル犯罪

(甲) 凡テ日本人タルモノハ帝國在留中我刑法ニ服從スルノ義務アルノミナラス



尙ホ身分上ノ關係ヨリシテ外國滞在ノ中ト雖モ我刑法ニ服從スルノ義務アル  
 モトス故ニ我國人ニシテ若シ外國ニ於テ盜罪ヲ犯スルハ我能ク之ヲ罰スル  
 一ヲ得ルナリ之ヲ刑法管轄ノ屬人主義ト云フ  
 抑モ政府ノ銳意ニシテ犯罪人ヲ罰スル所以ノモノハ犯罪地ノ安寧ヲ害スルヲ  
 以テナリ故ニ日本内國ノ犯罪ハ英國ニ於テ何ノ痛痒モ感セサルカ如ク英國内  
 ノ犯罪モ亦我レニ何ノ關係ナキナリ宜ク外國ニ於テノ犯罪ハ干涉セサルヘキ  
 一江戸ツ子ノ火事見ノ如クナルヘシ煽リ立ツルトモ防火ノ用意ニ及ハサルナ  
 リ然ルニ屬人ナル主義ヲ以テ犯罪ヲ罰シ得ルハ外國ノ安寧秩序ヲ保護スル爲  
 メナルヤ否ナ決シテ然ラス獨立國ハ外國ノ安寧ヲ保護スルノ義務ナキノミナ  
 ラス之ヲ保護セントスルモ實際保護スル一能ハサルヘシ何トナレハ我國ノ警  
 察權ハ外國ニ於テ執行スル能ハサレハナリ若シ日本ノ巡查ヲ英國ニ派遣シテ  
 犯者ヲ搜索逮捕セシムルキハ其巡查コソ却テ英國ノ治安ヲ妨ケ主權ヲ害シタ  
 ルノ故ヲ以テ罰セラルヘシ政府ニシテ強テ該犯者ヲ罰スルニ熱心ナレハ欠席  
 判決ヲ行フヨリ他ニ良法アラサルナリ併シ太平洋ヲ隔タル英國在留人ニ刑ヲ

宣告スルトハ恐ラクハ正氣ノ沙汰ニアラザルベシ  
 如何ナル犯罪ハ屬人主義ニ因リテ之ヲ罰シ得ルヤハ各國ノ採ル政畧ニ於テ相  
 異リ決シテ同一轍ニ出テサルナリ現ニ英米佛諸國ノ如キハ屬地主義ヲ原則ト  
 シ或ル僅少ノ場合ニ屬人主義ヲ應用セルモノ、如シ  
 然ルニ或ル論者ハ曰ク日本國ノ安寧ニ關スル犯罪又ハ日本貨幣及ヒ國璽等ヲ  
 偽造スル犯罪ハ我刑法ヲ以テ論シ其他ノ犯罪ニ至リテハ被害者若クハ外國政  
 府ヨリ告訴告發ナシ我國ニ向テ之カ處分ヲ請求スルキハ我刑法ヲ以テ其罪  
 ナ論スヘキモノトセリ之ヲシテ實際今日ニ行ハシムルキハ其不權衡ナル一甚  
 シカルヘシ何トナレハ英米佛ノ諸國ニ於テ不問ニ措ク犯罪モ我ニ於テ之ヲ罰  
 セハナリ恰モ甲乙二家ニ小兒アリテ乙家ニテ或ル行爲ヲナシタルキ乙父ハ我  
 カ愛子ヲ嚴ク折檻スルモ甲父ハ曰ク他家ニ於テノ惡事ハ可ナリトテ放任シ置  
 クト毫モ異ナル所ナキカ如シ  
 獨逸ニ於テハ重罪犯者ニシテ同一ノ條件ヲ双方ノ國ニ於テ具フルキハ之ヲ罰  
 スルト云フ蓋シ相互主義ニ本ケルナリ



(乙) 外國ニ於テ外國人ノ犯罪ハ毫モ我ニ關係ナキカ如ク英國ニ於テ英人ノ犯罪ハ我刑法之ヲ處罰スルコトヲ得サルナリ場所ノ點ヨリ考フルモ亦身分ノ上ヨリ考フルモ我之ヲ罰スルノ權力ナシ然レモ此ノ原則ニ一ノ例外アリ即チ一ノ犯罪ニシテ我國若クハ我國人ヲ害スルモ外國政府之ヲ罰スヘキ法律ナク而シテ若シ其犯人ニシテ一朝我日本ノ管内ニ來リタル場合ニハ外國ニ於テ外國人ノ行ヒタル犯罪ニモ尙ホ我國ノ刑法ヲ及ホスコトヲ得之ヲ刑法管轄ノ自然法主義ト云フ

凡ソ刑法ノ管轄ノ基ク所ハ以上論述シタル三種ノ主義ニ外ナラスト雖モ然レモ尙ホ爰ニ二個ノ疑問ヲ生ス曰ク

- 一 此三種ノ場合ニ於テ我刑法ハ外國ノ法律ヲ執行スルモノナルヤ將タ我刑法ヲ執行スルモノナルヤ否ヤ
- 二 外國ニ於テ既ニ裁判ヲ經又ハ期滿免除若クハ大赦ヲ得タルキハ如何ナル結果ヲ生スルヤ

第一 自然法主義ニ於テ日本國ノ安寧ニ關スル場合及ヒ國璽貨幣等ニ關スル

場合ノ外仍ホ日本人ノ外國ニ於テ犯シタル罪ヲ問フニハ必ス一ノ所爲ニシテ日本法律モ之ヲ罰シ外國法律モ之ヲ罰シ得ルモノナラサルヘカラス(但シ重罪輕罪ニ限ル)且ツ外國政府若クハ被害者ヨリ之カ告訴告發ヲ爲セル場合ニ限ル此ノ如ク申スキハ丁度外國法律ヲ適用スルヤノ疑アレトモ決シテ然ラサルナリ何トナレハ此等ノ罪トナルヘキ所爲ヲ行フモ其害ヲ被フルモノハ日本國ニアラスシテ外國政府タルノミ夫レ然リ日本人ニシテ外國ノ安寧ヲ紊乱スルモ外國ニ於テ罪ト認メサルキハ我國ニ於テハ更ニ之ヲ罰スルノ必要ナキヲ以テ實際其適用ヲ實行セサルニ過キサルナリ

第二 外國ニ於テ確定裁判ノ言渡ニ由リ無罪トナリ又ハ其刑ノ執行ヲ終リタルキ或ハ外國ニ於テ公訴若クハ刑ノ期滿免除又ハ大赦ニ因リ其刑ヲ免セラレタルキハ我刑法ハ再ヒ其罪ヲ問ハサルヲ以テ原則トス何トナレハ若シ再ヒ之ヲ罰スルニ於テハ犯罪人ニ二重ノ刑ヲ科スルニ至ルヲ以テナリ然レトモ一ノ問題ノ生スヘキハ犯罪人外國ニ於テ確定裁判ヲ受ケ未タ刑期ヲ終ニスシテ逃レ來リタルカ又ハ刑ノ執行ヲ全ク終リタルニモセヨ日本國ノ安寧ニ關スルコト



大ナリトシテ更ニ裁判ヲ爲スルハ如何ニ處分スルヤ是レナリ  
 第一ノ場合ニ於テハ外國ニテ執行ヲ受ケタル刑期ハ之ヲ我國ニテ執行スヘキ  
 刑期ニ通算スルヲ以テ正當トス故ニ例ヘハ英國ニテ盜罪犯者トシテ三年ノ懲  
 役ヲ宣告サレ一年半ヲ經タル後我國ニ逃レ來ルキハ我國人其裁判ヲ遵奉シ尙  
 ホ執行ヲ終ヘサル一年半服役セシムルノ義務ナキヲ以テ更ニ裁判ヲ爲スヘク  
 而シテ若シ四年ノ懲役ヲ命ジタルキハ四年ヨリ一年半ヲ扣除シタル二年半ヲ  
 執行スルニアラスシテ二年ヲ執行セシムルナリ何トナレハ英國ニ於テハ既ニ  
 刑期ノ二分ノ一ヲ終ヘタルヲ以テ我法律ノ四年ノ二分ノ一ニ通シ更ニ之ヲ二  
 年ノ懲役ニ服セシムルト最モ公正ナリト云フヘシ因ニ云フ英國ニテ確定裁判  
 ナ受クルモ我國ニ於テハ之ヲ確定裁判ナリトシテ奉スルノ義務ナシ確定裁判  
 ノ効力動カスヘカラトハ同一ノ法ヲ行フ國ニノミ云フヘクシテ法ヲ異ニスル  
 他國トノ關係ニハ適用スヘカラサルナリ  
 罰金ノ刑ニ處セラレタルモノモ前者ト同一ノ理由ヲ適用スルヲ得ヘク即チ若  
 シ英國ニテ百圓ノ罰金ヲ科セラレシ者其内二十圓ハ已ニ之ヲ上納シ殘金ノ八

十圓ハ未タ之ヲ納完セスシテ日本ニ逃カレ歸リタル場合ニ於テ日本ノ裁判所  
 ハ更ニ裁判ヲ爲シ之ニ二百圓ノ罰金ヲ言渡シタルキハ犯罪人已ニ英國ニテ上  
 納シタル二十圓丈ケヲ減シテ百八十圓ヲ徵收スルヲ得ス宜シク前ト同一ノ  
 比例ニ因リ百圓ニ對スル二十圓ハ五分ノ一ニ相當スルヲ以テ二百圓ヨリシテ  
 之カ五分ノ一即チ四十圓ヲ減却シテ百六十圓ヲ徵收セサルヘカラサルナリ  
 第二 日本ニ對スル國事犯貨幣國璽ノ罪ヲ外國ニテ犯シタルキハ此等ノ犯罪  
 ハ直接ニ日本ノ安寧ニ關スルモノニシテ彼ノ財産若クハ身軀ニ關スル一私人  
 ノ權利ヲ害スルモノトハ其性質大ニ異ナル所アルヲ以テ假令ヒ外國ニテ確定  
 ナ裁判ヲ受クルモ我刑法ハ之ニ満足ヲ表スヘカラサルナリ何トナレハ此等ノ  
 犯罪タル直接ノ被害者ハ我政府ニアリテ外國政府ニアラサレハ利害ノ感少ナ  
 キ所ノ外國政府ハ之ヲ罰スルヲ必ス寛ナルヘシ況ンヤ又之ヲ罰セサルヲアル  
 ニ於テオヤ一例ヲ擧クレハ朝鮮在留ノ我國人ニシテ其國王ノ面前ニテ朝鮮國  
 王我贅肉ヲ啖ヘト叫ブモ若クハ放屁スルヲアルモ朝鮮刑法ハ之ヲ罰スルノ規  
 定ナシ我國ニ於テ殊更ニ朝鮮國王ニ對スル放屁罪ヲ設クヘケンヤ此ノ假例ヲ



一轉シテ我邦人ノ我陛下ニ對スル舉動トセハ如何外國刑法之ヲ罰セストテ我  
 刑法モ之ヲ不問ニ措クヘキヤ知者ヲ俟タスシテ知り得ヘシ  
 國事犯ノ場合ニ於ケルモ亦然リ試ニ英國刑法ヲ見ルモ日本ノ天皇及ヒ國家ニ  
 對シテ國事犯ヲ行フヲ得スト規定シタルコトナシ之レ恰モ我刑法ニ英國王及  
 國家ニ對スル國事犯ヲ認メサルト同一ナリ若シ此場合ニ於テ英國裁判官ハ該  
 國事犯者ヲ罰セリト假定スルモ日本ノ安寧ハ英國裁判官ニ放任スヘキニアラ  
 カルヲ以テ此ノ裁判ノ有無ニ關セス又確定ノ如何ヲ論セス我國裁判官ハ更ニ  
 相當ノ刑ヲ科スヘキナリ

國外ニ於ケル刑法ノ管轄

國外トハ內國ニモアラス外國ニモアラス又何レノ邦國ニモ屬セサル地ニシテ  
 云ハ、大洋ノ真中ノ稱ナリ  
 此ノ國外ニ於テ罪ヲ犯シタルキハ其犯人ノ歸朝スルニ及ンテ我刑法ヲ以テ之  
 ヲ罰スルコトヲ得ヘシ是レ即チ屬人主義ノ適用ニシテ我國民タルモノハ始終我

四十五

法律ニ服従スヘキ義務アルヲ以テ何レノ地ノ犯罪モ我刑法ハ其管轄ヲ及ホシ  
 得ヘケレハナリ  
 國際公法上ニテ論スル軍艦内ノ犯罪ハ假令ヒ外國ノ港灣内ニアルモ治外法權  
 ナ有スルヲ以テ我刑法ノミ之ヲ管轄スヘシ然レモ此ノ原則ハ商船ニハ適用ス  
 可ラス

今日本國ニ於テ治法外權ノ特例ナシト假定シテ論センニ英國ノ商船我カ横濱  
 港ニ入り來リ其船中ニ於テ乗組水夫相鬪毆シ爲メニ該港ヲ騷擾セシメタルキ  
 ハ英國ハ屬人主義ニ因リテ之ヲ罰シ得ヘシ我國ハ亦屬地主義ニ因リテ該水夫  
 ノ罪ヲ論スルコトヲ得ヘキナリ之ヲ刑法管轄ノ彼我均等主義ト云フ

人ニ關スル刑法ノ管轄

一 外國ノ君主及ヒ公使

我帝國ノ領地内ニ住居スルモノハ皆我法律ニ服従スルノ義務アリ去レモ法律



ナルモノハ一國主權者ノ命令ナレハ臣下ニ對シテハ有効ナルモ主權者其人ハ  
犯罪ノ責任ヲ負ハサルナリ之ト同一ノ理ニ因リ日本駐在ノ外國君主及ヒ公使  
若クハ其家族属官及ヒ外國ノ軍艦軍隊ハ我刑法ヲ適用セス之レ全ク外國主權  
者ヲ相敬スルノ好意ヨリ出テタルモノナリ其詳細ナルトハ國際法ヲ繙ケハ直  
ニ知り得ヘシ

## 二 治外法權

本節ハ甲乙ノ二段ニ區別シテ講述スルヲ便宜ナリトス

甲 日本人ノ外國ニ於テ有スル治外法權

乙 外國人ノ日本ニ於テ有スル治外法權

治外法權ハ其始メ土耳其ヨリ濫觴シタルモノニテ今日ハ朝鮮、支那、日本ニ迄波  
及セリ其義ハ被告所属國ノ法律ヲ以テ外國ニテ犯シタル罪ヲ所罰スルノ謂ナ  
ルヲ以テ被告人日本人ナルキハ日本ノ法律ニテ所斷シ若シ英國人ナルキハ英  
國ノ法律ニ因テ所斷スヘキモノタリ

## 日本人ノ外國ニ於テ有スル治外法權

日本ハ諸外國ニ對シテ一樣ニ治外法權ヲ有スルニモアラズ又相互ニ有スルニ  
モアラズ唯支那及朝鮮ニ於テ有スルノミニシテ尙ホ朝鮮ハ我國ニ對シテ治外  
法權ヲ有セサルヲ以テ相互トモ云フヘカラサルナリ去レトモ他日朝鮮ニシテ  
我國ニ公使館ヲ置クノ曉ハ同ク治外法權ヲ有シ得ヘシ  
夫レ然リ日本人ハ支那及朝鮮國ニ於テ治外法權ヲ有スルヲ以テ該國在留中ニ  
犯罪タルノ所爲アルモ支那若クハ朝鮮ノ刑法ニ服從スルノ義務ナク凡テ我國  
ノ刑法ニ由リテ其罪ヲ論スルモノナリ故ニ日本人支那ニ於テ貨幣偽造ノ罪ヲ  
犯スモ支那法律ハ毫モ之ヲ罰スルヲ得サルナリ之ヲ以テ支那及朝鮮ニ駐在セ  
ル日本領事ハ判事ノ職ヲ帶ヒ日本人ノ犯罪ハ都ヘテ其豫審ヲナシ輕罪及ヒ違  
警罪ハ領事廳ニ於テ之ヲ審判シ其裁判ニ對スル控訴上告及ヒ重罪ハ長崎控訴  
裁判所ノ管轄ニ屬ス此點ハ我國ノ獨リ意張り得ル所トス



外國人ノ日本國ニ於テ有スル治外法權

本項ハ前項ト反シテ我國ノ弱點ナル所ニシテ日本國民ハ萬口一致其不便ヲ鳴  
 ラシ一日モ早ク之カ撤去ヲ切望シテ止マサル所ノモノナリ然レトモ安政五年  
 舊幕府ノ歐米諸國ト此條約ヲ結フヤ決シテ今日ノ如ク厭フヘシ惡ムヘキモノ  
 ダルヲ夢想タモ爲サ、リシノミナラス當時ハ實ニ兩國ノ共ニ便利トセシ所ナ  
 リ今之ヲ例說セハ體カ一昨年頃ニ朝鮮人カ我國ニ於テ竊盜犯ノ公訴ヲ受ケタ  
 ルニ禁錮トナリテ今尙ホ獄中ニアリトナシ其ノ時若シ朝鮮ニテ朝鮮ノ法ニ照  
 ラサレタラハ或ハ生死ニ關スル程ナリシニ或國ノ寛大ナル法律ニ處セラレタ  
 ル故宣告ノ後該犯人ハ裁判官ヲ神拜セリトノ談アリタルカ如ク安政年間ニ於  
 ケル我ノ關係モ或ハ此ノ如シ而シテ今日ニ至テハ最早兩國トモ之ヲ不便ナリ  
 トスルニ至レリ今其沿革ヲ述フレハ之ヲ三期トナスコトヲ得ヘシ  
 第一期ニ於テハ日本人ハ未ダ法律ノ法ナル意義ヲモ解得セス從テ今日ノ如ク  
 學術ニ富タルパリストル法學士云々ノ肩書ヲ有セル代言人モナク特ニ英米ニ

於テスラ最モ困難ナリトスル證據法ノ如キハ其端緒ヲモ窺ヒ知ルコト能ハサリ  
 シ腕力ノ時勢ナルヲ以テ日本人ニ於テ英米人ヲ訴フルキハ該國法廷ハ常ニ證  
 據不充分ノ故ヲ以テ之ヲ却下シ又英米人ニシテ日本人ヲ訴フルキハ日本ノ裁  
 判官ハ却下セラル、意趣返シトシテ追テ何等ノ御沙汰之レアルヘシトノ一辭  
 ヲ以テ悠悠々放擲毫モ伸權ノ如何ヲハ意トセス常ニ淹滯淹滯又淹滯淹滯ト却下  
 トハ相應セリ之ヲ却下淹滯ノ時代ト云フ

次テ幕府ノ頑夢漸ク醒ムルニ方リ開國ノ己ムヘカラサルヲ知リ赦許ヲ京師ニ  
 請フヤ國內騷然トシテ尊攘ノ說ヲ唱フルモノ諸所ニ起リ漸次其勢力ヲ得ルニ  
 至ルヲ以テ幕府ハ狼狽其處置ニ困ミ敢テ司法事務ヲ顧ミルノ餘裕ナク内外交  
 涉ノ煩雜ヲ避ケンカ爲メ内外人ノ訴訟ニ於テハ十中八九外人ニ勝利ヲ讓レリ  
 之ヲ外人必勝ノ時代ト云フ

爾來年所ヲ歷テ内治外交ノ緒ニ付クヤ上下共ニ教育ヲ獎勵シ殊ニ專修學校ノ  
 如キアリテ英米其他諸國ノ法律經濟ヲ研究シ頗ル正理ノ存スル所ヲ發揮シ日  
 本社會ノ生面ヲ一新シテヨリ治外法權ハ十分ノ發達ヲナシ以テ今日アルニ至



レリ之ヲ治外法權成熟ノ時代ト云フ余ハ尙ホ一步ヲ進メテ治外法權廢止ノ時  
 代ニ遭遇センコト轉タ希望シテ止マサルナリ  
 扱テ英國カ我國ニ對シテ有スル所ノ治外法權ノ制度ハ如何ナル官衛ヨリ發生  
 シタルモノナルヤヲ説カサルヲ得ス抑モ英國ノ制度ハ各國ノ組織ト一風異様  
 ニシテ日本ノ支那ニ對スル裁判事務ノ如キトハ全ク相違セリ即チ行政廳ナル  
 樞密院ニテ之ヲ取扱ヘルモノニシテ其取扱ヒ振リヲ見ルニ全ク自國ノ屬國ニ  
 對スル處置法ヲ行フヘシトノ國會ノ決議ニ出テタル法律ヨリ脱化シ來レルヲ  
 以テ一ニ樞密院ノ布令ヲ以テ能ク其組織ヲ變更シ得ルナリ  
 其構成法ヲ見ルニ樞密院ハ日本國ニ英國女王陛下ノ在日本始審裁判所ナル者  
 ナ設置シ通常橫濱ニ於テ開廷ストセリ之レ恰モ日本ヲ以テ英國領地ノ裁判區  
 ト見做スコト日本國ノ我領内ニ施ス裁判區ト異ナル所ナカルヘシ而シテ上告ノ  
 如キモ上院ニナスコトヲ許サスシテ樞密院ノ司法部ヲ以テ其終審トセリ何ソ其  
 倨驕ナルコトノ甚シキヤ  
 我國駐在ノ英國總領事領事及ヒ副領事ハ各其管轄地方ニ於テ領事裁判所ヲ組

織シテ之カ民刑ノ管轄權ヲ有シ其管内ニ於テ起レル一切ノ事件ヲ審判スルノ  
 職ヲ有セリ

因ニ云フ橫濱ニ於テ開廷ストノ橫濱ナル文字ハ法律上適當ナルモノニアラ  
 ス法律上ニテハ之ヲ神奈川ト稱セサル可ラス回顧スレハ安政五年各國ト條  
 約ヲ締結スルヤ神奈川ヲ以テ互市場ニ定メタリシモ神奈川ハ東海道ノ衝ニ  
 當リ諸國ノ浪人(今ノ大坂浪人トハ異ニシテ壯士ノ如キモノ)交通往來ノ劇シ  
 キ爲メ一朝公使若クハ公使館ヲ襲撃スル等ノコアリテハ双方外交上ノ困難  
 ヲ來スヲ以テ之ヲ避ケンカ爲メ橫濱ハ神奈川ノ一部分ナリト主張シ遂ニ各  
 國ノ承諾ヲ得テ橫濱ヲ互市場トナセシナリ故ニ今尙ホ之ヲ法律上神奈川ト  
 稱ス

又英國公使ハ必要ナル場合ニ於テハ其告示ヲ發シテ以テ傳染病豫防規則其他  
 日本ノ地方規則ヲ認可シ我國在留ノ該國人民ニ對シテモ亦其効力ヲ生セシム  
 ルコトヲ得ヘシ斯ノ如ク英國公使ノ認メタル日本ノ法律規則ハ樞密院ニ於テ之  
 ヲ取消スヘキ令達ヲ出ス迄ハ英國人ニ對シテ充分ナル効力アルモノナルヲ以



テ我國ニ於テハ大ニ便宜アルモ其他ノ諸邦ノ公使ハ其權ヲ有セサルナリ  
米國ニ於テ國會ノ議決ヲ經タル條例ヲ以テ治外法權ノ制度ヲ定メ領事廳ヲシ  
テ始審ノ裁判ヲナサンメ公使ヲシテ控訴及ヒ謀殺犯日本ニ關スル國事犯等ノ  
始審判決ヲ爲サシムルモノナリ

### 事ニ關スル刑法ノ管轄

我刑法第四條ニ此刑法ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ論ス可キ者ニ適用スル  
ヲ得ストアリテ軍人軍屬ニ對シテハ此刑法ヲ適用セサルモノ、如シト雖モ該  
條ニ規定スル所ハ本ト人ニ關スル刑法ノ管轄ヲ示シタルモノニアラスシテ事  
ニ關スル刑法ノ管轄ヲ定メタルモノナリ故ニ此刑法ハ軍人軍屬ニモ尙ホ之ヲ  
適用スヘキ者タルヲ疑フ容レスト雖モ特別ナル場合ノ事柄即チ其犯罪事件ニ  
シテ軍事ニ關係スルモノナルモ軍人軍屬ハ勿論縱令常人タリモ皆之ヲ陸海  
軍ノ刑法ニ問フヘキモノタリ語ヲ換ヘテ言ヘハ軍人軍屬ト雖モ所犯軍事ニ係  
サラルモハ通常ノ刑法ヲ以テ罰シ假令常人ト雖モ軍事犯ニ係ルモハ尙ホ陸海

軍ノ刑法ノ問フ所ナリトス

余ハ尙ホ事ニ關スル刑法ノ管轄ニ付一言セント欲スル所ノモノアリ何ツヤ曰  
ク一般刑法ト此刑法トヲ區別スルヲ即チ是ナリ

抑モ一般刑法ノ中ニハ此刑法即チ刑典ヲ包含スルハ勿論ナリト雖モ然レモ刑  
典中ニハ凡百ノ刑律ヲ舉ケテ盡ク之ヲ包羅合蓄スルモノニ非ス約言スレハ一  
般ノ刑法中ヨリ此刑典ヲ引去リタルモノハ乃チ我刑法ニ所謂他ノ法律規則ナ  
ルモノニ該レリ但シ他ノ法律規則ナル文字ハ其正面上ヨリ見解ヲ下スモハ苟  
モ刑典以外ニ屬スルモノハ何ナル法律ニテモ皆法律規則ナル文字中ニ包括セ  
ルモノ、如シト雖モ憲法民法等ノ如キ全ク別事ニ關スル法律ニハ此刑典ノ總  
則ノ適用ヲ要スル場合ノ生スヘキ謂レナケレハ固ヨリ此等ノ法律ヲ指スノ意  
ニ非スシテ一般ノ刑法中ヨリ此刑典ヲ除キタル爾餘ノ刑法ヲ指シタルモノタ  
ルヤ敢テ疑フ容レサルナリ夫レ然リ我刑法第五條ニ此刑法ニ正條ナクシテ他  
ノ法律規則ニ刑名アル者ハ各其法律規則ニ從フト規定シ其第二項ニ若シ他ノ  
法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ掲ケサル者ハ此刑法ノ總則ニ從フト明記スルハ唯



此刑典ノ總則ハ一般刑法ノ總則タルヲ示シタルモノニ過キサルナリ故ニ他ノ法律規則ニモ刑名アリ或ハ總則ヲ掲ケ其總則或ハ刑名ニシテ此刑典ノ正條及ヒ總則ト牴觸スルキハ專ハラ解釋法ニ從ヒ其何レニ効力アルヤヲ定ムヘキモノトス

然ルニ學者我刑法第五條ヲ解釋スルニ當リ往々普通法ト特別法トヲ區別シテ曰ク普通法トハ一般ノ人民ニ對シテ効力ヲ有スルモノヲ指シ特別法トハ單ニ一部ノ人民若クハ一事件ニノミ限リテ有効ナルモノヲ指スト論スレハ是レ論理ヲ誤リタル說ニシテ余ハ決シテ斯ノ如キ說ニ從フヲ得サルナリ請フ少シク其理由ヲ辯明セン

抑モ危害品製造販賣規則毒藥販賣規則出版條例等ノ如キハ普ク日本人民一般ニ對シテ効力アルモノニシテ何人モ此規則ニ背クヲ得サルナリ是ヲ以テ官許ヲ得スシテ危害ヲ生スヘキ物品ノ製造所ヲ創設シタルモノハ我刑法第二百五十條ニ據リ之ヲ處斷シ又規則ニ違背シテ毒藥又ハ劇藥ヲ販賣シタルモノハ同第二百五十四條ニ據リ之ヲ處罰スルノ正條アリ然ルニ論者尙ホ何等ノ犯罪

ヲ以テ特別法即チ此刑法以外ナル法律規則ノ違犯トスルヲ固執スルカ假リニ一步ヲ讓リ若シ果シテ論者ノ言ノ如ク此等ノ規則ヲ以テ一部ノ人民或ハ一事件ニ關スル特別ノ規則ナリト云ハ、余ハ凡ソ何ナル法律ト雖モ能ク一般人民ニ普通ナルモノハ決シテ世ニ存在スルコトナシト斷言センノミ何トナレハ謀殺罪ニテハ豫メ謀テ人ヲ殺シタル者ニ限り之ヲ死刑ニ處スルモノニシテ甲者モ乙者ヲ殺害シタレハトテ之ニ關係ナキ丙者ヲモ謀殺罪トシテ論スヘキニアラス又盜罪ニ就テ云ハ、特ニ他人ノ所有物ヲ奪取セル者ニ限りテ之ヲ重禁錮ニ處スルモノナリ論者請フ三思セヨ斯ノ如ク論シ來レハ論者カ喋々主張シテ歇マサル所ノ特別法ト普通法トノ區別ハ竟ニ理由ナキノ言タルヲ見ルヘシ蓋シ我刑法ノ所謂他ノ法律規則トハ此刑典外ノ刑法ヲ指示スルモノニ過キスシテ他ノ意義アルニアラス即チ敢テ特別法ト普通法トヲ區別シタルモノニアラサルヤ知ルヘキナリ

刑ノ加重減輕



本刑

余ハ既ニ第一篇ニ於テ犯罪タル所爲ニ就キ本罪ノ如何ヲ定ムルノ方法ハ詳密ニ之ヲ論述シテ復タ餘濫アルヲナシ儲犯人ヲ處罰スルニ當リ刑ヲ加重減輕スルニ就テハ之カ基本即チ其加重減輕ヲ起スヘキ本刑ヲ定ムルヲ要ス夫レ然リ苟モ法律ニ於テ犯罪ニ相當スル刑ヲ定ムルハ是レ即チ本刑ナリ故ニ法律上更ニ加重減輕スヘキ旨ヲ定ムルハ之カ標準タル本刑ハ尙ホ他ニ存在セサル可カラズ然レモ其加重減輕ニシテ犯罪タル所爲ニ關係ナクハ犯罪ノ主體物體及ヒ手段ノ情况何如ニ關係ヲ有セサルモノハ其加重若クハ減輕シタル刑ヲ以テ本刑ト做スヘシ我刑法第九十九條ニ規定セル所ノ「從犯未遂犯ノ減等及ヒ特別ノ加重減輕ハ其加重減輕シタル者ヲ以テ本刑トス」トアルハ明カニ此意ヲ示シタルモノナリ蓋シ正犯從犯已遂犯及ヒ未遂犯ノ區別ハ前ニモ既ニ論述シタルカ如ク犯罪タル所爲ニ關係シテ主體物體及ヒ手段ニハ其關係ナク之ニ反シ特別ノ加重減輕ハ其實加重減輕ノ模様ニアラスシテ只立法官ニ於テ一々何年

以上何年以下ノ刑ニ處スト規定スヘキヲ其煩勞ヲ避ケンカ爲メ單ニ第何條ニ照シ一等或ハ二等ヲ減スト書シタルモノニ過キスシテ固ヨリ所犯ノ情狀ニ基キ加重減輕スルモノトハ大ニ相同シカラサルナリ又再犯加重宥恕減輕ハ犯罪ノ主体タル犯罪人ノ身分年齢ニ基キ自首減輕酌量減輕ノ如キハ專ラ犯罪人ノ意志ヲ察知シ若クハ之カ目的ヲ吟味シテ其刑罰ニ觸ルニ至ルノ事情實ニ憫諒スルニ堪ヘタルモノアリ或ハ犯罪人ニシテ犯罪ノ目的タル物體ニ害惡ヲ與ヘタル程度輕微ナルニ依リ又ハ犯罪ノ手段ノ模様如何等ニヨリ減輕スル者ニシテ犯罪タル所爲ハ毫モ他ノ場合ト其狀ヲ異ニスル所アルヘキモノニアラス究竟スルニ犯罪ノ主体物體及ヒ手段ノ模様ニ基クモノハ加重減輕ナレモ犯罪ノ所爲ニ關係スルモノハ其減シタル者ヲ以テ本刑ナリトス例之ハ十六歳以上二十歳未滿ノ未丁年者ノ人ヲ殺シタルモ又ハ丁年者ノ人ヲ殺シタルモ其所爲ニ至テハ敢テ異ナル所アルニ非ス等シク是レ殺人罪タルヤ言ハスシテ明カナリ然ルニ彼ノ已遂犯ト未遂犯トニ至リテハ大ニ其趣キヲ異ニシ一ハ全ク人ノ生命ヲ絶チ一ハ未ダ生命ヲ絶ツニ至ラサル所爲タルニ過キサレハ其間ニ存ス



ル所ノ差別豈當ニ逕庭ノ比ノミナランヤ

### 加減例

#### 通則

本刑ヲ加ヘテ死刑ニ入り輕罪ノ刑ヲ加ヘテ重罪ニ入り違警罪ノ刑ヲ加ヘテ輕罪ニ入ル、一ハ我刑法ノ嚴禁スル所ナリ蓋シ死刑重罪輕罪及ヒ違輕罪ノ刑ハ刑法上ノ一大區別ニシテ其間大ナル懸隔アルモノナレハ加減ノ等級ヲ設ケ得ヘキモノニ非ス死刑ト無期徒刑トノ差及ヒ重懲役ト輕懲役トノ差ハ素ヨリ同日ニ之ヲ語ル能ハス而シテ重罪ノ刑ト輕罪ノ刑トノ差又ハ輕罪ノ刑ト違輕罪ノ刑トノ差ニ於ケルモ亦然リ但シ死刑ヲ減シテ死刑以下ノ刑ニ處シ重罪ノ刑ヨリ輕罪ノ刑ニ下シ又ハ輕罪ノ刑ヨリ違輕罪ノ刑ニ減等スルハ法律ノ明許スル所ナリト雖モ是レ全ク法律ノ恩惠ニ基クモノニ過キサルナリ又若シ同時ニ加重減輕スヘキハ加減相殺シテ死刑ニ處スヘキカ又ハ輕減ス

ヘキモノハ減輕シテ死刑ヨリ二三等ヲ下ルヲアルモ加重ハ一切之ヲ禁シ加減相殺スルヲ許サ、ルカ此點ニ就テハ學者ノ議論區々ニシテ一定ノ確說アルヲ見サルナリ余以爲ラク我刑法ニ加ヘテ死刑ニ入ルヲ禁シタル所以ノモノハ畢竟刑ヲ加減シテ其結果タル死刑ニ入ルヘキ場合ヲ指シタルモノナラン是ニ由テ之ヲ考フレハ苟モ加減相殺スルモ敢テ死刑ニ入ルノ結果アラサル以上ハ其刑ヲ加減相殺スルモ妨ケサルヲ以テ其當ヲ得タルモノト思惟ス而シテ輕罪ヨリ重罪ニ違警罪ヨリ輕罪ニ入ル場合モ亦同シ

### 重罪刑ノ加減

重罪ハ常事犯ト國事犯トヲ以テ其刑ヲ加減スルノ例ヲ異ニセリ常事犯ニ適用スヘキ重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス即チ刑法第六十七條ニ於テ此事ヲ規定セリ曰ク

- 一 死刑
- 二 無期徒刑



- 三 有朝徒刑
- 四 重懲役
- 五 輕懲役

國事犯ニ適用スヘキ重罪刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス是レ即チ刑法第六十八條ニ於テ規定セル所ナリ曰ク

- 一 死刑
- 二 無期流刑
- 三 有期流刑
- 四 重禁獄
- 五 輕禁獄

輕罪刑ノ加減

輕罪刑ハ重罪ノ刑ノ如ク數多ノ等級アルニアラス各犯罪ニ就キ各本條ニ於テ其期限ノ長短ヲ區別シタルカ故ニ重罪ノ刑ヨリ減輕シテ輕罪ノ刑ニ下スルハ

其等級ヲ定ムルノ標準ヲ立テサル可ラス我刑法第六十九條ニ國事犯ト常事犯トノ區別ニ從ヒ此事ヲ規定シ輕懲役ニ該ル者減輕スヘキハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲シ輕禁獄ニ該ル者減輕スヘキハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處スルヲ以テ一等トセリ

又禁錮罰金ノ刑ニ該ル者減輕スヘキハ各本條ニ記載シタル刑期金額ノ四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲シ其加重スヘキモ亦四分ノ一ヲ加フルヲ以テ一等ト爲ス而シテ前既ニ講述シタルカ如ク輕罪ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルヲ許サ、ルモ禁錮ハ加ヘテ七年ニ至ルヲ得ヘシ是レ我刑法第七十條ニ於テ規定セル所ナリ

此ノ如ク輕罪刑ノ加減ニ就テハ刑期金額ノ四分ノ一ヲ以テ一等トナシ之ニ依リテ或ハ加重シ或ハ減輕スルハ實ニ算盤上ノ計算ニシテ實際上甚タ煩雜タルヲ免カレス且此ノ如キ煩雜ナル事務ハ裁判官タル者ノ能ク執リ得ル者ニ非ス假令裁判官能ク之ニ從事シテ其煩ニ堪ヘ得ヘキモノトスルモ實際裁判官ナシテ之ニ執掌セシム可キモノニ非サルナリ若シ夫レ此煩雜ヲ避ケ簡易ナル方



法ヲ用ヰントセハ須ラク算盤上ニ依頼スル如キ規定ヲナサスシテ確固タル加減法ヲ設定スヘキノミ又此四分ノ一ヲ一等トシ之ニ依テ加減スル場合ニ其犯罪ヲ二月以上四年以下ニ該當スル者ト假定シ之ヨリ一等ヲ減スルキハ一月十五日以上三年以下ノ刑トナルヘシ而シテ此範圍内ニ於テハ自由ニ刑罰ヲ科スルヲ得ルヲ以テ裁判官ニ於テ三年ヲ至當トナシ其刑ヲ科シタルキハ其減等シタル効力ハ毫モ之ヲ見ル能ハスシテ單ニ煩雜ノ手續ヲ盡シタルニ過キサルナリ故ニ我刑法カ規定シタル輕罪刑ノ加減例ハ管ニ計算上煩雜ノ手續ノミニシテ實際上別ニ効用アルモノトモ思ハレサルナリ

今輕罪刑ヲ加減スルニ當リ其刑期及ヒ金額四分ノ一ヲ加減スル方法ニ就テハ左ノ二説アリ即チ

- 一 單加單減
- 一 遞加遞減

是ナリ

抑モ單加單減説ハ單ニ本刑ノ四分ノ一ニ相當スル刑期金額ヲ加減スルモノニ

シテ此説ニ從フキハ其本刑ヨリ四等ヲ減スルニ於テハ零數トナリ之ニ反シテ四等ヲ加フルキハ本刑ニ二倍スル所ノ刑期及ヒ金額トナルモノナリ斯ノ如ク我刑法ハ單加單減ノ方法ヲ採用シテ本刑ノ四分ノ一ヲ以テ加減スヘキ差トナスカ故ニ減輕ノ等級ニ此差ヲ乘シタルモノヲ其本刑ヨリ減スルキハ直チニ其減輕シタル結果ノ刑ヲ知ルヲ得ヘク又加重シタル結果ノ刑ヲ知ラント欲セハ加重スヘキ等級ノ數ニ此差ヲ乘シタルモノヲ本刑ニ加フレハ容易ニ其加重シタル刑期金額ノ幾干ヲ知ルヲ得ヘク事頗ル簡約ニシテ別ニ之カ説明ヲ須ユルニ及ハサルヘキナリ但シ我國今日マテノ習慣ヲ查考スルキハ單加單減ノ法ヲ用ヰスシテ遞加遞減ノ法ニ依リ本刑ヨリ減輕シ其減輕シタル者ヨリ再ヒ減輕スルノ方法ナリシカ特リ此刑法ニ在テハ何故ニ單加單減ノ方法ニ依リタルカ惟フニ唯計算上ノ簡約ナルニ根由セシカ其理由ハ余ノ解スル能ハサル所ナリ

遞加遞減説ニ依レハ一等ヲ加減スルニ當テハ其本刑ノ四分ノ一ヲ加減スレバ若シ二等ヲ減スルニハ單加單減ノ方法ト異ナリ既ニ一等ヲ加減シタル刑ヨリ



其四分ノ一ヲ加減シ三等ヲ加減スルニモ亦二等ヲ加減シタル刑ヨリ同シク其四分ノ一ヲ加減スルモノニシテ以下幾等ニ至ルモ皆此比例ニ循ヒ加減スヘキ刑ノ四分ノ一ヲ其刑ヨリ加減スルモノトス故ニ單加單減ノ說ニ從フキハ減盡シテ零數ヲ生シ遂ニ復タ殘存セル刑ヲ見ルコトナキニ至ル場合アレモ遞加遞減說ニ至リテハ然ラス假令數等ヲ減スルモ此ノ如ク減シテ零數ヲ生スルノ場合アルコト稀ナリトス

爰ニ一事アリ右兩說中何レノ方法ヲ用ユルモ本刑ヨリ數等ヲ減シ互ニ其減シタル者ノ四分ノ一ヲ以テ更ニ同數ノ等級ニヨリ其減シタル者ニ加フルモ初メノ根基トナリシ刑ニ復スルヲ得サルコト即チ是ナリ例ヘハ單加單減ノ說ニ從ヒ八年ノ刑期ヨリ一等ヲ減スルキハ六年トナリ二等ヲ減スルキハ四年三等ヲ減スレハ二年トナルヘシ今斯ノ如ク八年ヨリ三等ヲ減輕シタル所ノ二年ノ刑期ヲ以テ本刑トシ之ニ一等ヲ加フルキハ二年半トナリ二等ヲ加フルキハ三年トナリ三等ヲ加フルキハ三年半トナリ原刑ノ八年ニ復スルコト能ハス遞加遞減說ニ從フモ亦然リ八年ヨリ一等ヲ減スルキハ六年トナリ二等ヲ減スレハ四年半

四十七

トナリ三等ヲ減スルキハ三年ト八分ノ三トナルヘシ今此三年ト八分ノ三ヲ以テ本刑トシ之ニ一等ヲ加フレハ四年ト三十二分ノ七トナリ二等ヲ加フレハ五年ト百二十八分ノ三十五トナリ三等ヲ加フレハ六年ト五百十二分ノ百六十三トナリ原刑ノ八年ニ復ス可カラス是ニ於テカ世ノ學者輩以爲ラク苟モ一ノ基本タル刑ヨリシテ若干等ヲ減シ依テ得タル所ノモノニ再ヒ同等ノ加重ヲ爲シ原刑ニ復スルコト能ハサルノ理ナシト乃チ其方ヲ攻究シテ未タ得ル能ハス常ニ茫茫然トシテ自カラ其然ル所以ヲ知ラサルモノ比々皆然ラサルハナシ遂ニ紛然トシテ互ニ辯難攻撃ヲ試ミ無用ノ議論ニ其腦漿ヲ費シ尙ホ未タ發明スル所アラヌコト加減ノ方法其宜シキニ適セサルコト喋々非難スルニ至ル單加單減ノ方法ニ在テハ學者ノ非難スル所寔ニ其理アリト云フヘシ獨リ怪ム遞加遞減ノ方法タル代數學ノ原理ニ據テ之ヲ計算スルキハ自在ニ加減復歸シ得ヘキモノナルニ世ノ卓越ナル學者其人ニシテ極メテ賭易キ數理ニ其思慮ヲ費サズシテ淺近皮相ノ議論ヲナス何ソ迷ヘルノ太甚シキ是レ余ノ大ニ解セサル所ナリ單加單減說ニ於テハ幾等ヲ加減スルモ皆同一ノ固定ノ數ヲ加減スルニ過キ



スト雖モ遞加遞減ノ說ニ於テハ二等三等ニ至ルモ唯其加減スヘキ比例標準ヲ等フスルノミニシテ其現ニ加重スヘキ數ハ等級ニ應シテ各之ヲ異ニスルナリ故チ以テ今本刑ヨリ數等ヲ減シ其減等シタル結果ノ刑チ一ノ本刑ト做シ更ニ同等ノ加重ヲナスキハ其輕減シタル本刑ニ復スルヲ得セシムルト甚タ容易ナリ試ミニニ $a$ ヲ減スヘキ本刑トシテ減等ノ比例數即チ四分ノ一トナスキハ

本刑  $a$

一等減  $a - ar = a(1 - r)$

二等減  $a - 2ar + ar^2 = a(1 - 2r + r^2)$

三等減  $a - 3ar + 3ar^2 - ar^3 = a(1 - 3r + 3r^2 - r^3)$

四等減  $a - 4ar + 4ar^2 - 4ar^3 + ar^4 = a(1 - 4r + 4r^2 - 4r^3 + r^4)$

右ノ如クニシテ計算スルキハ四等以下幾等減ニ至ルモ容易ニ之ヲ算出シ得ヘシ假例ハ八年ヲ以テ本刑トナシ之ヨリ三等ヲ減スルキハ三年ト八分ノ三即チ三年四ヶ月半トナルナリ其方式ヲ示ス左ノ如シ

$$a(1 - 3r + 3r^2 - r^3) = 8(7 - 3 \times \frac{1}{4} \times 3 \times \frac{1}{4} \times \frac{1}{4} - \frac{1}{4} \times \frac{1}{4} \times \frac{1}{4}) = 3\frac{3}{8}$$

故ニ此理ヲ推シ加重スヘキ本刑ヲトスルキハ $a$ ハ加重シタル結果ノ刑タルヘキチ以テ $l = a(1 - r^n)$ ノ方程式ヨリ $a = \frac{l}{1 - r^n}$ ヲ得ヘク其方式左ノ如クナルヘシ

本刑  $l$

一等加  $\frac{l}{1 - r}$

二等加  $\frac{l}{1 - 2r + r^2}$

三等加  $\frac{l}{1 - 3r + 3r^2 - r^3}$

四等加  $\frac{l}{1 - 4r + 4r^2 - 4r^3 + r^4}$

等ニシテ以下縱令幾等ヲ下ルモ亦容易ニ之ヲ計算スルヲ得ルナリ假例ハ三年四ヶ月半即チ三年八分ノ三ニ三等ヲ加フレハ

$$\frac{l}{1 - 3r + 3r^2 - r^3} = \frac{l}{1 - 3 \times \frac{1}{4} + 3 \times \frac{1}{4} \times \frac{1}{4} \times \frac{1}{4} - \frac{1}{4} \times \frac{1}{4} \times \frac{1}{4}} = 8$$

即チ八年トナルナリ夫レ斯ノ如ク一ノ刑ヨリ三等ヲ減シ更ニ又三等ヲ加フレハ其原則ニ復スルヲ敢テ難キニ非サルヲ知ルヘシ而シテ此計算ノ方法ハ複雑繁冗ナルノ嫌アルカ如クナレド數理ノ動カス可カラサルモノナルヲ以テ能ク此ノ計算法ニ通曉スルニ於テハ容易ニシテ且ツ簡便ナルヲ必スヤ彼ノ單加單



減ノ方法ニ讓ラサルヘキモノト信スルナリ  
此ノ如ク數理上ヨリ遞加遞減說ヲ研究スルキハ本刑ニ復スルヲ甚タ容易ナレ  
モ是レ單ニ學理攻究ノ上ニ於テ必要ナルノミニテ實際ニ施行スル法典ニ就テ  
ハ努メテ煩ニ渉ルノ弊ヲ避クルヲ善シトス

### 違警罪ノ加減

前既ニ論述シタルカ如ク我國ノ刑法ハ單加單減ノ說ヲ採用セルカ故ニ輕罪刑  
ハ四等ヲ減スルキハ零數トナリ爲メニ科スヘキ輕罪刑ノ存留スルモノナキニ  
至ルヲナリ而シテ此場合ニ於テハ之ヲ違警罪ノ刑ニ降シ以テ拘留科料ニ處ス  
ヘキモノト定メタリ然レモ其一等二等若クハ三等ヲ減スル場合ニ在テハ敢テ  
零數ヲ生スルニハ至ラサルモ減スヘキ本刑タル輕少ノ刑ニシテ之カ減輕ノ結  
果ハ或ル短期若シクハ寡數ニシテ輕罪刑ノ範圍ヲ脱シ禁錮ニシテ十日以下ノ  
刑期トナリ又罰金ニシテ一圓九十五錢以下ニ至ルヲアルハ往々免レサル所ナ  
リ斯ノ如ク減刑ノ結果違警罪トナリタル時ニ於テ裁判官ハ當初輕罪刑タルノ

三十五

故キ以テ犯罪情狀輕微ナルモ必ズシモ長期若クハ多數ノ輕罪刑ニ處スルヲチ  
要セテ刑法第七十一條ノ規定ニ從ヒ違警罪ノ刑即チ拘留又ハ科料ニ處スルヲ  
チ得ヘシ

拘留科料ニ該ルヘキ者加減スヘキ時ハ亦タ其四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等  
トナス且ツ其加減方法ニ至リテモ禁錮罰金ノ例ト敢テ異ナル所アラサルナリ  
又タ違警罪ノ刑ハ加ヘテ輕罪ニ入ルヲ得サルハ既ニ通則ニ於テ講述シタル  
所ナリ然リ而シテ法律ハ之ニ例外ヲ設ケ拘留ハ加ヘテ十二日ニ至リ科料ハ加  
ヘテ貳圓四拾錢ニ至ルヲ得セシメタリ是レ即チ我刑法第七十四條ニ規定セ  
ル所ナリトス但シ此制限ハ刑ノ加重ニ關スル場合ニノミ適用シ得ヘキモノニ  
シテ數罪ノ刑ヲ併科シテ此制限ヲ超ユル場合ハ此限ニアラサルナリ  
蓋シ拘留ヲ減シテ一日以下科料ヲ減シテ五錢以下ニ及フキハ最早科スヘキ刑  
ノ存在セサルヲ以テ之ヲ放免スルヲ可ナリトス又タ減輕シタル刑ノ長期又ハ  
多數ニシテ一日若クハ五錢以上ナルモ唯タ其短期ノミ一日以下寡數ノミ五錢  
以下ニ及フ時苟モ裁判官ニ於テ犯罪ノ情狀違警罪ノ刑ノ範圍ニ相當セサルモ



ノト判定シタル場合ニ於テモ亦同シク之ヲ放免スルヲ以テ余ハ適當ノ處置  
 ナリト信ス然ルニ我刑法ニテハ此ノ如キ場合モ第七十二條第二項ニ依リ必ス  
 五錢ノ科料一日ノ拘留ニ處セサル可ラストセリ是レ豈ニ至當ノ法ナランヤ強  
 テ其正鵠ヲ得セシメント欲セハ第七十二條第二項ニ規定スル所モ敢テ放免ノ  
 解釋ヲ下ス可能ハサルニ非ス何トナレハ我刑法ニテハ拘留ハ一日科料ハ五錢  
 ナリテ其底位トナシタルニ依リ一日以下即チ何時間ノ拘留若クハ五錢以下二  
 三錢ノ科料ニ處スルヲ得サルカ故ニ減尽シテ零數ヲ生シタル場合ト同シク  
 之ヲ放免セサル可ラサレハナリ且ツ此說ヲ主張スル者ナキニ非スト雖モ現ニ  
 第七十二條第二項ニ依リ拘留一日若クハ科料五錢ニ處スルカ如シ余ハ理論上  
 之ヲ辯護スルヲ能ハサルナリ此金刑底位ノ標準ハ歐米諸國ニ於テハ其國通用  
 銀貨ノ最下ニ位スル者ヲ以テ其底位トナスノ習慣タルニ依リ我國ニ於テモ銀  
 貨ハ五錢以下ノモノアルヲナケレハ科料ノ底位ヲ五錢トナシタルナランカ

附加刑ノ加減

附加刑ハ罰金ノ外之ヲ加減スルヲ得ス而シテ附加ノ罰金モ尙ホ主刑ノ罰金  
 ナ加減スル場合ト等シク其四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等トナスナリ然レモ  
 我刑法ニ於テハ附加ノ罰金ヲ減盡シタルキハ主刑ノミヲ科スルヲ以テ附加ノ  
 罰金ハ減シテ違警罪ノ刑ニ降スヲナシ禁錮ノ刑ニ科料ヲ附加スルヲ得サルコ  
 論ヲ待タスト雖モ或場合ニ於テハ一圓ノ罰金ニ處スト言渡スヲアリ是レ其當  
 ナ得タル者ニ非ス抑モ我刑法ハ罰金ヲハ二圓以上ト定メタルヲ以テ苟モ金額  
 ニシテ二圓以下ニ及フキハ之ヲ科料ト稱スルコソ至當ノ名義ニシテ決シテ罰  
 金トハ謂フ可ラサルナリ而シテ我刑法中科料ノ附加刑ナルモノハ存在セサル  
 カ故ニ附加ノ罰金ヲ減等シテ其金額二圓以下ニ降リタルキハ是レ最早罰金ニ  
 非スシテ科料トナルモノナレハ輕罪ノ附加刑トシテ科スヘキモノニ非サルナ  
 リ夫レ然リ若シ之ヲ科スルニ於テハ違警罪ノ刑タル科料ヲ以テ輕罪ノ附加刑  
 トナサ、ルヲ得サルニ至ルヘシ是ノ如キハ我刑法第七十四條ノ規定ニ依リ敢  
 テ許スヘキ所ニ非ストス



### 宥恕輕減

我刑法ハ特別ノ宥恕輕減即チ人ノ挑發ヲ受ケ殺傷ヲ行フタル者親屬相盜ム者等各本條ニ記載スルモノ、外一般ノ犯罪ニ就テハ年齡ニ關シテ宥恕輕減ヲ定メタルノミ而シテ第二期ノ幼者即チ十二歲以上十六歲未滿ノ未丁年者ト雖モ是非善惡ヲ識別スル能力ヲ有セル者ノ犯シタル犯罪ニ就テハ其責ニ任セサル可ラス然レハ其幼者タル自己ノ行爲ノ利害得失ヲ考量スルノ智識未タ充分ニ發達セサルモノナレハ本刑ニ二等ヲ減シ而シテ第三期ノ幼者即チ十六歲以上二十歲未滿ノ未丁年者ニ至リテハ其事物ヲ考察スルノ智識大ニ發達シ之ヲ第二期ノ幼者ニ比スレハ其程度固ヨリ逕庭ノ差アルモノナルヲ以テ單ニ本刑ニ一等ヲ減スルノミ是レ我刑法第八十條第八十一條及ヒ第八十四條ニ明示スル所ニシテ蓋シ適當ノ規定ナリ

然レハ我刑法ハ此原則ヲハ直チニ違警罪ニ及ホサスシテ違警罪ニ就キ特例ヲ設ケタルハ抑モ不權衡ナル規定ト謂ハサルヲ得ス而シテ其不論罪ニ關スルモ

ノハ既ニ第一編ニ於テ論述シタルヲ以テ爰ニ再ヒ之ヲ贅セスト雖モ其宥恕ニ關スル者ニ在テモ同シク學理ニ背離セルモノト云フヘシ今其規定ニ從ヘハ違警罪犯者ニシテ十六歲以上二十歲以下ナルキハ更ニ宥恕ヲ與ヘスシテ其全刑ヲ科シ十二歲以上十六歲以下ノ幼者ニハ唯タ本刑ヨリ一等ヲ減スルニ過キス之ヲ重輕罪ノ宥恕輕減ニ比シテ遞次一等ヲ殺キタルハ余ハ果シテ何ノ理由ニ基キタルヤヲ知ル能ハス立法官ハ單ニ違警罪刑タルノ故ヲ以テ宥恕ノ度一等ヲ薄フスヘシトナセルカ將タ他ニ適當ノ理由アルカ余ノ切ニ其說ヲ聽カント欲スル所ナリ若シ違警罪ノ刑タル輕微ニシテ且ツ有意犯タルヲ要セサルニ基キタルモノト云ハ、蓋ソソ十二歲未滿ノ幼者及ヒ瘖啞者等ニ至ルマテ盡ク其罪ヲ論シテ之ニ全刑ヲ科セサルヤ特ニ十二歲以上十六歲以下ノ幼者ニ限り故ラニ一等ヲ吝ンテ其宥恕ヲ與フルノ必要果シテ那邊ヨリ躍出シ來レルヤ難シテ此ニ至リ余ハ益々其理由ヲ解スルヲ能ハサルナリ然レハ我刑法ニ於テハ既ニ第八十三條ニ於テ此事ヲ規定セラレタルヲ以テ復タ之ヲ如何トモス可ラサルナリ



### 自首減輕

自首減輕トハ惡事ヲナシタル者自ラ其爲シタル惡事ヲ官ニ首出スルノ謂ニシテ舊律ノ規定ニ隨フキハ犯罪人真心悔悟シ其非ヲ悔ヒ官ニ首白スルヲ以テ其刑ヲ減輕スルノ旨趣ナルニ依リ今日實行ノ刑法モ亦タ此理由ニ據ルヲ主張スルノ學者アレハ是レ決シテ道理ニ適合シタルノ說ニ非カルナリ何トナレハ犯罪人ニシテ秋毫モ真心悔悟ノ情アルニ非ス止タ減輕ヲ得ンカ爲メ自首スル者ト雖モ苟モ自ラ其罪ヲ官ニ首出スルニ於テハ法律上尙ホ其刑ヲ減スヘキモ之ニ反シテ犯罪人ニ於テ假令ヒ真心悔悟スルモ既ニ事件官ニ發覺シタル後ニ自首シタルニ於テハ竟ニ減輕ノ恩典ヲ受ケ得ヘキモノニ非サレハナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ自首減輕ノ理由タル決シテ犯罪者ノ心情如何ニ基クモノニ非サルコトハ彰々乎トシテ明カナリ蓋シ自首減輕ヲ設クル所以ノモノハ唯タ犯罪搜查ノ費用勞力ヲ省キ犯罪證明ヲ確的ナラシムル等政策上ノ理由ニ出テタルニ過キサルノミ然レハ其特別ノ自首ニ在テハ未タ犯罪ノ惡結果ヲ生セサルニ先

タチ單ニ豫備隱謀等ニ止マリ事ヲ未發ニ防遏スル等ノ利益ナキニ非ス尙ホ特別ノ自首ニ就テハ後日各論ヲ講述スル際ニ讓リ爰ニハ敢テ之ヲ論述セサルナリ

以上開說シタルカ如キ理由ナルヲ以テ自首減輕ヲ爲スカ爲メニ有効ナル自首ノ條件モ亦タ右ノ理由ニ恰當セサル可ラス今左ニ自首減輕ヲ有効ナラシムル條件ヲ叙述セシ

#### 第一 事實未タ發覺セサル以前タラサル可ラサルコト

犯罪人ノ誰タルヤ未タ覺知セラレサル以前ニ在テ自首スレハ即チ可ナリ必スシモ犯罪事件ノ未タ發覺セサル前タルコトヲ要セサルナリ而テ此点ニ就テハ學者種々ノ議論ヲ爲スト雖モ要スルニ爰ニ謂フ所ノ發覺トハ必スシモ官ノ覺知スル所ト爲リタル場合ノミニ限ラス被害者ニ犯罪人ノ誰タルコトヲ覺知セラレハハ自首スルモ其効ナシトス否ラスハ初メヨリ罪ヲ犯シ刑ヲ受クルノ決心ヲ以テ公然自己ノ姓名ヲ表示シ以テ人ヲ害スルモ被害者ノ未タ告訴告發ヲ爲サ、ルニ先タチ早ク之ヲ官ニ自首スルニ於テハ尙ホ減輕ノ効力ヲ生セシム



ルカ如キ不權衡ナル場合ノ生スルコアルヲ以テナリ假例ハ余ハ被害者甲ヲ  
 毆打シ大ニ之ヲ負傷セシメタル如キ場合ニ於テ甲者ハ自己ヲ負傷セシメタル  
 者ハ余ナルコトヲ知ラハ右ノ犯罪ニ付キ責任ヲ負擔スヘキ者ハ既ニ判然タルヘ  
 シ然ルニ甲者未タ告訴告發ヲ爲サ、ル以前余之ヲ官ニ自首スルト雖モ政策上  
 ノ理由一モ立タサルヲ以テ自首ノ効ナキモノトス宜シク犯罪人ノ誰タルコノ  
 未タ覺知セサル場合ニ於テ其自首ヲナサ、ルヘカラス此事ニ關シテハ我刑法  
 第八十五條ニ於テ之ヲ規定セリ

第二 官ニ自首セサル可ラス

犯人自首スルニ方リテハ必ス相當ノ官署ヘ之ヲ爲サ、レハ其効ナシト雖モ亦  
 タ例外ナキニ非サルナリ即チ我刑法第八十七條ニ曰ク財産ニ對スル罪ヲ犯シ  
 被害者ニ首服シタル者ハ官ニ自首スルト同シク云々トアリテ此場合ニハ必ス  
 シモ官ニ自首セサルモ有効ナルコトヲ示サレタリ

第三 謀故殺事件ニアラサルコトヲ要ス

謀故殺殺ト雖モ亦タ自首減輕ノ理由ナキニ非スト雖モ我刑法ハ其第八十五條

ニ但シ謀故殺殺ニ係ルモノハ自首減輕ノ限ニ在ラスト明記シ特ニ其効ナキモ  
 ノトセリ若シ深ク慮ル所ナクシテ一般ニ自首減輕ヲ許スニ於テハ其弊ヤ且サ  
 ニ救フ可ラサルニ至ラントス凡ソ謀故殺犯殊ニ復讐ノ如キニ至テハ犯者人ヲ  
 殺スモ法律上其罪死ニ抵ラサルノ道アルヲ見ルヤ初メヨリ其目的ヲ果シタル  
 上ハ自カラ之ヲ官ニ首出シ依テ以テ法律ノ減等ヲ得ンコトヲ期シ動モスレハ意  
 ヲ決シテ殺戕ヲ行フ者踵ヲ接シテ起リ實ニ酸鼻スヘキ野蠻ノ結果ヲ醸成スル  
 ニ至ルハ蓋シ避ク可ラサル情勢ナラシテ斯ノ如クナラハ法律ハ以テ社會  
 ノ秩序ヲ維持スルニ足ラサルヘク爲メニ國家ノ紀綱弛廢セサランヲ欲スルモ  
 惡ンソ得ヘケンヤ此レ豈政策上ノ便宜ヲ設ケテ却テ政策ヲ壞ルモノニ非スヤ  
 然ラハ即チ我刑法ノ謀故殺ニ自首減輕ヲ許サ、ル所以ノモノ知ルヘキノミ  
 爰ニ一言スヘキハ自首ハ本刑ニ一等ヲ減スルモノナレトモ財產ニ對スル罪ヲ犯  
 シ自首スル場合ニ於テ其贓物ヲ還給シ損害ヲ賠償シタル時ハ我刑法第八十六  
 條ノ規定ニ從ヒ自首減等ノ外仍ホ本刑ニ二等ヲ減シ其全部ヲ還償セスト雖モ  
 半數以上ヲ還償シタル時ハ一等ヲ減スルコト是ナリ抑モ贓物ノ還給損害ノ賠償



ハ固ト私訴ノ範圍内ニ屬スルモノナルカ故ニ犯人ニ在テ私法上自然ニ其義務ヲ負擔スヘキ所タリ是ヲ以テ物件ノ多寡高下ニ就テハ被害者ノ權利ニハ大ナル關係ヲ有スヘキモ之カ爲メ刑罰ノ輕重ニハ毫モ影響ヲ及ホスモノニ非ストス然レモ財產ニ對スル犯罪ハ公益ヲ害スルヨリモ寧ロ被害者ノ私權ヲ破リ其損害ヲ致シタルノ點頗ル大ナルヲ以テ我刑法ハ政策上此特例ヲ設ケタルニ外ナラスシテ素ヨリ理論ニ適合シタルモノニハ非サルナリ夫レ然リ故ヲ以テ時ニ或ハ不權衡ナル結果ヲ呈出スルコトヲ免カレス何トナレハ若シ人アリテ些少ナル金額ヲ盜取シテ之ヲ賠償セサルモノハ本刑ヲ科セラレ鉅額ノ金錢ヲ盜取シテ其半額ヲ賠償シタル者ハ一等ノ減輕ヲ得ルヲ以テ被害者ハ損害ヲ與フルノ輕少ナルニモ拘ハラヌ却テ重大ナル刑罰ヲ受ケサル可ラサルニ至ルヘシ是ヲ以テ此規定ニ從フモハ被害者ノ意志ヲ以テ犯罪人ニ減等ヲ與フルト否トチ自由ニスルコトヲ得ヘキナリ即チ犯人ヨリ贓物ヲ返還シ或ハ損害ノ賠償ヲ爲サントスルモ於テ之ヲ受取ラサルモハ減等ノ恩典ヲ得ルコト能ハサレハナリ故ニ被害者ノ不用物ヲ盜取シタル場合ニハ此弊ヲ生スルコト多シ殊ニ共犯ノ場合

ニ於テハ全ク民事ニ屬スル連帶責任ノ規則ヲ將テ刑事ニ及ホスノ嫌アリ即チ殺唆者本犯從犯ノ犯罪者アリタル場合ニ於テ從犯者其損害ノ賠償ヲ爲シタルモハ殺唆者本犯ハ他ノ恩惠ニ依リ減等ヲ受クルニ至ルヘシ故ニ或ル學者ハ是等ハ他ニ及ハスト主唱スルモ從犯ニ於テ一旦返還シ或ハ賠償シタル以上ハ殺唆者本犯ハ之ヲ返サント欲スルモ能ハサルモノナレハ若シ學者ノ說ノ如ク他ニ及ハストナスモハ大ナル不都合ヲ生シ法律規定ノ精神ニ背馳スルニ至ルヘキナリ

畢竟スルニ管ニ財產ニ對スル自首減輕ノ場合ノミナラス一般ニ關スル自首減輕ト雖モ固ヨリ敢テ理論ニ基ツキ正確ナル理由ヨリ出タルモノニアラサレハ之ヲ總則中ニ規定アルハ其當ヲ得タルモノニ非スト思惟ス依テ余ハ之ヲ廢止シ危急ノ發生ヲ豫防スルノ精神ニ出タル自首減輕若クハ偽造貨幣ノ未行使國事犯ノ陰謀ニ關スル自首減輕ノ如キハ之ヲ特別ノ自首減輕或ハ免刑トシテ各本條ニ記載スルコト歐米文明諸邦ノ法律ト同シカラント希望ス蓋シ自首減輕ヲ以テ總則中ニ置キタルハ日本刑法ノ外未タ文明諸邦ノ法律ニ其類ヲ見サル



### 酌量減輕

法律ニ於テ有期自由刑及ヒ金額ヲ以テ計算スヘキ刑ハ各犯罪ニ就キ其範圍ヲ定メ裁判官ヲシテ諸場合ノ情況ニ應シテ之カ相當ノ刑ヲ適用スルヲ得セシメタルモ尙ホ我刑法ハ第八十九條ニ於テ酌量減輕ナルモノヲ設ケタリ蓋シ凡百ノ犯罪タル其情狀ノ千差萬端ニシテ豫メ一定ノ規矩ヲ設ケ其正中ヲ得ルヲ難シ是ヲ以テ所犯情狀ノ原諒スヘキモノハ重罪、輕罪、違警罪ヲ問ハス裁判官ハ之ヲ酌量シテ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減スヘキモノト規定セラレタリ然レモ上來論シタルカ如ク我刑法ニハ種々ノ減輕ヲ設定セラレタレハ其減輕ヲ各犯罪ニ適用スルハ少シク寛ニ流ル、嫌ナキ能ハス故ニ死刑ノ刑罰アルモ酌量減輕ニ因テ減等スルヲ多ケレハ死刑ト稱スルモ死刑有期無期ノ範圍ト云フト敢テ異ナラサルノ結果ヲ生スヘキナリ蓋シ立法者ハ犯人ヲシテ酷刑ニ陥ラシムルノ弊ヲ防アントスルノ意ニ出テタルモノナラシ然レモ茲ニ注意スヘキ點ハ酌

量減輕ナルモノハ法律ノ酷ニ失スルノ故ヲ以テ之ヲ用ユルヲ得ス必スヤ所犯情狀ノ原諒スヘキ場合ニ限ルモノタルヲ是ナリ從來文明諸國ノ制度ニ於テハ酌量減輕ヲ及ホスト否ト及ヒ各刑範圍内ニ於ケル刑期金額ノ撰定ハ數多ノ斷例ニ依リ自カラ同一轍ニ出ツルノ傾向アルヲ以テ總則ニ於テ此等ノ減等ヲ規定スルノ必要ナク又タ之ヲ規定スヘキモノニモ非ス其之ヲ總則ニ規定シ一等乃至二等ヲ減スト爲スニ至テハ理論ニ適合シタルモノト云フ可ラス此ノ如キハ各本條ニ掲載シテ可ナリ

## 第六章 再犯加重

### 第一節 再犯意義

再犯トハ先ニ罪ヲ犯シ其裁判ノ確定シタル後再ヒ罪ヲ犯シタルヲ謂フナリ故ニ前ノ裁判ニシテ一タヒ確定シタル以上ハ未タ全ク其刑ノ執行ヲ終ラサルモ亦タ罪ヲ犯スニ於テハ之ヲ再犯トス而テ特赦期滿免除若クハ裁判後犯人ノ



逃走等ニ依リ其全刑ヲ逃レ又ハ當ニ一部ノ執行ヲ爲シタル時ト雖モ苟モ法律ニ於テ之ヲ罪ト認メ其刑ヲ科シタルモハ再犯ヲ以テ論スヘキナリ然レモ大赦ハ單ニ其刑ヲ免スルニ止マラスシテ全ク其罪ヲ消滅セシムルモノナルヲ以テ大赦ニ依リ其罪ヲ免カレタルモノ以後罪ヲ犯スノアルモ再犯ヲ以テ論スヘキニ非サルナリ以上講述セル所ハ我刑法第九十四條及ヒ第九十七條ニ於テ之ヲ規定セラレタリ

茲ニ注意スヘキハ前裁判ニシテ外國ニ於テ犯シタル罪ニ係リ再犯ノ罪ハ日本ノ刑法ニ問フヘキ場合ハ之ヲ再犯ト爲ス可ラス又ハ初犯軍事ニ係リ後犯ノ罪ハ此刑法ノ問フ所ナルモ亦タ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス是レ我刑法第九十六條ノ明示スル所ナリ然レモ縱令ヒ外國ニ於テ日本人ノ犯シタル罪ト雖モ日本國ノ安寧ニ關スル者ナルモハ再犯ヲ以テ論スルノ原理ニ適スルモノトシ初犯此刑法ノ犯罪ニ係リ後犯軍事ニ係ル場合ハ陸海軍刑法ノ定メタル所ニ依ルヘキナリ

又日本ノ刑法ニ於テハ種類ノ相異ナル犯罪ト雖モ仍ホ再犯ヲ以テ之ヲ論スレ

凡理論上同種ノ犯罪ナラサレハ之ヲ再犯ト云フ可ラス故ニ國事犯ト常事犯有意犯ト過失罪トノ如キハ其再犯ヲ以テ論ス可ラサルハ尙ホ軍事犯ト普通刑法ノ犯罪ト異ナル所アルニ等シカルヘシ是レ刑法ヲ研究スル者ノ宜シク注意スヘキノ點ナリトス

犯罪事件三犯四犯以上幾多ノ數トナルト雖モ其處分ノ方法ハ敢テ再犯ノ場合ニ處分スル方法ト異ナラサルハ我刑法第九十八條ニ於テ規定スル所タリ

### 再犯處分

再犯ノ處分ニ就テハ學者ノ議論區々ニシテ一定セスト雖モ要スルニ左ノ三種ノ說ニ過キス以下逐次之ヲ講述セン

第一說 再犯ノ時ニ於テ再犯ノ刑ト初犯ノ刑トヲ併加シタル刑ニ處スト然レ

モ此說ニ從フモハ一事再理セストノ原則ニ違反スルモノナリ

第二說 再犯ノ區別ヲ立テス初犯ハ既ニ其際ニ於テ處罰シタルヲ以テ之ヲ問ハス再犯ハ尙ホ初犯ト同シク其罪ニ相當スル刑ヲ科スレハ則チ足レリトスル



者ナリ  
 第三説 幾分ノ刑ヲ加重スヘシト謂フモノナリ而テ我刑法ハ現ニ此説ヲ採用  
 シテ本刑ニ一等ヲ加フヘキモノトセリ再犯加重トハ即チ是ナリ余ハ以下其理  
 由ノ存スル所ヲ論述セシ  
 再犯加重ノ理由ニ至リテモ學者ノ所説紛々トシテ百出スト雖モ余ノ思考スル  
 所ヲ以テスレハ再犯加重ナルモノハ法理上ヨリ之ヲ論スルキハ少シモ其理由  
 ノ存スルモノニ非スト謂ハサルヲ得ス依テ余ハ前掲第二説ヲハ賛成シテ能ク  
 理論ニ適フタルモノト爲スナリ何トナレハ初犯ハ既ニ相當ノ刑罰ヲ受ケ復タ  
 其義務ヲ殘サ、ルモノナレハ其咎延テ後犯ニ及フノ理アラサレハナリ然ラハ  
 何ノ基ツク所アリテ再犯ヲ加重スルヤ曰ク此レ全ク無主義ニシテ加重スルモ  
 ノニ非ス理由トハ何ソヤ一國政策上ノ方便即チ是レナリ蓋シ政策上再犯三犯  
 等屢、法律ヲ破ルモノアルハ社會ニ危險ナリトシ之ヲ防遏センカ爲メ加重シタ  
 ル刑ヲ科スル者ニシテ再犯加重ハ初犯ノ罪ヲ問フモノニ非ス全ク再犯ノ罪ヲ  
 斷スルモノナレハ決シテ一事ヲ再理スルモノニ非サルナリ然レモ學者中ニハ

ニハ往々初犯ノ罪ニヨリ既ニ處刑セラレ尙ホ之ニ懲リス再ヒ罪ヲ犯シタルヲ  
 以テ之ヲ罰スルトノ説ヲ爲ス者アレモ是レ誤謬ノ説ニシテ取ルニ足ラサルナ  
 リ今假リニ此説ニ從フトキハ再犯加重ヲ爲ス場合ニハ必スヤ初犯ノ處罰ヲ受  
 ケ其執行ヲ完結シタルモノニアラサレハ之ヲ用ヰルヲ得サルヘシ單ニ裁判  
 言渡ノミニテ未タ刑ノ執行ヲ受ケサル場合ニ在テハ論者ハ何ニ據テ犯者ノ未  
 タ懲リサルヲ知ルヤ裁判ノ確定ハ犯者ノ自由ヲ檢束スルノ實アル乎犯者ハ之  
 ニ依テ頓ニ眞心悔悟ノ念ヲ生シ逃レテ其執行ヲ受ケサルモ之ヲ懲治スルノ効  
 アリトナス乎決シテ然リト云フ能ハサルヘシ又或ハ犯者ハ先キニ盜罪ヲ犯シ  
 刑罰ヲ受ケ後ニ詐欺罪ヲ犯シタルトキノ如キ先キノ盜罪ニハ懲リテ再ヒ之ヲ  
 犯サ、ルモ詐欺罪ニ付テハ未タ刑罰ヲ受ケサルヲ以テ之ニ懲リルノ謂レナク  
 從テ虚心以テ其罪ヲ犯シタルヤモ知ル可ラサルヘシ是ニ因テ之ヲ觀ルニ我刑  
 法ノ再犯ヲ加重スル所以ハ單ニ政策上ノ理由ナル屢、法ヲ破ルト云フノ点ヲ罰  
 スルニ過キサルモノ、如シ然レモ第九十一條第九十二條及第九十三條ノ規定  
 ナ見ルトキハ犯法者ニハ必ス加重シタル刑罰ヲ加フルモノトモ云フ可ラサル



ナリ左レハ如何ナル理由ニ根原シタルカハ我刑法ノ法文上其理由ヲ探求スル  
 一能ハス畢竟スルニ再犯加重ハ罪ニ據テ之ヲ定メ各論ニ規定スヘキモノナル  
 ニ之ヲ汎論ニ規定シタルヲ以テ恐ラクハ此ノ如キ不都合ナル結果ヲ醸生スル  
 ニ至リタルモノナルヘシ  
 又再犯ヲ加重スルハ須ラク或ル犯罪ヲ犯シ之カ刑罪ヲ受ケタル後再ヒ前ト同  
 一種類ノ罪ヲ犯シタル場合ニ於テ之ヲ加重シテ罰スヘキナリ英國刑法ノ規定  
 ハ即チ此ニ出テ尤モ道理ニ適フタル法律ト謂フ可シ然ルニ我刑法ハ其犯罪ノ  
 種類如何ヲ問ハス有意犯ナルト無意犯ナルト盜罪ナルト生命罪ナルトノ區別  
 ナサス苟モ法律ニ觸ル、再度以上ナルニ於テハ皆之ヲ再犯トシテ其刑ヲ加  
 重スルモノトセリ此ノ如キハ犯者ヲ責ム可ラサルニ責メ極メテ嚴酷ニ失シタ  
 リト云フヘシ  
 然リ而シテ再犯加重ノ規定ヲ道理ニ據リテ解釋シ假令同種類ノ犯罪ニ於テ加  
 重シ罰スルモノトスルモ尙ホ不可ナルトアリ彼ノ復讐ノ爲メニ犯ス謀殺罪ノ  
 如キハ再度以上ノ犯罪ヲ生スルヲ稀ナレハ是等ノ犯罪ニ再犯加重ノ規則ヲ適

用スルハ道理上正當ノモノト云フヲ得ス再犯加重ハ特別ノ犯罪ニ適用スル方  
 法ニシテ一般ノ犯罪ニ適用スルモノニ非サルナリ然ルニ我立法官カ一般ノ犯  
 罪ニ適用スルノ規定ヲナシタルハ蓋シ佛國學者ノ再犯加重ハ特別ノ者ニ適用  
 スルヨリ一般ノモノニ適用スルト主張シタルノ説ニ賛成シタルヨリ生シタ  
 ルモノナラン

斯ク我刑法ニテハ有意犯無意犯其他犯罪ノ種類ヲ問ハス再犯ヲ加重シナカラ  
 一ノ制限ヲ規定シ初犯ノ罪ニシテ再犯ノ罪ヨリ輕キトキハ其刑ヲ加重スルト  
 ナク之ヲ加重スル場合ハ初犯ノ罪再犯ノ罪ヨリ重ク若クハ等シキ時ニ限レリ  
 故ニ再犯加重ハ左ノ四場合ニ於テ之ヲ爲スモノトス

第一 初犯再犯共ニ重罪ナル時

第二 初犯重罪ニシテ再犯輕罪ナル時

第三 初犯再犯共ニ輕罪ナル時

第四 初犯再犯共ニ違警罪ナル時

右ハ我刑法第九十一條第九十二條及ヒ第九十三條ニ於テ之ヲ規定セリ但違警



罪ハ極メテ輕キ罪ニシテ且ツ地方ニ依リ各相同シカラサルモノナルヲ以テ同  
 一ノ違警罪裁判所ノ管轄内ニ於テ一年內ニ再ヒ違警罪ヲ犯シタル場合ニ非サ  
 レハ再犯ヲ以テ之ヲ論セサルナリ  
 此ノ如ク初犯ト再犯トノ間ニ期限ヲ定ムルハ特リ違警罪ノミニ限ラス重罪輕  
 罪ニ就テモ亦適當ノ制限ヲ設クルコソ至當ノ法ト云フヘケレ現ニ普國ノ刑法  
 ニハ此期限ヲ定メタリ余ハ我刑法ニ此年期ノ規定ナキハ一ノ缺典ト思惟スル  
 ナリ或ル論者ハ主張シテ曰ク期滿免除ノ期限ニ依リ再犯加重ノ情狀モ亦消滅  
 スヘキモノナリト然レモ此說タル一ヲ知テ未タ其二ヲ知ラサルモノト云フヘ  
 シ何トナレハ再犯加重ナルモノハ固ト一事ヲ再理スルモノニアラサレハナリ  
 論者乞フ少シク思テ致サンコトナ

### 數罪俱發

#### 一罪數罪

同一ノ人ニシテ一罪未ダ判決ヲ經スシテ他ノ罪ヲ犯シ又ハ一罪既ニ裁判ヲ決  
 ナ經ルモ餘罪其後ニ發シタルトキハ之ヲ數罪俱發ト云フ而シテ數罪俱發ニ二  
 種アリ曰ク想像的ノ數罪曰ク實體的ノ數罪即チ是ナリ今先ツ想像的ノ數罪俱  
 發ヨリ論述セン

想像的ノ數罪俱發トハ犯罪タル一ノ所爲ニシテ數罪ヲ構成スル所ノ事實ヲ包  
 含スルモノヲ云フナリ然レモ犯罪ノ一所爲タルニハ一ノ結果ニシテ數多ノ名  
 義ヲ有シ又ハ一ノ動作ニシテ數多ノ犯罪タル結果ノ生スルコトアリ此場合ニ於  
 テモ其一所爲ハ依然タル所爲ニシテ尙ホ之ヲ想像的ノ數罪俱發トス例ヘハ有  
 夫ノ婦人ヲ強姦セル場合ニハ犯罪タル一所爲ハ唯タ其婦人ノ貞操ヲ破ルノ一  
 結果ヲ生スルニ過キスト雖モ然レモ此結果タル之ヲ分拆スレハ有夫姦ト強姦  
 トノ二個ノ名義ヲ有シ又タ一言ノ讒謗ノ爲メ數十人共ニ其害ヲ受ケタル場合  
 ノ如キ犯罪人ノ一言ハ乃チ一ノ動作ナルモ數多ノ犯罪タル結果ヲ生スルカ如  
 シ  
 實體的ノ數罪俱發トハ前ノ場合ニ反シ數多ノ犯罪タル所爲ニシテ數多ノ犯罪



ヲ構成スル事實ヲ包含スルモノヲ云フ然レモ爰ニ特ニ注意スヘキハ此ノ所爲ノ數多ナルニハ單ニ故意若クハ結果ノ數多ナルヲ以テ足レリトモ必ス數多ノ所爲アリテ數罪構成ノ事實ハ孤々獨立シタル動作ニ依リテ發生スルモノナラサル可ラサルト是ナリ故ニ其犯罪タル一所爲ハ數多ノ動作ヲ含ムヲ得ルモ數多ノ犯罪タル所爲ヲ含ムヲ得サルナリ今一例ヲ舉ケテ之ヲ示サンニ銃ヲ以テ人ヲ射殺スルニモ數多ノ動作アリテ始メテ其目的ヲ達スルモノナリ即チ犯人カ銃ヲ取ルノ動作彈丸ヲ裝入スルノ動作狙ヲ定ムルノ動作彈機ヲ引クノ動作彈丸飛行シテ傷ヲ負ハシムルノ動作及ヒ依テ其人ヲ殺スノ作動等數多ノ動作アルニ拘ハラズ犯罪タル所爲即チ人ヲ殺ス所爲ハ只一所爲タルニ過キサルナリ故ニ概括シテ之ヲ云ハ、想像的ノ數罪俱發ナルモノハ有名無實ノ數罪ニシテ實際ニ於テハ犯罪タル一所爲ニシテ數多ノ刑名ニ觸ル、モノニ外ナラス

想像的ノ數罪俱發ヲ處分スルニハ數多ノ犯罪中一ノ重キニ從ヒ裁判スレハ可ナリ故ニ此刑典ヨリ他ノ法律規則ニ於テ特ニ刑典ノ數罪俱發ノ例ヲ用ササル

旨ヲ規定セル場合ニモ想像的ノ數罪俱發ハ必ス其中ノ一ノ重キニ從フヲ要スルナリ加之ナラス罰金ノ如キニ至リテモ之ヲ併加スルトキハ尙ホ想像的ノ數罪俱發ハ其重キニ從フモノナリトス之ニ反シテ實體的ノ數罪俱發ヲ處分スルノ方法ハ決シテ其中ノ重キニ從フノ例ニ據ルモノニ非ス實體的ノ數罪俱發ヲ處分スルニ三主義アリ曰ク汲収主義曰ク併科主義曰ク折衷主義即チ是レナリ以下順次之ヲ講述セン

### 數罪俱發處分

#### 第一 汲収主義

汲収主義ニ二派アリ一ヲ吸罪派主義ト云ヒ一ヲ吸刑派主義ト云フ先ツ吸罪派主義ヨリ講述セン

吸罪派主義ニ於テハ數罪俱發スルトキハ輕キ罪ハ重キ罪ノ爲メニ吸収セラレテ消滅スルヲ以テ重キ罪ニ該當スル刑ノミヲ科スレハ以テ足レリト云フニ在リ故ニ其罪ノ輕重ヲ定ムルニハ全ク罪情ノ輕重ヨリシテ之ヲ定メサル可ラス



我刑法第百條第三項ニハ輕罪ノ刑ハ其所犯情狀最重キ者トアリテ罪ノ最モ重キ者ニテ處斷スト定メタルヲ以テ之ヲ觀レハ我刑法ハ同刑ノ輕罪刑ニ就テハ此主義ヲ採リタルモノ、如シ

此主義ニ就キ二様ノ批難スヘキ點アリ左ニ之ヲ舉ク

第一 數罪俱發ハ其所爲數多アリ個々獨立ノ犯罪アリテ且ツ未タ處斷ヲ經サル者タルニ唯タ其重キ一罪ニ問フカ如キハ他ノ犯罪タル所爲消滅シタルモノト云ハサルヘカラサルニ至リ之ニ反シテ既ニ處斷ヲ經テ其義務ヲ終結シタルモ尙ホ其再犯ニ係ル罪ハ更ニ加重シテ之カ刑ヲ科スルニ至リテハ再犯ノ場合ト數罪俱發ノ場合トハ大ニ刑ノ權衡ヲ異ニスルノ嫌ヒアリ

第二 大赦特赦非常上告其他ノ方法ニヨリ重キ罪若クハ刑ノ消滅シタルトキハ他ノ輕キ罪ニ至リテハ不問ニ附セサル可ラサルノ患アリ即チ此主義ニヨルトキハ重罪消滅スルトキハ輕罪ノ刑モ亦之ヲ問フコトヲ得サルニ至ルヘキナリ

吸刑派主義ニ於テハ數罪俱發ハ一ノ重キニ從ヒ處斷スト雖モ其重キ刑ヲ科ス

ルトキハ輕キ刑ハ之ヲ執行セサルモ可ナリ輕キ刑ハ自カラ其中ニ包含シテ執行サレタルモノナリト云フニ在リ例假ハ十年ノ懲役ニ該ル罪ト五年ノ禁錮ニ該ル罪トヲ犯シ二罪俱ニ發シタル場合ニ於テ之ヲ處斷スルニハ其重キ十年ノ懲役刑ヲ執行セハ五年ノ禁錮ハ自カラ十年ノ刑ヲ執行スル間ニ已ニ終結シ了レリト倣セリ故ニ此主義ニ從ヘハ若シ其重キ刑ニシテ消滅スルトキハ尙ホ他ノ輕キ刑ヲ執行スヘク刑ノ輕重ヲ比較スルニハ重罪ノ刑ハ期限ノ長キモノヲ以テ重トシ刑期ノ等シキモノハ定役アルモノヲ以テ重トシ刑ノ長短期限ノ範圍ヲ設ケタル輕重ノ刑ニ就テハ裁判官指定スル所ノ刑期ノ長短即チ所犯情狀ノ重キモノヲ以テ重トス然レモ此情況ニ依テ輕重ヲ定ムルカ如キニ至リテハ純粹ノ理論ヨリスレハ吸罪主義ニ從フタルモノト云ハサルヲ得ス何トナレハ刑ハ同一ニテ重輕ナキカ故ニ此場合ニハ只タ裁判官ハ其罪狀ニ依リ罪ノ重輕ヲ定ムルモノトナサ、ル可ラサレハナリ以上論述シ來レル所ハ我刑法第百條ノ規定スル所ナリ

今吸刑主義ヲ以テ吸罪主義ニ比較スルトキハ第二ノ非難ハ之ヲ免カル、ヲ得



ルモ第一ノ非難ニ至リテハ之ヲ免カル、トテ得サルナリ之ヲ約言スレハ吸刑主義ハ其刑ヲ併科セサルモ其罪ハ之ヲ併科スルモノナリ

第二 併科主義

併科主義ニモ亦二種アリ一ハ單純併科主義ニシテ一ハ制限併科主義ナリ余ハ先ツ單純併科主義ヨリ論述スヘシ

單純併科主義トハ茲ニ罪アレハ茲ニ刑アリトノ原則ニ從ヒ數罪俱發ハ數多ノ所爲アリテ又數多ノ罪アレハ各其刑ヲ併科セサル可ラスト云フニアリ即チ我刑法第一百一條ニハ違警罪二罪以上俱發スルトキハ各其刑ヲ科ストアリテ明ニ此主義ヲ採用セリ其他酒造稅則及ヒ煙草稅則等ノ如キ此刑典ノ數罪俱發ノ例ニ從ハサルモノニ在テモ亦皆此主義ニ從フタルモノナリ

此主義ニ於テモ亦非難スヘキ點二アリ

第一數罪ヲ併科スルニ於テハ輕微ナル罪ト雖モ犯數ノ増加スルニ從ヒ漸ク長期ノ刑トナリ又ハ重大ナル刑ヲ科スルニ至リ甚タ殘刻ニ涉ルコトアリ

第二 抑モ刑ト罪トハ彼是相當セサルヘカラサルモノナルニ刑ヲ併科スレハ

トテ罪モ亦併科シタル刑ニ應シテ大ナリト云フコト得ス例ハ三タヒ竊盜罪ヲ犯シタレハトテ一ノ竊盜罪ニ三倍ノ惡意アリト謂フ可ラスト故ニ二三ノ輕罪ハ一ノ重罪ヨリ輕キモ尙ホ其刑ハ同一ナルカ或ハ却テ重キニ至ルノ患アリ論者アリ此主義ヲ駁撃シテ曰ク死刑ト無期刑トハ到底之ヲ併科スルコト得サルヲ以テ單純併科主義ハ一般ニ行ハルヘキモノニ非スト然レモ此駁說タル其當ヲ得タルモノト謂フ可ラスト思フニ併科主義ハ斯ノ如キ攻撃ノ爲メニハ決シテ僻易セサルヘシ何トナレハ此主義ニ於テハ理論上死刑無期刑モ亦之ヲ併科スト雖モ死刑ヲ執行スルトキハ實際無期刑ヲ執行スルノ餘地ナキヲ以テ只タ兩ナカラ之ヲ執行スルコト能ハサルニ過キサレハナリ故ニ死刑ニ該當スル罪數多アルトキハ止タ其中一個ノ死刑ヲ執行スルノミニシテ爾餘ノ死刑ハ之ヲ執行スルコト得サルモ若シ大赦特赦又ハ其他ノ方法ニ依テ一ノ死刑消滅スルコトアリトスルモ他ノ死刑ハ尙ホ之ヲ執行スルコト得ヘキナリ夫レ然リ論者ノ駁說ハ未タ以テ單純併科主義ノ瑾瑜ヲ發シテ其根抵ヲ傷クルニ足ラサルナリ制限併科主義ハ單純併科主義ニ幾分ノ制限ヲ加ヘ併科スヘキ刑罰ノ程度ヲ設



ケタルモノニ過キサルナリ故ニ此主義ニ從ヘハ數刑ヲ併科スヘシト爲スモ其併科スヘキ刑ニシテ或ル制限ヲ超過スルコトヲ許サ、ルヲ以テ設令ヒ窃盜ノ二罪三罪ハ悉ク併科シ得ヘキモ其數十罪ニ及ンテハ竟ニ併科スルコト能ハサル場合アルヘシ今此主義ヲ以テ單純併科主義ニ比スレハ第一ノ非難点ハ之ヲ留メサルモ第二ノ非難ニ至テハ之ヲ免ル、コトヲ得サルナリ且ツ又此主義ニハ更ニ非難ヲ容ルヘキ一ノ場合ヲ生シ其制限内ニ於テハ竊盜罪ヲ數回犯シタル者ハ其罪數ニ從ヒ併科シタル刑ニ處スルコトヲ得ルモ若シ竊盜罪ヲ犯スコト當ニ數回ニ止マラスシテ現ニ數十回ニ及ヒ其罪極メテ多キトキハ之ヲ併科スルニ於テハ遙ニ其制限ノ範圍ヲ超越スルヲ以テ既ニ制限ニ達シタル以上ハ犯罪ノ數幾百回ノ多キヲ加フルモ皆ナ同一ノ刑ヲ科セサルヲ得サルノ不權衡ヲ生スヘシ我刑法ニハ特ニ明文ヲ掲ケテ制限併科主義ヲ採用シタルモノナキモ酒造稅則煙草稅則其他刑法ノ總則ノ數罪俱發例ヲ用ササル法律規則ニ於テ罰金ヲ併加シ之ヲ禁錮ニ換フル場合ニハ刑法第二十七條ノ規定ニ從ヒ其期限ハ二年ニ超過スルコトヲ得サルヲ以テ斯ノ如キ場合ハ之ヲ制限併科主義ヲ採用シタルモノ

ト做サ、ルヲ得サルヘシ

### 第三 折衷主義

折衷主義ニモ亦二種ノ別アリ曰ク混同主義曰ク加重主義即チ是レナリ以下順次之ヲ論述セン

混同主義トハ犯罪ニ依リ其刑ヲ併科スルモノト否トヲ定ムルモノニシテ我刑法ハ此主義ニ基キタルナリ而シテ重罪輕罪ニ就テハ我刑法ハ吸收主義ヲ採用シ二罪以上俱ニ發シタルトキハ第百條ノ規定ニ據リ一ノ重キニ從テ處斷スヘキモノトス然レモ余ハ其吸罪派主義ニ從フタルモノナルヤ將タ吸刑派主義ニ從フタルモノナルヤヲ詳カニスルニ苦ム者ナリ

又違警罪行政罰則ノ過半及ヒ沒収ノ如キハ單純併科主義ヲ採用シ行政罰則中罰金ヲ禁錮ニ換フル時即チ換刑處分ヲ爲スニ就テハ制限併科主義ニ從ヒタルコト我刑法第百一條及ヒ第百二條ニ依テ之ヲ知ルヘシ

我刑法ノ犯罪ノ種類ニ依リ混同主義ヲ採用シタルコト右述フル所ノ如シ然リ而シテ當ニ犯罪ノ種類ノミニ止マラス數罪一ノ重キニ從テ處斷スル方法ニ於ケ



ルモ亦混同主義ヲ採用セリ却チ我刑法第百二條第一項ニ曰ク一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ其輕ク若クハ等シキ者ハ之ヲ論セス其重キ者ハ更ニ之ヲ論シ前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算ス但前發ノ刑罰金科料ニ該リ已ニ納完シタル者ト雖モ第二十七條ノ例ニ照シ折算シテ後發ノ刑期ニ通算スト是レ明カニ吸收主義ニ從ヒタルモノ、如シ然ルニ其第二項ニ至リ若シ前發ノ罪ヲ判決スル時未タ發セサル罪再犯ノ罪ト俱ニ發シタル者ハ其再犯ト比較シ一ノ重キニ從ヒ前發ノ刑ニ通算セスト定メタリ故ニ若シ再犯ノ刑ニシテ未發ノ刑ト等シク前發ノ刑ヨリモ各々重キ場合ニハ甚タ輕キ刑ニ處セラレ未發ノ刑前發ノ刑ト等シクシテ各々再犯ノ刑ヨリ重キトキハ甚タ重キ刑ニ處セラレ遂ニ吸收主義ヲ貫徹スル能ハサルニ至レリ夫レ斯ノ如ク我判決ハ混同主義ヲ採用シタルモ固ト混同主義ナルモノハ理論上嚴格ニ論スルトキハ幾ント無主義トモ云フヘク且ツ吸收併科兩主義ニ附着セル所ノ批難弊害ハ擧ケテ混同主義ノ負擔スヘキモノナルヲ以テ我カ立法官ノ責任頗ル重シトス

スヘキモノトセスシテ數罪中一ノ重キ刑ヲ科シ爾餘ノ罪ニ至テハ其數ニ應ジテ幾分ノ刑ヲ加重スルノ原因トスルモノナリ是ヲ以テ此主義ニハ必ス左ノ三種ノ刑アルヲ想像セサルヘカラサルナリ

第一 數罪中ノ最重刑

第二 加重スヘキ諸刑ノ幾分

第三 實行スヘキ刑

是レナリ而シテ英國ニ於テハ全ク此主義ニ標據シテ其加重スヘキ刑ノ程度如何ニ至リテハ專ラ裁判官ノ所定ニ任シ自由ニ之カ加重ヲ爲スヲ得セシメタリ是レ寔ニ便利ノ制ト謂フヘシ然リト雖モ此主義ニ從フトキハ實行スヘキ刑ハ一種ノ新刑ヲ創設スルモノナリ而シテ數罪中ノ或ル刑ニシテ大赦特赦等ニ依リ消滅スルトキハ更ニ裁判官言渡ヲ爲シ其刑ヲ定メサルヲ得サレハ未タ以テ完全無缺ノ制度ト云フ可ラストシ之ヲ非難スル者アリト雖モ此駁説ヲ解クト難キニアラス蓋シ純然タル理論ヨリ推及セハ此場合ニ於テ敢テ再ヒ裁判ヲ用ササルモ適當ニ之カ加重ヲ爲シ其實行スヘキ刑ヲ定ムルヲ得ルノ方法ナキ



ニアラサレハ必スシモ裁判ヲ新ニスルノ煩ヲ來スノ弊ヲ生セサルナリ次ニ之ヲ論述セシ

數罪加重主義ハ數罪ノ平均刑ヲ科スルモノニアラスシテ數罪中ノ最重刑ヨリ更ニ一層重キ刑ヲ科セントスルモノナリ故ニ今四年ニ該當スル刑ト三年ニ該當スル刑ト俱發スルトキハ其科スヘキモノハ四年ト三年トノ平均即チ七年ノ半數ナル三年半ノ刑ニアラスシテ此二刑中ノ最モ重刑ハ四年ナルヲ以テ四年ヨリ一層重キ五年前後ノ刑ナリトス而シテ之カ計算ヲ爲スニ當リ適當ナル方法ヲ得ントスルニハ必スヤ物理上引力ノ原則及ヒ幾何學ノ原理ニ從ヒ以テ算出スヘシ然ルトキハ實行スヘキ刑ヲ得ルヲ甚ダ容易ナリ

數罪俱發ヲ處分スル適當ノ刑罰ハ物理學中數力集合シテ一力ヲ生スル原則ト相同シク二力ノ平方ノ和ヲ生スヘキ根數ニシテ幾何學上ヨリ之ヲ算スレハ直三角ノ勾股ハ二刑ニシテ玄ハ適用スヘキ刑ニ相當ス故ニ $a^2 + b^2 = c^2$ ノ二罪俱發シタルトキハ其適用スヘキ刑ハ $\sqrt{a^2 + b^2} + c^2$ ニシテ以下數十刑ニ及フモ同一理ナリ若シ確

定裁判後三罪中ノ刑消滅シタルトキハ執行官ハ直チニ $\sqrt{a^2 + b^2} = c$ ニ其刑ヲ改ムルヲ容易ニシテ別ニ裁判ヲ待タサルヘシ設例ハ三年ト四年トノ刑俱發シタルトキハ $\sqrt{3^2 + 4^2} = \sqrt{25}$ 即チ五年ノ刑ニ處スヘク三年ト四年ト十二年トノ刑俱發シタルトキハ $\sqrt{3^2 + 4^2} + 12^2 = \sqrt{5^2 + 12^2} = \sqrt{169} = 13$ 即チ十三年ノ刑ヲ適用スヘク若シ三年ノ刑消滅シタルトキハ $\sqrt{4^2 + 12^2} = \sqrt{150} = 12\sqrt{6}$ 即チ十二年ト三月ノ刑ニ處スヘシ

右ノ理由ナルヲ以テ加重主義コソ最モ正理ニ適セル公平ノ方法タリ故ニ此方法ニ從フトキハ十年ノ刑ト十年ノ刑ト俱發スルトキハ $\sqrt{10^2 + 10^2} = 14\sqrt{2}$ 即チ十四年一月二十四日ノ刑ニ處スヘキモノトナリ彼ノ數罪ヲ併科シテ二十年ノ刑ヲ科スルノ患ナク又其惡意ハ二倍シタルニ非ス且ツ單一ナル者ニモ同シカラサレハ十四年餘ノ刑ヲ科スルヲ相當ニシテ單一數罪中一ノ重キニ從ヒ十年ノ刑ヲ科シ他ノ十年ノ刑ヲ捨ツルカ如キ患モ亦之アラサルナリ而シテ數罪中一ノ刑消滅スルモ新ニ裁判ヲ用サスシテ容易ニ其刑期ヲ定ムルヲ得ヘシ故ニ此方法ニ據ルトキハ能ク吸收併科兩主義ニ附着セル所ノ缺點弊害ヲ除去シ頗



ル公平ヲ得ヘキモノト云フヘシ  
 然レモ此主義タル加重ノ制限ナキヲ以テ或ハ重キニ失スルノ弊アルヲ免カレ  
 スト論シテ駁擧ヲ試ミル論者アリト雖モ此主義ノ加重ノ程度ハ併科主義ノ如  
 ク急激ナラサルヲ以テ之カ制限ヲ設ケサルモ論者ノ患フル如キ弊害ハ萬々生  
 セサル可キナリ假リニ一步ヲ譲リ斯ノ如キ場合アリトスルモ是レ敢テ失當ノ  
 刑ニアラス只タ其罪ヲ以テ其重刑ニ相當スルモノト看做スヘキノミ若シ論者  
 ニ於テ之ヲ以テ重キニ過クルヲ怪マハ蓋ソ再犯三犯ハ積ンテ數十罪ニ至ル  
 場合ニハ管ニ其刑ヲ併科スルノミナラス尙ホ一等ヲ加ヘテ之ヲ嚴罰スルカ如  
 キ其刑ノ非常ニ過重ナル場合ヲ怪マサルヤ余ハ論者カ怪ム可キニ怪マスシテ  
 却テ怪ム可ラサルニ怪ムノ極メテ偏僻ナルヲ見テ轉々怪訝ノ至リニ堪エサル  
 ナリ

### 反覆罪

反覆罪ニ付テハ世ノ學者喋々論辯ヲ費シ頗フル議論ノアル問題ナレモ余ノ見

ル所ヲ以テスレハ左迄思考ヲ費サ、ルモ正當ノ釋解ヲ得ルヲ難キニ非サルヘ  
 シ即チ本罪ノ定義ヲ下セハ

反覆罪トハ數多ノ動作各同一罪ヲ構成スル事實ヲ具備スルヲ以テ一罪ト看做  
 スモノナ云フ或ル學者ハヨーン氏ノ如ク人ヲ連打スル時ハ反覆罪ニ非スシテ  
 繼續犯ナリト云フモ其所爲タル一打毎ニ結了シ終ルモノナレハ決シテ繼續犯  
 ニ非スシテ反覆罪タリサレモ余ハ敢テ之ヲ數罪ナリト云フニ非ス何トナレハ  
 其歐打タル何レカ重キカ決シテ知り得ヘキモノニ非サレハ定義ノ所謂數多ノ  
 動作各同一罪ヲ構成スル事實ヲ備具スル者ナルヲ以テ法律ハ此所爲ニ對シテ  
 ハ一罪ノ責任ヲノミ負ハシムルモノナレハナリ此ノ如ク一人ニ對シ數多ノ動  
 作アリタルトキハ反覆罪ナリト雖モ數多ノ動作アリ數多ノ人ニ對シテ其害ヲ  
 蒙ラシメタルトキハ之ヲ以テ反覆罪トナサ、ルヲ其通則ナリ然レモ犯罪ノ性  
 質ニ依リ其結果ヲ以テ法律上一個ノ犯罪ト見做ストキハ縱令ヒ數多ノ人ヲ害  
 スルモ尙ホ之ヲ反覆罪トナスヲ得ヘシ一例ヲ擧ケテ之ヲ示セハ同一ノ倉庫  
 中ヨリ數人ノ所有ニ係ル物品ヲ窃取シタル場合ニハ數人ノ被害者アルモ之ヲ

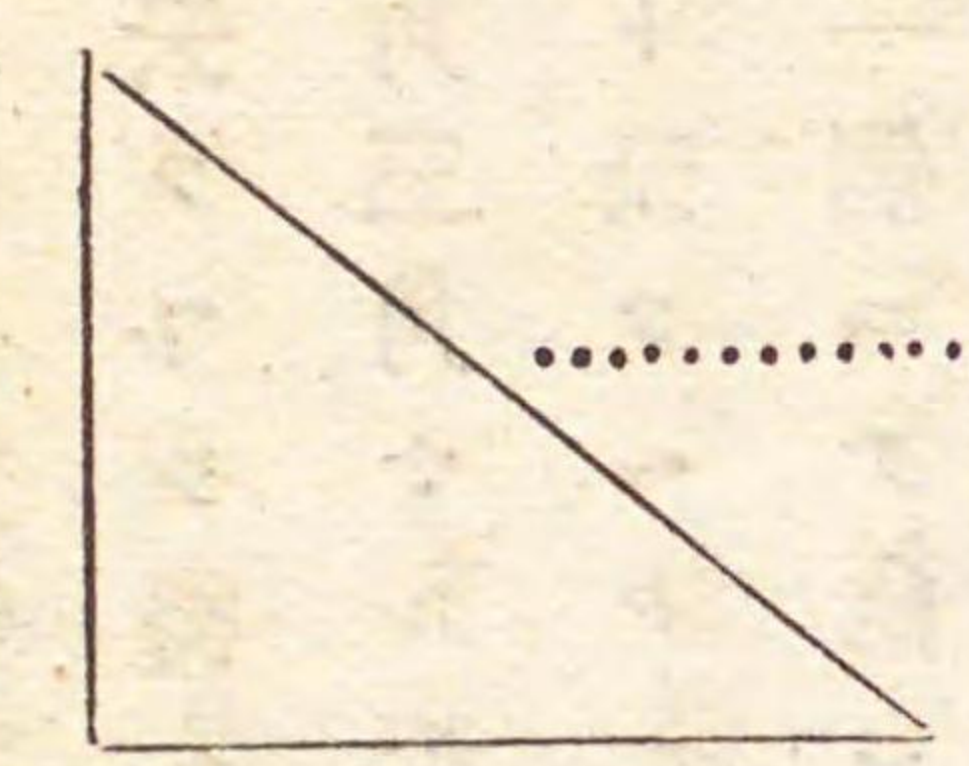


數罪トセスシテ法律ハ尙ホ一ノ竊盜罪ト做スナリ其他總テ財產ニ對スル犯罪ニシテ被害者ノ多少ハ犯罪ノ性質ニ關係ナク且ツ法律ノ目的トスル所ハ一般ニ財產ヲ保護スルニ止マル時モ亦然リ之ニ反シ人ノ身軀自由生命等ヲ害スル犯罪又ハ直接ニ之ヲ害セサルモ間接ニ人身ニ對スル犯罪ニシテ數多ノ動作數多ノ人ヲ害スル時假例ハ數多ノ人ヲ一室ニ封鎖シタル場合ノ如キ多クノ學者ハ之ヲ以テ各人ニ對シ一罪ヲ犯シタルモノニシテ數多ノ犯罪ナリト云ヘリ然レモ事實上ヨリ考フルトキハ嚴酷ニ失スルノ傾ナキニ非サレモ余未ダ正當ノ說ヲ得サレハ暫ラク學者ノ說ニ從ヒ數多ノ犯罪トナス

數多ノ動作ニシテ一ノ反覆罪トナルニハ其各動作ハ必ス同一ノ決意ニ出テタルモノナラサルヘカラス故ニ決意ニシテ同等ナルモ類似ナルモ又故意ニシテ終始同一ナルモ苟モ其決意ニシテ同一ナラサレハ忽チ反覆罪タル性質ヲ消滅シテ數多ノ犯罪トナルモノナリ

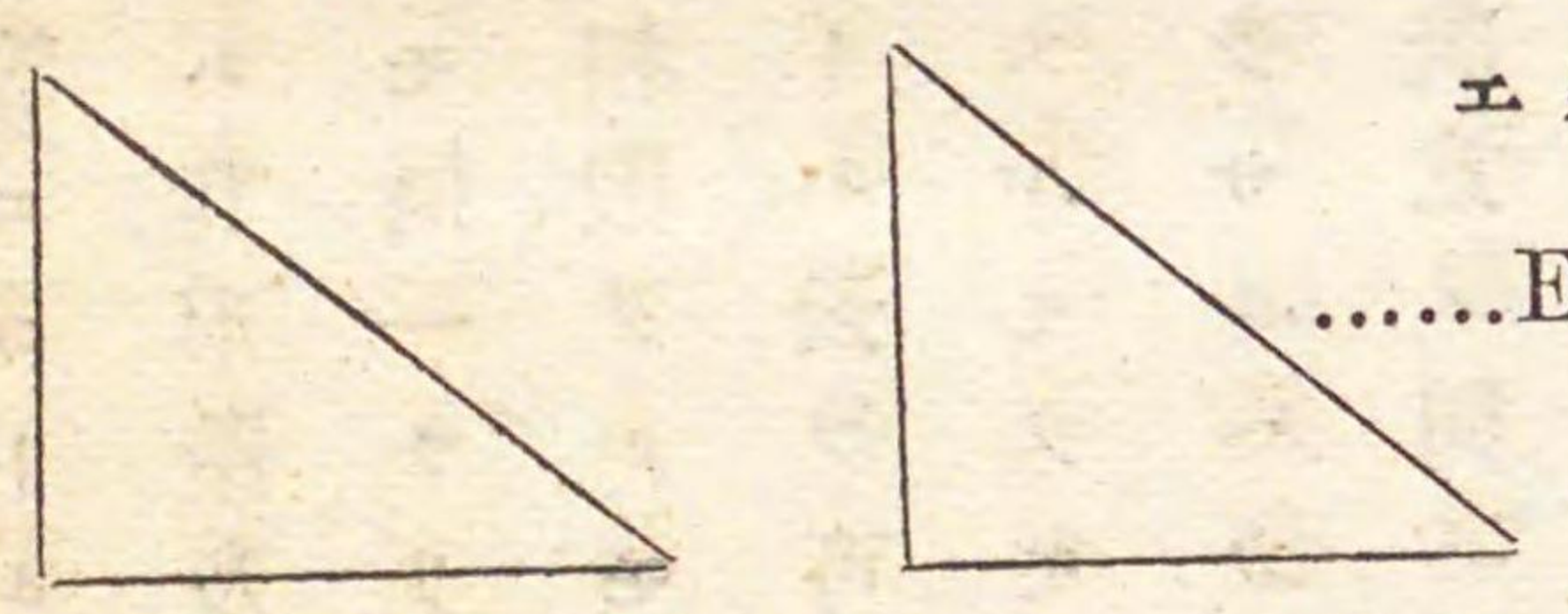
此ノ如ク邦語ヲ以テ決意ハ同一ナラサレハ縱令ヒ同等ナルモ類似ナルモ決意ニテ反覆罪タルヲナシト講述スルモ不完全ノ邦語到底其意ヲ了解スルヲ能ハサ

第一圖



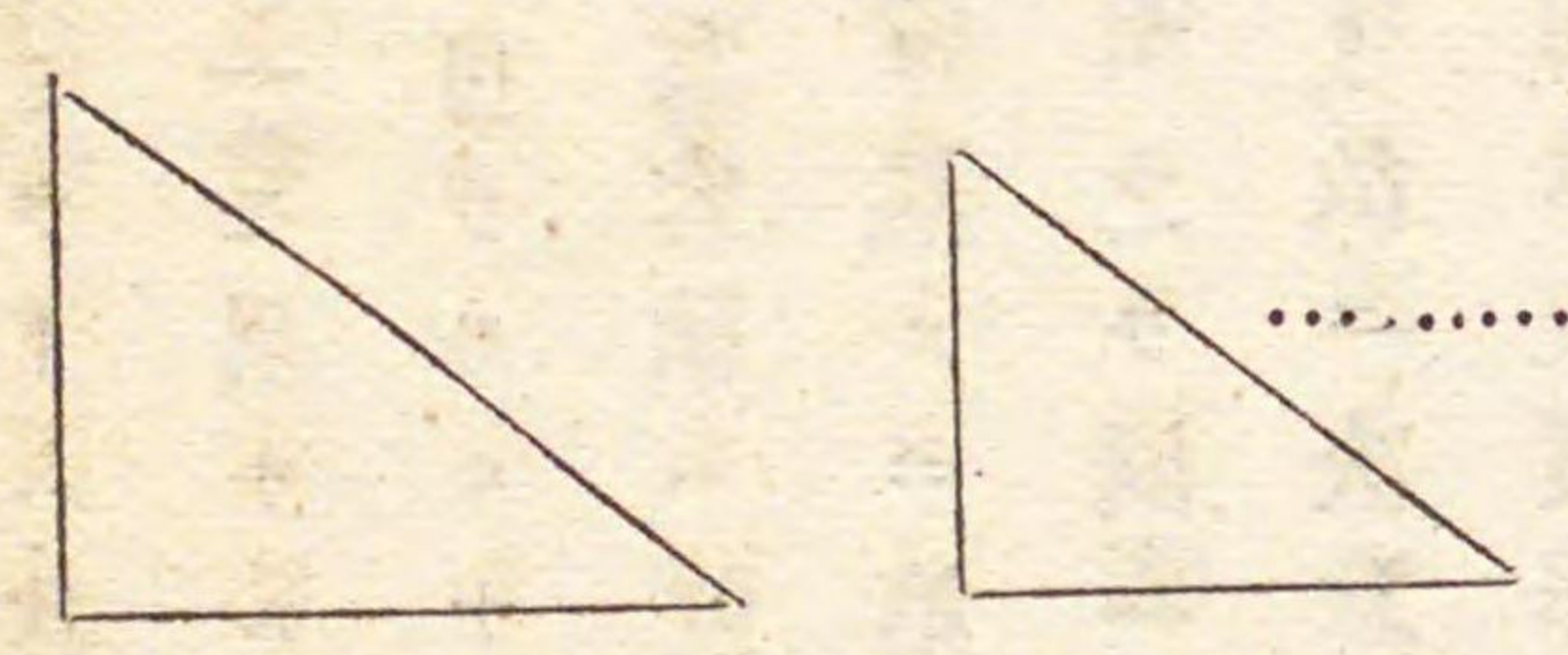
セーム  
..... Same.....(同一)

第二圖



エクォール  
..... Equal.....(同等)

第三圖



シミラー  
..... Similar.....(類似)

ルヘシ然ルニ英語ニ依ルトキハ其區別判明ナレハ今英語ニ依リ直角三角ヲ以之ヲ圖解シ其責ヲ明ニセントス



右ノ如ク同一(セーム)同等(エコール)及類似(シミラー)ハ其趣互ニ相異ナレハ即チ第二圖ノ二個ノ三角形ハ其形蹟及ヒ容積等一モ異ナルヲナケハ二者同等ナリト云フヲ得ヘシト雖モ同一ナリトハ云フ可ラサルナリ又第三圖ニ至リテハ直角三角ナル形チコソ相似タルモノナレ其容積ハ既ニ異ナルヲ以テ之ヲ類似ト云フヘクシテ同一トハ云フ可ラサルナリ然ルニ第一圖ノ如キ直角三角ハ唯一個ニテ他ニ又存在スルモノモノナケレハ之ヲ同一ト稱ス反覆罪ノ決意モ當サニ此ノ如キモノナラサルヘカラサルナリ故ニ決意ハ同等ナルモ類似ナルモ亦故意ハ同一ナルモ決意ノ同一ナ缺クトキハ反覆罪トナラサルナリ今反覆罪ノ證明ニ多ク引用セラル、一例ヲ擧ケテ能ク證明ノ意ヲ確明ニセントス爰ニ一倉庫ニ他人ノ米穀ヲ貯藏シタルニ之ヲ竊取スル者アリタル場合ニ於テ犯者カ他人ヲシテ其所有若クハ占有ヲ失ハシメント欲スルハ是レ故意ナリ而シテ犯者之ヲ竊取セントスルハ決意ナリ故ニ此決意ニ依テ竊取シタルトキハ數俵又ハ一俵宛之ヲ竊取シ其動作數回ニ及フモ尙ホ一罪ナリ然レモ最初ハ此決意ヲ以テ竊取スルモ一旦之ヲ竊取シ了レハ決意ハ完結スルヲ以テ次回ニ於テ

更ニ意ヲ決シテ之ヲ竊取シタルトキハ決意ハ同等ナルモ同一ニアラサレハ一罪トナスヲ得ス蓋シ次回ノ決意初回ノ決意ト同等ナリシハ單ニ偶然ニ出テタルモノナリ故ニ此場合ニ於テ他人ヲシテ米穀ノ占有ヲ失ハシメントノ故意ハ終始同一ナリト雖モ反覆ノ一罪トナス可ラス何トナレハ次回ニ於テハ之ヲ騙取セント決心スルヲアルヘキヲ以テナリ而シテ此反覆罪ノ原素タル數多ノ動作ニシテ互ニ其日ヲ隔ツルトキハ往々之ヲ連續犯ト稱ス故ニ連續犯ハ反覆罪ノ一種タリ然ルニ或ル學者カ連續犯ヲ連續犯ノ一種トスルハ大ナル誤謬ナリ而シテ此等ノ誤謬ハ彼ノ徵兵令違反ノ場合ニ生スルヲ多シ即チ徵兵適齡ノ者ハ必ス其年ノ期日迄ニ届出サルヘカラス然ルニ適齡後數年届出チナサ、ルトキハ之ヲ繼續犯ト云フモノ多シ今之ヲ圖解セハ

二十年	適齡ノ初年
二十一年	同 次年
二十二年	同 三年
二十三年	同 四年



右ノ圖解ノ如ク最初ノ適齡二十年ニ於テ届出チナサスシテ爾後二十三年迄届出チナサ、ルトキニ於テハ最初ヨリ其所爲チ繼續シタルモノナレハ繼續犯ナリト然レモ決シテ繼續犯ニ非サルナリ何トナレハ最初ノ年ニ於テ届出チナサスシテ其期日ヲ經過スルトキハ此ニ一罪ヲ生スルモノナリ次年モ亦然リ然レモ法律ハ其數罪ヲ悉ク罰スルモノニ非ス連續犯トシテ之ヲ罰スルナリ殊ニ之ヲ繼續犯トナストキハ不都合ナル結果ヲ生スヘキナリ例ヘハ一旦法律ニ違反シテ届出チ爲サ、ル者アリテ其求刑ヲ受ケ裁判言渡アリタル後數分數秒ノ時間ヲ經サル内再ヒ徵兵令違犯者ト爲ルヘシ何トナレハ前ヨリ其所爲チ繼續シ來レルチ以テナリ故ニ今日我國現行法ニテハ之ヲ繼續犯トナサスシテ連續犯トシ其處置ヲナスモノナリ

又反覆罪ヲ構成スル數多ノ動作ハ各同一罪ヲ構成スル事實ヲ具備スルモノナラサル可ラス故ニ竊取ノ動作ハ二三ナルモ亦反覆罪タルコトヲ得ヘシ然レモ一ハ竊取ノ動作ニシテ一ハ騙取ノ動作ナルトキハ縱令ヒ同一ノ財産ニ對スルモ決シテ反覆罪ニ非ストス換言スレハ數多ノ動作ハ皆同一種類タラサル可ラサ

ルナリ故ニ其動作ノ情態ニハ多少ノ異同アルモ其異同タル性質上犯罪ノ種類ヲ變スルニ足ラサルモノナレハ乃チ可ナリ

以上論述シ來レル所ハ反覆罪ノ大畧ナレモ余ハ聊カ諸君ヲシテ其何物タルコトヲ了知セシメタリト信スルナリ然ルニ學者中往々反覆罪ノ一罪タルニハ犯罪ノ物體若クハ被害者ヲ同フシ又ハ數多ノ動作ハ即時ニシテ同一ノ部分タラサル可ラサルト論スル者ナキニ非ス現ニハエールン、ハノーフル等ノ諸邦ノ刑法ニ於テハ此說ヲ採用セリト雖モ素ヨリ今日學者ノ容レサル所ナリ  
 反覆罪ハ本ト一罪タルカ故ニ之カ處分ヲナスニ當リテモ一罪トシテ論スヘキモノナルコト言テ俟タスト雖モ之ヲ常罪ニ比スレハ幾分カ加重スルチ至當トス然ルニ我刑法ハ之ヲ裁判官ノ心裡ニ一任シ敢テ法律上ノ加重ヲナスコトナシ

加減順序

本刑ヲ同時ニ加減スヘキトキハ先ツ一般ノ加減ト特別ノ加減トチ區分シ各其範圍全ニ於テ加減相減スルチ以テ至當トスレモ我刑法ハ加重減輕ノ方法ニ就



テハ既ニ論述シタルカ如ク單加單減ノ說ヲ採用シタルヲ以テ特ニ加減ノ順序ヲ定ムルノ必要ヲ生シタリ今第九十九條ニ規定スル所ニ據レハ其順序左ノ如シ

- 一 再犯加重
- 二 宥恕減輕
- 三 自首減輕
- 四 酌量減輕

右ノ如ク我刑法ニ於テハ加重ヲ先ニシ減輕ヲ後ニシ之ヲ相殺スルコトヲ許サ、ルカ故ニ本刑無期ニ係ルトキハ犯罪人ノ利益トナリ輕懲役ノ刑ニ係ルトキハ不利益トナルナリ例ハ無期刑ニ一等ヲ減スルトキハ加ヘテ死刑ニ入ルコトヲ得サルヲ以テ之ヲ有期徒刑ニ處セサル可ラスト雖モ若シ加減相殺スレハ無期徒刑トナルヘク又輕懲役ヨリ一等ヲ減スルトキハ輕懲役ニ處セラルヘシト雖モ若シ減輕ヲ先ニシ加重ヲ後ニスルトキハ輕罪ノ刑ヲ加ヘテ重罪ニ入ルコトヲ許サ、ルヲ以テ二年六月以上六年三月以下ノ重禁錮トナルヘシ

### 刑ノ消滅

#### 總說

事柄ニヨリ或ハ刑ヲ消滅スルコトアリ或ハ刑ノ執行ヲ中止スルコトアリ今先ツ刑ヲ消滅スル事項ヲ舉クレハ左ノ場合トス

- 一 犯人ノ死去
- 二 期滿免除
- 三 恩典

又刑ノ執行ヲ中止スル場合ヲ舉クレハ左ノ如シ

- 一 犯人ノ疾病
- 二 婦女懷胎死刑執行ノ命令前等

以上ハ裁判確定後ニ於ケル刑ノ消滅停止ニ係ル原因ナリ而シテ裁判確定前ニ於テモ被告人ノ死去、公訴ノ期滿免除、告訴ノ願下等刑ノ消滅ヲ致ス原因數多ア



リト雖モ我法律ニ於テハ之ヲ刑ノ消滅トセスシテ罪ノ消滅トシ治罪法中ニ記載セリ其他刑期満限、刑罰結了、刑罰ノ混同、刑ノ廢止等アリト雖モ余ハ唯裁判確定後ニ係ル所ノ事項中犯人ノ死去期満免除及ヒ恩典ノ三者ニ就キ左ニ論述スル所アラントス

### 犯人ノ死去

犯人死去スルトキハ刑罰ヲハ施シ得ヘキモノナキヲ以テ刑ノ消滅スヘキハ勿論ナリ而シテ論者カ財産刑ノ場合ハ此原理ノ例外トシ縱令ヒ犯人死去スルモ其相續人ニ對シテ之カ執行ヲ爲スモノトスルハ大ナル誤謬ニシテ今日學者ノ容レサル所ナリ蓋シ財産刑ヲ以テ犯人ノ死後ニ及ホスヘキモノトスルノ說ハ論者ニ於テ犯人ノ生存中裁判確定シタルトキハ則チ其金額タル政府ニ對スル一ノ負債ト看做スヘキヲ以テ其義務ハ犯人ノ死去ト共ニ消滅スルモノニ非スト誤信セルニ坐スル所ノ迷想ニ過キサルノミ抑モ刑ハ犯人ノ一身ニ止マルヘキモノニシテ其死後ニ及フモノニアラサルヲ至正ノ道理ナルハ復タ多言ナ

要セスシテ明カナリ然ルニ刑ノ執行ヲ犯人ノ死後ニ及ホス如キニ至リテハ全ク此原理ニ背馳スルモノト謂ハサルヲ得ス從來有名ナル佛國ノ學者フオースタン、エリー氏ノ如キハ主トシテ此說ヲ主張シ財産刑ハ犯人ノ死後ニ及フモノト論セリ獨逸及佛蘭西ノ刑法ニ於テモ現ニ此說ヲ採用スレト獨逸ニ於テハ夙ニ學者諸氏ノ排斥スル所トナリ又今日苟モ刑法ヲ講究スル學者ニ在テハ敢テ此說ヲ取ラサルナリ其故ハ此說タル第一罰金ノ徵收ハ刑ノ執行ニシテ且ツ刑ハ犯者ノ一身ニ對スル苦痛タルヲ忘却シ第二相續人ニシテ之ヲ納メサルトキハ換刑ノ處分ヲ行フヲ得サル點ニ注目スルヲナキヲ以テナリ夫レ財産ノ刑タル犯人充分ノ財産ヲ有シナカラ故意ヲ以テ之ヲ納完セサル場合ニ於テハ換刑ノ處分ヲ爲サル可ラスト雖モ其相續人タル充分ノ財産ヲ有スル者ニシテ故ラニ納完セサルヲアルモ之ニ對シテ換刑ノ執行ヲ爲スヲ得ス若シ殊更ニ納完セサル相續人ニノミ之ヲ執行スルトキハ政府ハ民事上ノ負債ヲ徵收スル爲メニ刑事ノ執行ヲ以テスルノ非難ヲ免カル、ヲ得サルナリ我刑法附則第二十條及ヒ白耳義刑法第八十六條等ニ犯人罰金科料ノ宣告ヲ受



ケ未タ納完セサル前ニ於テ死去シタル時ハ之ヲ徵収セスト定メタルハ頗フル  
 理論ニ適シタル良法ト云フヘシ沒収ノ處分モ亦財産刑ト同シク犯人死去シタ  
 ルトキハ其執行ヲナスコトヲ得サルハ其理由前述スル所ト異ナルモノナシ然レ  
 凡法律ニ於テ禁制シタル物件ハ行政上ノ處分又ハ相續人ノ犯罪トシテ犯人ノ  
 死後ニ於テモ必ス之ヲ沒収セサル可ラスト云フ如キハ余ハ其誤謬ノ大ナルモ  
 ノタルヲ知ル蓋シ法律ヲ以テ禁制シタル物件ナレハトテ犯人ノ死後附加刑ト  
 シテ之ヲ沒収スルコト決シテ爲ス可ラサルナリ何トナレハ法律ニ於テ禁制シタ  
 ル物件ハ固ト一般ニ其所持ヲ禁止スル者ナレハ犯人死去スルモ相續人ニシ  
 テ之ヲ所有スルトキハ其自己ノ所有タルコトヲ知リタル日ヨリ相續人ニ於テ其  
 所有ヲ禁制スル法律ニ違反シタル者ナレハナリ故ニ直チニ其相續人ヲ罰シ之  
 カ附加刑トシテ沒収スレハ可ナリ犯人ノ死後ニ之ヲ沒収スト云フハ大ニ不可  
 ナリ

若シ犯人死去シテ相續人ナキ場合即チ禁制物件ニ所有主ナキトキ或ハ其所有  
 主知レサルトキハ猶ホ遺失物ノ所有主ナキト同シク行政官署ハ行政ノ處分ヲ

以テ當然之ヲ沒収スレハ可ナリ此場合ニ於テハ其禁制物件タル恰モ曩々然ト  
 シテ道路ニ彷徨スル所ノ喪家ノ狗ニ異ナルコトナカルヘシ故ニ何レノ場合ト雖  
 モ苟モ犯人ニシテ死亡スルニ於テハ決シテ罰スルコトヲ得ヌ沒収モ亦附加刑ト  
 シテ之ヲ行フヘキ者ニアラサルナリ

### 期滿免除

#### 期滿免除ノ理由

期滿免除ヲ設ケタル所以ノ理由タルヤ別ニ喋々論辯セサルモ之ヲ解スルコト敢  
 テ難カラサルヘシ凡ソ一度行ハレタル犯罪ハ再ヒ之ヲ消滅スルコトヲ得スシテ  
 今日人ヲ殺シタルノ一事實アラハ縱令ヒ幾千萬ノ悠遠ナル年所ヲ經過スルコ  
 アルモ綿々繩々トシテ復タ之ヲ泯滅ニ歸セシム可ラス然レ凡歲月ノ久シキニ  
 亘ルニ從ヒ單ニ歷史上ノ一事實トナリ犯罪ノ惡結果ハ漸チ以テ消散シテ其損  
 害ハ自ラ舊狀ニ復スルノミナラス或ハ犯罪人ノ誰タリシヤヲ知ルコトヲ得サル



ニ至ルヘク好シ之ヲ知ルモ其間ニハ犯人已ニ過チ改メ善ニ遷リ犯罪ノ起因タ  
 リシ惡意モ亦萎靡シテ看ル可ラサルニ至リ社會ニ於テモ犯罪ノ所爲ヲ嫌惡ス  
 ルノ情ヲ泯滅シ隨テ故ラニ之ヲ罰スルノ必要ナク若シ強テ之ヲ罰スルトキハ  
 却テ社會ノ安寧ヲ害スルニ至ルヘシ故ニ公益ノ爲メ刑ノ期滿免除及ヒ公訴ノ  
 期滿免除ノ制度ヲ設ケ法律上其罪ヲ不問ニ附スルナリ然ルニ公訴期滿免除ノ  
 理由ヲ以テ年月ノ久シキニ彌ルトキハ證據湮滅シテ實際至當ノ處分ヲ爲シ難  
 シトノ一事ニ歸スルハ未ダ以テ充分ナル理由ト謂フ可ラス畢竟刑ノ滿期免除  
 ノ理由ハ公訴ノ期滿免除ノ理由ト相同シキモノニシテ幾分カ證據ノ湮滅ヲ慮  
 リタルモノアリト雖モ是レ主眼ノ理由ニ非ス何トナレハ已ニ一定ノ期限ヲ經  
 過シテ犯人期滿免除ヲ得タル場合ニ於テハ唯タ單ニ證據ノ湮滅ノミヲ以テ其  
 理由トスルトキハ縱令幾多ノ星霜ヲ經ルモ犯罪ノ證據依然トシテ存在スル者  
 ハ尙ホ之ヲ罰スルニ何等ノ妨ケアラサレハナリ佛國ノ鴻儒ベルトール氏ノ論  
 能ク其神髓ヲ得タル確説ナリトス右ノ如ク公訴ノ期滿免除ヲ設クル理由ヲ以  
 テ證據湮滅ノ故ニ歸スルノ説ハ其當ヲ得タルモノニ非サルヲ明ラカナリト雖

モ之ヲフオースタン、ユリーレアル諸氏ノ説ク所ニ比スレハ大ニ怨スヘキモ  
 ノト云フヘシフオースタン、ユリーレアル氏等ノ説ニ曰ク期滿免除ヲ設クル  
 ノ理由ハ他ニアラス犯罪者刑罰ノ實行ヲ免カル、爲メ多年ノ間其心中ニ大ナル  
 苦痛ヲ受ケタルヲ以テ別ニ其刑罰ヲ科セサルモ已ニ刑罰ノ執行ヲ全クセルモ  
 ノト同視スルニ出テタルナリト噫何ソ誤レルノ太甚シキ夫レ刑罰ハ國家カ犯  
 人ニ被ラシムル所ノ苦痛ナリ故ニ苟モ公ノ執行ヲ以テ其自由ヲ束縛スルモノ  
 ニ非サレハ決シテ刑罰ト云フ可ラス若シ夫レ犯人自ラ招クノ苦痛ヲ以テ國家  
 ニ於テ執行シタル刑罰ト同視セハ社會ノ廣キ人民ノ多キ囚人ヨリモ更ニ一層  
 ノ辛楚ヲ嘗ムルノ苦境ニ沈淪スル者其數幾許ナルヤ知ル可ラス此等不幸ノ窮  
 民ハ何ノ犯ス所アリテ刑罰ニ同シキ苦痛ヲ受クルヤ國家ハ何ノ辜スル所アリ  
 テ刑罰ニ同シキ苦痛ニ陷イルヲ見テ之ヲ恤マサルヤ論シテ此ニ至レハフオ  
 ースタン、ユリーレアル諸氏ノ説其取ルニ足ラサルヤ炳焉タリ宜ナル哉ベルト  
 ール氏ノ駁説ニ曰ク犯罪者カ心中ノ苦痛ハ社會ノ之ヲ強ユル者ニ非ス故ニ犯罪者  
 ニ於テ自由ニ之ヲ取ルノ苦痛ハ縱令ヒ確證アリトスルモ以テ社會ノ強迫ニ出



ツル刑罰トスルヲ得ス況ンヤ其確證ノナキニ於テハ之カ推測ノ力ハ忽チ消滅シテ其効力ヲ失フヘシ畢竟スルニ期滿免除ヲ設ケタル理由ハ只タ一私人ノ私益ヲ保護スルノ目的ニアラスシテ全ク公益ヲ保護スル爲メニ出テタルモノナリト實ニ氏ノ卓見ト稱スヘシ

斯ノ如ク期滿免除ノ制度ヲ立テ公益ヲ保護スルニ於テハ大ニ社會ノ安寧秩序ヲ維持スルヲ得ヘケレハ何レノ邦國タリトモ悉ク期滿免除ノ制ヲ設ケサルコトナシ然ルニ獨リ英國ニ於テハ此規則ヲ設ケサレハ爲メニ弊害ヲ生スルコト甚ナカラス是ヲ以テ學者スチーブン氏ハ其著書ニ於テ六十年前ノ竊盜ヲ罰シ二十年前ノ詐欺犯ヲ罰シタル等數多ノ實例ヲ引キテ期滿免除ノ必要ナルコトヲ論シタリ去レモ期滿免除ノ規定アラサル限リハ六十年前ハ勿論七十年八十年前ノ犯罪ニシテ一旦發露スル以上ハ法律上之ニ刑罰ヲ科スルハ復タ如何トモナス可ラサルナリ實ニ文物制度ノ完全ヲ以テ指稱セラル、英國ニ於テ此ノ如キ必要ナル期滿免除ノ規則ヲ設ケサルハ如何ナル理由ナルヤ元來英國ハ他國ト異ナリ如何ナル犯罪タリトモ皆國王ニ對スル犯罪トナシ之ヲ處斷スルノ制度ナ

ナルヲ以テ一旦犯罪ノ所爲アリタルトキ則チ國王ニ對スルノ犯罪ハ如何ニ數多ノ星霜ヲ經過スルモ決シテ泯滅ニ歸スルモノニ非ストノ理由ニ因リテ期滿免除ノ制度ヲ設定セサルナリ實ニ英國法律ノ一大缺典ト云フ可キナリ

期滿免除ノ期限

期滿免除ノ期限ニ就テハ我刑法ニ其明文ヲ掲ケ

第一 主刑ノ期滿免除ノ期限ハ第五十五條ニ於テ之ヲ規定セリ即チ以下述フ

- 一 死刑ハ三十年
- 二 無期徒刑ハ二十五年
- 三 有期徒刑ハ二十年
- 四 重懲役重禁獄ハ十五年
- 五 輕懲役輕禁獄ハ十年
- 六 禁錮罰金ハ七年



七 勾留科料ハ一年

我刑法ニ於テ期滿免除ニ期限ヲ設ケタルヲ右ニ列舉シタル如クナルニ因リ死刑ニ處セラル、犯罪人モ三十年ノ日月ヲ經過シ法網ニ觸ル、一ナク逃避シタルトキハ死刑ヲ執行セラレタルト同一トナルヘシ其無期刑ノ場合ニ於テモ二十五年間隱匿シタルトキハ終身ノ刑ヲ受ケタルト其割合ヲ同フス故ニ死刑無期刑ノ場合ニ於テハ期滿免除ノ期限短キニ失スルノ嫌ナキ能ハス之ニ反シテ有期刑ノ場合ハ各刑期ノ長期ヨリ期滿免除ノ期限長クシテ之ヲ經過スルニ非サレハ法律ノ恩惠ヲ受クルヲ得ス假例ヘハ有期徒流刑ノ長期ハ十五年ニシテ期滿免除ノ期限ハ二十年ナリ此期限ヲ過クルニ非ラサレハ有期徒流刑ニ適合セサルカ如シ其他重懲役重禁獄ノ如キモ亦然リ故ニ之ヲ死刑無期刑ニ比スルニ權衡ヲ得タルノ規定ト云フ可ラサルナリ

又期滿免除ハ刑ノ執行ヲ受ケタルモノ間斷ナク一定ノ期限間遁逃シタルトキハ刑ノ執行ヲ受ケタルト同シク再ヒ刑ヲ科セラレサルモノナレハ遁逃ナル所爲ヲ定ムルヲ必要ニシテ又誠ニ困難ナル問題ナリ殊ニ罰金ノ如キハ如何ナル

トキニ執行シタルカハ知リ易カラス假令ハ罰金ニ處セラレタルモノニ對シ民事裁判所ニ訴訟ヲ提起スルヲ以テ執行ト云フヲ得ヘキカ決シテ之ヲ執行ト見做ス可カラサルナリ畢竟スルニ罰金ニハ執行期限ナシト云フモ可ナリ故ニ其罰金ヲ取立タルトキニ以テ執行ト見做スヲ至當ナリトス

第二 附加刑ノ期滿免除ハ第六十條ニ於テ規定セラレタリ其期限ハ左ノ如シ

一 抑、附加刑ノ期滿免除ハ其主刑ニシテ期滿免除ヲ得ル場合ニハ共ニ期滿免除ヲ得ルヲ以テ通則トスレトモ我刑法ニテハ唯附加ノ罰金ニ就テノ

ニ此通則ニ準據シテ他ニ數多ノ例外ヲ設ケリ

二 剝奪公權停止公權及ヒ監視ハ例外ニシテ期滿免除ヲ得ス其故ハ此等附加刑ノ執行タル有形上之ヲ執行スルモノニアラサレハ期滿免除ヲ得ヘキ理由ナシト是レ刑法ノ定ムル所ナリ若シ此說ニ從フトキハ剝奪及ヒ停止公權ノ如キ若クハ監視ノ如キ附加刑ハ決シテ其執行ヲ逃カル、一ヲ得サル者ト云ハサル可ラス然レモ實際其執行ヲ逃カル、一能ハサルニアラス公權ヲ剝奪セラレタルモノ撰舉權ヲ行ヒ又教師學監ト爲リタ



ルトキハ其執行ヲ免カレタルモノト云ハサルヲ得ス蓋シ此點ニ就テハ  
 學者間種々ノ議論アリト雖モ要スルニ附加刑ナル者ハ主刑ト共ニ期滿  
 免除ヲ與フヘキト其ノ原則ナリ余ハ我刑法ニ於テ斯ノ如キ例外ヲ設ケ  
 タルノ理由何レノ點ニ在ルヤ未ダ解セサル所ナリ

三  
 沒収ハ五年ヲ經ハ期滿免除ヲ得ルト定メタルノ理ハ若シ主刑ト共ニ之  
 カ期滿免除ヲ得ルトストキハ些少ノ沒収ト雖モ其期限久シキニ涉ル  
 ノ弊アルヲ以テ之ヲ矯メント欲シテ反テ一層ノ弊ヲ醸シタルモノナリ  
 何トナレハ第一附加刑ノ輕少ナルハ豈特リ沒収ノミナランヤ第二違警  
 罪ノ主刑ハ一年ニシテ期滿免除ヲ得ルモ其附加刑タル沒収ニ至リテハ  
 五年ノ後ニアラサレハ之ヲ得ス第三此五年ノ期限タル主刑ノ裁判確定  
 ノ時ヨリ起算ス故ニ懲役以上ノ刑罰ニ在テハ之カ執行中五年ヲ經過ス  
 レハ附加刑ノ期限先ツ經過シ沒収ハ早ク己ニ消滅ニ歸スヘシ豈不權衡  
 ノ甚シキモノト謂ハサルヲ得ンヤ之ヲ要スルニ此ノ如キ種々ノ弊害ヲ  
 醸成セル所以ノモノハ立法官ニ於テ妄リニ手細工ヲ用ヰタルニ職由シ

四十四

タルモノナリ

四  
 我刑法ニ於テハ禁制物ノ沒収ハ期滿免除ヲ得スト定メタリ是レ無用ノ  
 長言ナリ苟モ法律ニ於テ禁制スル物件ナレハ之ヲ所有スル者ハ其罪ヲ  
 犯シタルモノニシテ犯罪ハ常ニ成立スヘキナリ故ニ附加刑ノ沒収ハ勿  
 論其主刑ト雖モ亦決シテ期滿免除ヲ得ルノ理由ナシトス夫レ然リ法律  
 ニテ禁制シタル物件ナレハ之ヲ所持スル以上ハ其犯罪ヲ罰スルハ之レ  
 主刑ナリ且其所持ノ繼續スル限りハ始終犯罪成立スル者ナルヲ以テ決  
 シテ刑ノ消滅スヘキニアラス何ソ之ヲ附加刑トナシ故サラニ其期滿  
 免除ヲ得サル旨ヲ定ムルノ必要アランヤ是レ實ニ贅文ナルノミナラヌ  
 若シ惡ルヲ解釋スルトキハ其意味ナキニ至ラン何トナレハ禁制物ノ沒  
 収ハ之ヲ所有若クハ所持スルコトヲ禁スルノ法律ニシテ沒収ハ即チ其制  
 裁トシテ附スル所ノ刑罰ナレハ期滿免除ヲ得ルノ理ハ解スヘカラサル  
 所ナレハナリ



### 期限ノ起算點

期滿免除ハ刑ノ執行ヲ逃レタル日ヨリ起算シ若シ捕ニ就キ再ヒ逃走シタルト  
 キハ其日ヨリ起算スルヲ以テ我刑法ノ規定トスレトモ亦之ニハ數多ノ例外ア  
 リ第一闕席裁判ニ係ル時ハ宣告ノ日ヨリ第二罰金科料ハ納定期日ノ經過シタ  
 ル日ヨリ第三沒収ハ裁判確定ノ日ヨリ第四死刑ハ死刑執行ノ令命アリタル日  
 ヨリ起算ス

我刑法ニ於テハ期滿免除ノ經過ハ犯罪人ノ捕ニ就キ又ハ最終ノ令狀ヲ出シタ  
 ルニ依リ中斷セラレ更ニ其期限ノ起算點ヲ新ニシ就縛前又ハ令狀ヲ發シタル  
 以前ノ時日ハ全ク消滅ス此ノ如ク期滿免除ノ經過ヲ中斷(公訴ノ期滿免除ハ然  
 ラス)スルノ數回ニ及ヘハ遂ニ期滿免除ヲ得ルノ期ナカルヘキナリ故ニ此ノ如  
 キ中斷法ヲ實行スルニ於テハ期滿免除ヲ設ケサルノ優レルニ如カサルナリ

### 恩典

### 總說

法律上恩典ヲ設ケ犯罪ヲ救助スル所以ノ理由ハ大約左ノ如シ

第一 恩典ハ立法上避ケ得ヘカラサル所ノ缺點ヲ補ヒ法律ト正義トノ間ノ權  
 衡ヲ保チ以テ其中庸ヲ得セシメントス  
 假例ハ刑法ニ於テ殺人ノ所爲ハ死刑ニ處スト規定シタル場合ニ於テ出  
 産シ未タ幾許ノ日月ヲ經過セサルノ赤子ヲ殺シタルトキ刑法ノ規定ニ  
 依レハ尙ホ之ヲ死刑ニ處セサル可ラス然レモ赤子ヲ殺シタル者ニ死刑  
 ナ適用シ其刑ヲ執行スルハ實ニ殘酷ニ失スルモノト云フ可キヲ以テ是  
 等ニハ宜シク恩典ヲ以テ其刑ヲ減等スヘキナリ然ルニ世間往々酌量減  
 輕ヲ是等ニ適用スヘキモノナルヲ論スルモノアリト雖モ酌量減輕ハ  
 孝心ヨリ生スル竊盜或ハ親ノ爲メニ讎ヲ復スル如キ事情憫量スヘキ場  
 合ニ於テ適用スヘキ減輕法ナレトモ法律ノ缺點ヲ補フ爲メニ設ケタル  
 者ニ非ス法律ノ缺點ヲ補フハ恩典ニ據ルノ外ナキナリ



第二 國家ニ於テ之カ刑ヲ執行スルノ必要ナシト認メタル時

第三 犯人ニ對シ己ニ刑罰ノ幾分ヲ執行シタル後眞心改悟ノ狀アルキ或ハ犯人ニ於テ其犯罪タル所爲ノ外其行跡改善シタル時

法律上恩典ヲ設置シタルハ右ノ三點ニ出テス故ニ恩典ハ各個人ニ施ス所ノ私惠ニアラスシテ純ラ公義ニ基キ公益ノ爲メニ行フモノナレハ恩典ヲ受クル所ノ犯罪人ハ勿論被害者及ヒ其親族ニ於テ之カ爲メ假令ヒ如何ナル利害ヲ及ホスモ恩典ヲ行フニ付キ更ニ關係ナキモノトス世ノ論者往々國家ハ私事犯罪ニ就キテハ決シテ恩典ヲ行ヒ得ヘカラス即チ財産ヲ盜マレ或ハ親ノ殺サレタル場合ニ於テ犯人ニ刑ノ執行ヲ實施セズ恩典ヲ與フルニ於テハ被害者ハ親ヲ殺サレ或ハ財産ヲ盜マレシ痛傷タル無形上ノ害ヲ償フ能ハサレハ是レ等ニハ恩典ヲ行フヘキニ非ストシ又ハ恩典ハ之ヲ拒ムコトヲ得ヘシト説ケトモ恩典ハ固ト公益ノ爲メニ設ケ敢テ私惠ヲ與フルニアラサル論理ヨリ推究スルトキハ右ノ説タル兩ナカラ其當ヲ得タルモノニ非ス今マ復タ左ニ之ヲ畧叙ス

第一 中世ノ學者カ私事犯罪即チ身體財産ニ對スル犯罪ニ就テハ國家ハ恩

典ヲ與フルコトヲ得ストスルノ説ハ誤謬ナリ何トナレハ恩典ヲ設クルハ公義ニ基クモノニシテ私惠ニアラサレハナリ

第二 恩典ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ特赦ハ格別ナリト云フ説アリ蓋シ其理由トスル所ハ初メ法律ヲ破フリ其罪ニ服セハ刑餘ノ身恩典ヲ受クルハ犯者ニ於テ屑シトセサル所ナルヲ以テ之ヲ辞スト言ハ、國家ハ強ヒテ其犯者ヲシテ恩典ヲ受ケシムルコトヲ得サルヘシト云フニ在リ然レモ是レ亦タ誤謬ノ説ナリ何トナレハ恩典ハ私益ノ爲メニ非スシテ公益ノ爲メニ與フルモノナレハナリ

恩典ニ四種アリ

- 一 棄權 棄權ハ裁判所ニ公訴ヲ提起スルノ權ヲ棄却スルモノニシテ一ノ恩典ナリト雖モ我刑法ハ特ニ之ヲ一種ノ恩典ト認メスシテ大赦中ニ包含スルモノト定メタリ
- 二 特赦 特赦トハ裁判後ニ其刑ヲ全免シ若クハ減等スルモノヲ云フ
- 三 復權 復權トハ一タヒ裁判ヲ以テ剝奪シタル能力ヲ復スルモノヲ云



四 大赦 大赦トハ裁判言渡ノ前後ヲ問ハス公訴權及ヒ刑罰執行權ヲ放棄スルモノヲ云フ

### 大赦

大赦トハ主權ノ作用ニヨリ犯罪事件ニ對シ其公訴權及ヒ刑罰執行權ヲ拋棄スルモノナリ

第一 大赦ハ犯罪事件ニ對スルモノタルヲ以テ主犯從犯ヲ問ハス苟モ其犯罪事件ニ對シテ責任ヲ負フモノハ悉ク此恩典ヲ受クヘシ

第二 大赦ハ犯罪事件ヲ遺忘セシムルモノナルヲ以テ嘗テ犯罪ノ成立セシヲ認メス故ニ無論再犯加重ノ原因トナルヲナシ又當然復權ヲ得ヘキナリ

第三 大赦ハ公訴權及ヒ刑罰執行權ヲ消滅セシモノナルヲ以テ裁判ノ前後ヲ問ハス既往將來ニ向テ其効力アリトス然レモ私訴ノ權ニ至リテハ之ヲ消滅セ

シムルヲ得サルナリ

抑私訴ハ刑事トハ別物ニシテ犯罪ニ因テ生シタル損害ノ賠償ハ公訴ニ非ス故ニ罪ノ成立スルヲナキモ苟モ其所爲アリテ損害ヲ致シタルトキハ被害者ハ民法ニ從ヒ之ニ對シテ起訴スルヲ得ヘキナリ夫ノ幼者ノ爲シタル所爲ノ如キ又ハ已ムヲ得サルニ出テタル所爲ノ如キハ犯罪成立セサルモ尙ホ私訴ヲ提起シテ其賠償ヲ受クルヲアリ夫レ然リ私訴ヲ以テ犯罪ヨリ生シタル損害ノ賠償ト云フトキハ頗ル語弊アリ宜シク犯罪ノ所爲ヨリ生スルモノトナスヘシ今一例ヲ擧ケテ之ヲ示カンニ余若シ人ヲ傷クルヲアリト假定セヨ被害者ハ余ニ對シテ損害金ヲ要求スヘシ余ハ其請求ニ應シテ賠償ノ責ニ任セサル可ラス此場合ニ於テ其損害ハ毆打ノ爲メ生シタル損害ニアラス全ク傷害ノ事實ニ依リ生シタル損害ナリ而シテ余ハ他人ノ強迫ニ遭ヒ已ムヲ得スシテ之ヲ傷ツケタルモノナリトスルモ尙ホ其責任ヲ免カルヘキニ非ス故ニ被害者ハ檢察官ニ於テ公訴ヲ起サ、ル場合ニモ其權利ヲ失ハサルヘキナリ是ノ如ク私訴ハ正當ニ民法ノ規定ニ從フヘキモノナルノミナラス民法ニ從フモ其明文ナキ場合ト雖モ



其責任ヲ免カル、ト難シトス  
 大赦ハ確定裁判ノ効力ヲ破フルモノニ非ス何トナレハ大赦ハ犯罪事件全體ヲ  
 消滅シ其公訴ヲ併セテ消滅セシムヘキモノナルヲ以テ其裁判モ亦消滅シ大赦  
 ナ以テ其効力ヲ破フルヘキ裁判ノ嘗テ存在セルコトナキモノトスレハナリ  
 又大赦ハ行政處分ニ非スシテ實際大赦ハ即チ法律ナリ而シテ大赦ハ率チ革命  
 ノ際ニ行フモノニシテ現ニ革命ノ際ノ外ニ之ヲ行フタル例甚タ少ナク我國ニ  
 在テモ王政維新ノ際赦ヲ賜ヒ本年二月ニモ亦之ヲ行ハレタリ特リ英國ニテハ憲  
 法ノ特性ヨリ往々之ヲ行フノ必要ヲ感スルコトアリテ平時ニ於テモ大赦ヲ行フ  
 少カラサルヲ以テ爰ニ英國ニテ大赦ヲ行フ場合ヲ説ケハ以テ之ヲ了解セラ  
 ルヘシト信ス蓋シ英國ノ君主ハ憲法上法律條例ヲ廢停スルノ權アルコトナシ故  
 ニ凶年饑歲ニ在テ商賈ノ私利ヲ貪ル者ハ公共ノ利害ヲ意トセス尙ホ穀物ヲ輸  
 出スルコト敢テ豐年樂歲ニ減セス此危急存亡ノ秋ニ當リ燒眉ノ急ヲ救ハンカ爲  
 メ自由輸出條例ヲ停止シ食料品ノ輸出ヲ禁止セサル可ラス此場合ニ於テ君主  
 ニシテ該條例ヲ停止セント欲スルモ憲法ノ許サ、ル所ナルヲ如何セン然ラハ

國會ヲ召集スヘキカ人民ハ饑エ泣ケリ之ニ依テ君主ハ己ムヲ得ス當路ノ大臣  
 ニ委任シテ其處置ヲ爲サシム大臣ハ自己一身ノ責任ヲ以テ法律ヲ破フリ斷然  
 現行ノ條例ヲ停止シ人民ノ饑餓ヲ救フコトナリ其越權專斷ノ所爲タルヤ論ヲ待  
 タサル所ニシテ罪固ト大ナリトス故ニ大臣ハ退テ其罪ヲ待ツ然ルモ後日ニ  
 至リ國會ノ開會セルニ迄テ其處分ノ情況ヲ考察シ以テ大赦條例ヲ發シテ特  
 ニ其罪ヲ免スヘキモノトスルヲ習慣トス畢竟英國ニテハ憲法上必ス然セサル  
 ヲ得サルナリ

特赦

特赦ハ囚人ニ對シテ確定シタル刑ノ全部若クハ一部ヲ免スルモノナリ  
 第一 特赦ハ人ニ就キ其刑ヲ免スルモノナルヲ以テ只指名セラレタル特定ノ  
 人ニ限リテ其効アリ  
 第二 特赦ハ刑ヲ免スルモ其罪ハ之ヲ消滅セシムルコトナキヲ以テ再犯加重ノ  
 原因トナリ又當然復權ヲ得ヘキモノニアラス



第三 特赦ハ既往ニ及ハス即チ裁判確定後ニ行フヘキモノナルヲ以テ將來ニ向テノミ其効力アリトス

特赦ハ確定裁判ノ効力ヲ破フルモノナレバ我國ニ於テハ裁判ヨリモ一層高等ノ權力ヲ有スルモノアリテ之ヲ命スルカ故ニ敢テ一概ニ論スヘカラサルナリ而シテ特赦ハ確定裁判ノ効力ヲ破フルニ足ルヘキモノナルヤ否ニ就テハ從來學者ノ議論多端ニシテ未ダ一定セサル所ナリ或論者ハ特赦ヲ以テ刑罰執行上ノ處分トシ確定裁判ノ効力ヲ破ララスト主張スレバ固ヨリ服ス可キノ説ニアラサルナリ假例ハ今犯人ニ對シ十年ノ刑ニ處スヘキ宣告ヲ爲シ其裁判確定シタルキハ其裁判ノ効力ハ如何必スヤ其宣告ニ從ヒ之カ刑ノ執行ヲ爲サ、ル可ラス果シテ其裁判ニシテ効力アリトスレハ之ヲ變更スルハ則チ其効力ヲ破ルモノト云ハサル可ラス故ニ余ハ特赦ハ國君カ確定裁判ノ効力ヲ破リ其裁判ヲ變更シ特ニ其至當ト認ムル所ノ刑罰ヲ科スルモノトスルノ説ヲ取ルモノナリ終ニ臨ミテ大赦ト特赦トノ區別ヲ判明ナラシメン爲メ二者ノ間ニ差異アル點ヲ舉示セシ

- 第一 大赦ハ犯罪事件ヲ消滅セシムレバ特赦ハ然ラス單ニ人ニ就テ其刑ノ全部若クハ幾分ヲ減スルノミ
- 第二 大赦ハ再犯加重ノ原因トナラス又當然復權ヲ得ヘキモノナリ特赦ハ刑ヲ免スルモ其罪ハ之ヲ消滅セシムルコトナキヲ以テ再犯加重ノ原因トナリ又當然復權ヲ得ヘキモノニアラス
- 第三 大赦ハ公訴權及刑罰執行權ヲ消滅セシムルモノナルヲ以テ裁判ノ前後ヲ問ハス既往將來ニ向テ効力アルモノトス特赦ハ裁判確定後ニ行フヘキモノナルヲ以テ既往ニ及ハス單ニ將來ニ向ツテノミ其効力アルモノトス
- 第四 大赦ハ確定裁判ノ効力ヲ破フルモノニ非サレバ特赦ハ確定裁判ノ効力ヲ破フルモノナリトス

復權

特赦ニ因リ刑ヲ免セラル、モ犯者ノ一タヒ剝奪セラレタル公權ハ當然回復シ



得ラルヘキモノニアラス何トナレハ特赦ハ犯罪人カ現ニ受ケタル所ノ刑ヲ免  
スルモノナルモ公權ニ至リテハ一旦之ヲ剝奪セラレタルキハ其刑ハ已ニ執行  
シ了リ更ニ免スヘキ刑罰ナキハ恰モ已ニ執行シタル死刑ヲ免スルヲ能ハサル  
ト同シカルヘシ故ニ法律カ復權ノ制ヲ設ケ一タヒ剝奪セラレタル能力ヲ附與  
スルニ在リ

復權ハ一タヒ剝奪セル權利ヲ回復セシムルモノニアラスシテ唯權利ヲ得ルニ  
足ルノ能力ヲ附與スルニ過キス故ニ既ニ剝奪セラレタル勳章年金其他官吏教  
師タルノ權等ハ復權ノ爲メニ之ヲ回復スルヲ得ス雷ニ後日ニ至リ勳功ヲ建  
テ勳章ヲ授ケラル、キハ之ヲ受有シ得ヘク又其任ニ當ラハ教師學監トナル  
ヲ得ヘキ能力ヲ得ルノミ我刑法ニハ權利ト能力トノ區別ヲ設ケラレスト雖モ  
第六十三條ニ將來ノ公權ヲ復スルヲ得ト規定セルハ即チ能力ヲ附與スル  
ヲ指シタル者ニ外ナラサルナリ

復權ノ効力ハ他ノ法律規則ニ及フハ當然ナリト雖モ亦少シク論スヘキヲアリ  
抑復權ハ公權ヲ得有スルノ能力ヲ附與スルモノナルヲ以テ刑法ニ定メタル公

權外ノ他ノ權利ニ及ンテ其能力ヲ附與スルモノニアラス故ニ一ノ犯罪事實ノ  
シテ國字新聞ノ記者タル權利ヲ失フタル者特赦ニ依テ復權ヲ得ルモ國字新聞  
記者タルノ權利ハ刑法ニ定メタル公權以外ノ權利ナルヲ以テ復權ニ依テ之ヲ  
回復シ得ヘキ能力ヲ與フルモノニ非サルナリ

上來論述シタル所ヲ以テ恩典ノ何タルヲ論シタレハ以下恩典ヲ得ルノ手續  
ヲ講セントス畢竟此手續タル行政上ノ處分ナルヲ以テ別ニ論スヘキモノニア  
ラサレモ唯タ其大牀ヲ示シ諸君ヲシテ了解シ易カラシメノヲ欲ス

大赦ヲ與フルノ手續ハ國々種々其趣ヲ異ニスルモ通常ハ法律ヲ以テ之ヲ與フ  
ルモノナリ

特赦ハ我國ニ於テ天皇陛下ノ與ヘラル、行政上ノ命令ナリ而シテ此命令ヲ得  
ルノ手續ハ檢事或ハ典獄ヨリ特赦ヲ與フヘキ理由ヲ司法大臣ニ具申シ大臣ハ  
之ヲ天皇陛下ニ奏問シ陛下ハ其與フヘキト否トヲ撰ヒ與フヘキハ之ヲ與ヘ與  
フ可ラサルハ之ヲ拒否セラル、ナリ而シテ我國ノ制ニテハ司法大臣ニ特赦ヲ  
具申シタルキハ大臣之ヲ取捨スル權力ヲ有スルモノニアラサレハ往々不都合



ノ結果ヲ生スルコトナキニアラス即チ特赦ヲ與フヘキニ與ヘスシテ與フ可ラサルニ與フルノ弊害ヲ生スルモノナリ英國ニ於テハ司法大臣ニ取捨ノ權ヲ附與スルヲ以テ大臣ハ其特赦ヲ與フ可キト否トヲ撰定シ然ル後ニ之ヲ奏問スレハ如此弊害ヲ生スルコトアラサルナリ

復權ヲ得ルノ條件及ヒ之ヲ許可スル方法ハ刑法第六十三條ニ於テ之ヲ規定シ又治罪法第四百七十條以下ニ於テ其手續ヲ定メタリ



刑法各論目錄

緒言

一丁

私人ニ對スル罪

一一丁

生命ニ對スル罪

同丁

正當防衛

一六丁

挑發

二三丁

謀故殺ニ關スル罪

二六丁

自殺ニ關スル罪

三二丁

過失殺罪

三四丁

墮胎ニ關スル罪

三五丁



身體ニ對スル罪	三八丁
自由ニ對スル罪	四五丁
暴行脅迫罪	同丁
逮捕監禁ノ罪	五一丁
遺棄罪	六〇丁
略取誘拐罪	六二丁
名譽ニ關スル罪	六八丁
祖父母父母ニ對スル罪	八一丁
子孫奉養ヲ缺クノ罪	八三丁
財産ニ關スル罪	八四丁

竊盜罪	同丁
受寄財物費消罪	一〇七丁
強盜罪	一一三丁
詐欺取財ノ罪	一二〇丁
贓物ニ關スル罪	一三七丁
遺失物埋藏物ニ關スル罪	一四三丁
財産毀損罪	一五〇丁
社會ニ對スル罪	一五五丁
社會ノ成立ヲ害スル罪	同丁
兇徒聚衆ノ罪	同丁



家宅侵入罪

一六〇丁

社會ノ危険ヲ醸生スル罪

一六九丁

放火失火ノ罪

同

決水ノ罪

一七五丁

船舶覆没ノ罪

一七八丁

公共ノ健康ヲ害スル罪

一七九丁

往來通信ヲ妨害スル罪

一八四丁

商業及農工ノ業ヲ妨害スル罪

一八六丁

公務ヲ行フコトヲ拒ム罪

一八七丁

公ノ信用ヲ害スル罪

一八九丁

貨幣ヲ偽造スル罪

一八九丁

貨幣偽造罪

一九〇丁

偽造貨幣ヲ受取行使スル罪

一九八丁

文書偽造ニ關スル罪

一九九丁

印章偽造ノ罪

二〇九丁

免狀鑑札及疾病證書ヲ偽造スル罪

二一二丁

度量衡ヲ偽造スル罪

二一四丁

身分ヲ詐稱スル罪

同

風俗道義ヲ紊ル罪

二一八丁

偽證罪

同



誣告罪

二二三丁

賭博犯及富籤興行ノ罪

二二七丁

賭博犯

同 丁

富籤興行ノ罪

二二九丁

猥褻姦淫重婚ノ罪

二三一丁

猥褻ニ關スル罪

同 丁

姦淫ニ關スル罪

二三五丁

重婚ニ關スル罪

二四一丁

宗教ニ關スル罪

二四三丁

宗教ヲ蔑如スル罪

同 丁

死屍ヲ毀棄シ墳墓ヲ發掘スル罪

二四四丁

皇室ニ對スル罪

二四八丁

皇室ニ對スル國事犯

二五〇丁

皇室ニ對スル常事犯

二五三丁

國家ニ對スル罪

二五五丁

國事犯

同 丁

國事犯一般ノ性質

同 丁

内亂ニ關スル罪

二五九丁

外患ニ關スル罪

二七一丁

外國ニ對スル罪

二七四丁



官權ノ執行ニ抗スル罪

二七七丁

官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

同丁

抗命ノ罪

同丁

官吏侮辱ノ罪

二八一丁

囚徒逃走ニ關スル罪

二八三丁

罪人藏匿ニ關スル罪

二八八丁

附加刑ノ執行ヲ逃ル、罪

二九一丁

官ノ封印ヲ破毀スル罪

二九三丁

政權ノ執行ニ抗拒スル罪

二九四丁

立法議會ノ議事ヲ妨害スル罪

二九五丁

公選ノ投票ヲ偽ハル罪

二九六丁

官吏瀆職ノ罪

二九八丁

總說

同丁

官吏公益ヲ害スル罪

三〇一丁

官吏人民ニ對スル罪

三〇四丁

官吏財産ニ對スル罪

三一丁

違警罪

三一三丁

刑典ニ於テ認メタル各種ノ違警罪

三一七丁

刑典以外ノ違警罪

三二一丁

刑法各論目錄終



刑法(各論ノ部)

法學士江木 衷講義

諸君余ハ已ニ汎論ノ講義ニ於テ述ヘタルカ如ク我カ刑法ヲ汎論各論ノ二箇ニ區別シ汎論ニ於テハ總則ヲ論シ各論ニ於テハ第二編以下ヲ論セント欲ス而シテ諸君ハ已ニ一年級ニ於テ汎論ノ講義ヲ聽了セラレタルヲ以テ余ハ今日ヨリ各論ノ講義ヲ爲サントス

世間刑法ヲ講スルモノ寡キニアラサルモ概テ意ヲ汎論ニ致シ各論ニ至テハ輕々講述シ去ルカ如シ是レ寔ニ各論ハ平易詳述スヘキモノナシトスルニアラサルナキカ然レトモ余ヲ以テ之ヲ見レハ學理上ヨリ論下スルニハ各論ノ難キハ汎論ニ過クルモノアラント思考ス夫ノ竊盜ハ他人ノ所有物ヲ竊取スルナリ謀殺ハ豫メ謀リテ人ヲ殺スナリ等ノ解チナスモノ、如キハ是レ唯其實例ヲ舉テ

刑法

一

既述ノ各論ノ目録

既述ノ各論ノ目録	三二一丁
既述ノ各論ノ目録	三二二丁
既述ノ各論ノ目録	三二三丁
既述ノ各論ノ目録	三二四丁
既述ノ各論ノ目録	三二五丁
既述ノ各論ノ目録	三二六丁
既述ノ各論ノ目録	三二七丁
既述ノ各論ノ目録	三二八丁
既述ノ各論ノ目録	三二九丁
既述ノ各論ノ目録	三三〇丁
既述ノ各論ノ目録	三三一丁
既述ノ各論ノ目録	三三二丁
既述ノ各論ノ目録	三三三丁
既述ノ各論ノ目録	三三四丁
既述ノ各論ノ目録	三三五丁
既述ノ各論ノ目録	三三六丁
既述ノ各論ノ目録	三三七丁
既述ノ各論ノ目録	三三八丁
既述ノ各論ノ目録	三三九丁
既述ノ各論ノ目録	三四〇丁
既述ノ各論ノ目録	三四一丁
既述ノ各論ノ目録	三四二丁
既述ノ各論ノ目録	三四三丁
既述ノ各論ノ目録	三四四丁
既述ノ各論ノ目録	三四五丁
既述ノ各論ノ目録	三四六丁
既述ノ各論ノ目録	三四七丁
既述ノ各論ノ目録	三四八丁
既述ノ各論ノ目録	三四九丁
既述ノ各論ノ目録	三五〇丁
既述ノ各論ノ目録	三五一丁
既述ノ各論ノ目録	三五二丁
既述ノ各論ノ目録	三五三丁
既述ノ各論ノ目録	三五四丁
既述ノ各論ノ目録	三五五丁
既述ノ各論ノ目録	三五六丁
既述ノ各論ノ目録	三五七丁
既述ノ各論ノ目録	三五八丁
既述ノ各論ノ目録	三五九丁
既述ノ各論ノ目録	三六〇丁
既述ノ各論ノ目録	三六一丁
既述ノ各論ノ目録	三六二丁
既述ノ各論ノ目録	三六三丁
既述ノ各論ノ目録	三六四丁
既述ノ各論ノ目録	三六五丁
既述ノ各論ノ目録	三六六丁
既述ノ各論ノ目録	三六七丁
既述ノ各論ノ目録	三六八丁
既述ノ各論ノ目録	三六九丁
既述ノ各論ノ目録	三七〇丁
既述ノ各論ノ目録	三七一丁
既述ノ各論ノ目録	三七二丁
既述ノ各論ノ目録	三七三丁
既述ノ各論ノ目録	三七四丁
既述ノ各論ノ目録	三七五丁
既述ノ各論ノ目録	三七六丁
既述ノ各論ノ目録	三七七丁
既述ノ各論ノ目録	三七八丁
既述ノ各論ノ目録	三七九丁
既述ノ各論ノ目録	三八〇丁
既述ノ各論ノ目録	三八一丁
既述ノ各論ノ目録	三八二丁
既述ノ各論ノ目録	三八三丁
既述ノ各論ノ目録	三八四丁
既述ノ各論ノ目録	三八五丁
既述ノ各論ノ目録	三八六丁
既述ノ各論ノ目録	三八七丁
既述ノ各論ノ目録	三八八丁
既述ノ各論ノ目録	三八九丁
既述ノ各論ノ目録	三九〇丁
既述ノ各論ノ目録	三九一丁
既述ノ各論ノ目録	三九二丁
既述ノ各論ノ目録	三九三丁
既述ノ各論ノ目録	三九四丁
既述ノ各論ノ目録	三九五丁
既述ノ各論ノ目録	三九六丁
既述ノ各論ノ目録	三九七丁
既述ノ各論ノ目録	三九八丁
既述ノ各論ノ目録	三九九丁
既述ノ各論ノ目録	四〇〇丁



タルニ過キスシテ毫モ其罪質ヲ剖析シタルモノニアラス裁判所ニ出テ我カ裁判官ノ所持スル刑法ヲ繙ケハ三百六十六條ノ所ハ著シク其紙ノ汚穢スルヲ見ル裁判官ノ日ニ取扱フ犯罪事件ノ多分ハ竊盜罪ニアルコト知ルヘキナリ然レトモ是等竊盜罪トハ如何ナルモノナルヤニ至リテハ漠然トシテ毫モ罪質ノ何タルヲ解スルモノナキニシモアラサルヘシ之レ余カ各論ヲ以テ汎論ヨリモ難シト云フ所以ナリ

余ハ今各論ノ本題ニ講義ヲ進ムルニ先チ犯罪類別ノ方法ト罪質區別ノ方法トナ一辯セサルヘカラス犯罪類別ノ方法ヲ知ラントスルニハ先ツ歐洲各國ノ立法官ハ如何ナル類別法ヲ採用セシカチモ知ラサルヘカラス我カ刑法ニ於テハ第二編公益ニ關スル罪第三編身體財產ニ對スル罪第四編違警罪ノ三種ニ區別ス而シテ違警罪ハ全ク之ヲ別罪トシ其ノ重輕罪ハ公益ニ關スル罪身體財產ニ關スル罪即チ公罪私罪ノ二種トセリ我カ刑法カ斯ル區別ヲナセシハ如何ナル所ニ原因セシカト云ヘハ其源ヲ佛蘭西刑法ノ類別ヲ汲ミタルモノニシテ英獨等ノ刑典ニハ斯ル變テコナル區別法アルコトナシ佛國ノ法律ハ羅馬法ニ淵源

シ羅馬法ニハ犯罪ヲ別ツテ公罪私罪ノ二トセリ故ニ我カ刑典ノ類別ヲ知ルニハ其ノ根元タル羅馬法ノ所謂公罪私罪トハ如何ナルモノナルヤヲ探求セサルヘカラス羅馬法ニ於テハ國家ニ對スル罪ト宗教ニ對スル罪トヲ合シテ之ヲ公罪トシ一箇人ニ對スル罪ヲ以テ私罪トセシモノニシテ我カ刑法ノ類別モ亦其ノ釁ニ倣ヒシニ過キスト雖モ文化ノ發達進歩スルト共ニ新性質ヲ帶ヒタル數多ノ犯罪ヲ發生シ來リ到底此ノ二類ニテハ總テノ犯罪ヲ網羅スルコト能ハス其ノ宗教ニ關スルモノハ姑ク置キ羅馬法ノ所謂公罪私罪ノ二類ニテハ其ノ刑法ノ保護支配スル所ノ物體モ亦無形ノ一箇人タル國家ト有形ナル各私人ノ利益タルニ止マリ社會公共ノ利益ニ至リテハ當時ノ文化未タ之ヲ顧ミルノ程度ニ達セサリキ換言スレハ羅馬法ハ獨リ官ト私トアルヲ認メテ公アルコトヲ知ラサリシモノト云フヘシ之ニ反シ近世ニ至リテハ學者ノ法律ヲ論スル國家社會及私人ノ三點ヨリ考察シ就中社會ニ屬スル法則ヲ犯スモノハ社會法則ノ大本ヲ破ルモノトシ刑法ノ保護ヲ要スルコト尋常ノ私罪ヨリ痛切ナリトセリ今國家社會及私人ノ區別ニ就キ一言センニ國家ト一箇人トノ別ハ分明ナルモ社



會ト國家トノ別ニ至テハ往々視テ以テ同一トナル諸君ノ胷中ニモ亦必ス了々タルコト能ハサルヘシ然レトモ二者ノ間實ニ涇渭ノ別アリテ存ス抑、國家ナルモノハ人爲ニ成リ社會ハ天爲ニ成ル故ニ社會ハ事實上ノ觀察ニシテ國家ハ法律上ノ觀察ナリ又實際ニ於テモ國家ト社會トハ全ク別箇ノ形狀アルヲ發見スルコト屢之アリ即チ一ノ國家内ニ數多ノ社會ヲ包含スルコトアリ例セハ日本ナル國家中ニ商業社會アリ工業社會アリ書生社會アリ官吏社會アルカ如シ又之ニ反シテ一社會中ニ數多ノ國家ヲ包含スルコトアリ例ハ文明社會中ニ英國佛國獨逸國アルカ如シ尙ホ他ノ點ヨリ之ヲ區別スレハ國家ハ法律上一箇ノ無形人ナルモ社會ハ無形人ニアラス又國家ハ滅亡スルコトアルモ社會ハ永世不滅ナルモノナリ是等ノ數點ニ由リテ之ヲ見レハ國家ト社會トノ間ニハ炳著ナル差異アルコトヲ知ルニ足ラン

未開時代ト雖モ多少社會ヲ爲スノ思想ナキニアラサルモ未タ利益ヲ共ニシ團結ヲ爲スノ力ナシ故ニ此ノ時代ニアリテハ一ノ人家ヲ燒クモ是レ唯一箇人ノ私益ヲ害シタルモノニ過キス然ルニ人文漸ク進ミ社會ノ組織成ルニ及ンテハ

人家稠密交通頻繁トナルヲ以テ一ノ人家ヲ燒毀スレハ一箇人ノ私益ヲ害スルニ止マラス公共ニ危害ヲ及ホスノ罪トナル故ニ古代ハ自ラ其ノ住家ヲ焚燒スルモ罪トナラサリシモ社會ノ組織成リ公共ノ利益ト云ヘル考ヘ起ルニ及ンテハ仮令自身ノ家ヲ燒クモ財産ニ對スル罪ニアラスシテ社會公共ノ危難ニ關スル罪トナルナリ是レ羅馬法時代ノ類別法ノ今日ニ採用スヘカラサル所以ナリ又今日ハ古代ニ想見セサル所ノ一種ノ新犯罪ヲ發生セリ即チ鐵道電信ノ如キニ對スル罪ハ羅馬法ヤ佛法ヲ作ル時代ニ之アルコトナシ仮令ハ人アリテ鐵道線路上ニ巨石ヲ置キ驛丁直チニ之ヲ取除クモ尙ホ其ノ者ハ社會ノ危難ニ關スル罪トナルヘシ是レ亦羅馬法類別ノ今日ニ適用スル能ハサル一證ナリ我國ノ立法官ハ刑法類別ノ方法ハ佛法羅馬法等ニ憑據シタルニ拘ハララス尙ホ我カ刑法中ニハ鐵道電信ニ關スル罪アリテ其ノ編入スル所ナキニ窮シ無茶苦茶ニ之ヲ公益罪中ノ靜謐ヲ害スル罪ノ部類ニ捻込ミタリ其ノ外諸君試ニ我カ刑法ヲ取リテ仔細ニ其ノ類別ヲ點檢セハ隨分奇々怪々噴飯スヘキ如キモノアルヲ見出スヘシ就中生命身體自由名譽ノ四者ヲ混同シテ謀故殺即チ生命ニ對スル罪



トシ逮捕監禁ノ罪即チ自由ニ對スル罪誹毀罪即チ名譽ニ對スル罪ヲ以テ身體  
ニ對スル罪トスルニ至リテハ學理ヲ遠カルコト極メテ甚シク墮胎ノ罪猥褻姦  
淫重婚ノ罪等風俗ヲ害スル罪ヲ以テ身體ニ對スル罪ト同視スルノ甚シキニ至  
テハ此ノ種ノ犯罪ヲ有形的且機械的ニ想像シタルモノカ然レトモ是等ノ犯罪  
ハ全ク社會ノ風儀ヲ害スルモノニシテ毫モ有形的機械的ノ作用ヲ要セズ余甲  
女ト結婚ノ式ヲ舉ケ區役所ノ届ヲ濟マシ其女子ニハ一指ヲ着ケス床上ニ据置  
キ更ニ又乙女ト結婚シ是ヲモ床上ニ据ヘ置キ一指ヲ着ケサルモ立派ニ重婚罪  
ハ成立スヘシ我カ立法官ノ精神ノ如キハ神變不可思議ニシテ到底吾人普通ノ  
能力ヲ以テ想像シ得ヘキニアラス故ニ余ハ斯ル奇々怪々思議スヘカラサル我  
カ立法官ノ意旨ヲ忖度スルノ勞ヲ執ラス專ラ學理ニ依リ學術トシテ我カ現行  
刑法ヲ論述セント欲ス然レトモ犯罪ノ類別方法ニ至リテモ我カ刑法ノ順序ヲ  
全廢シ細節ニ至ルマテ盡ク是ヲ變更スルキハ現行刑法ノ規定如何ヲ見ルノ不  
便アルヲ以テ其ノ細目ハ成ルヘク現行法ノ順序ヲ採用シ之ヲ批評スルニ止メ  
ノトス而シテ余ノ採用スル順序ハ概チ博士ガイエル氏カ學理的ノ考案ニ出テ

タルモノト稍相類スト雖モ特ニ皇室ニ對スル罪ト違警罪トヲ以テ各之チ一編  
トスルカ如キハ全ク其趣ヲ異ニス故ニ余ハ各論ヲ大別シテ五編トシ第一皇室  
ニ對スル罪第二國家ニ對スル罪第三社會ニ對スル罪第四私人ニ對スル罪第五  
違警罪トシ其ノ類別ノ要點ヲ舉示セン  
第一皇室ニ對スル罪 ハ特ニ之ヲ別罪トスルコトヲ要セズ國家ニ對スル罪及  
私人ニ對スル罪等ノ中ニ排列スルコトヲ得ヘシト雖モ我カ現行刑法ハ皇室ニ  
對スル國事犯ト常事犯トヲ合同シテ之チ一節トナシタル故余ハ便宜上特ニ皇  
室ニ對スル罪ノ一編ヲ設ケタルモノニシテ敢テ古代學者カ之ヲ以テ特別罪ト  
セル舊主義ノ論理ニ因據シタルモノニアラサルナリ  
第二國家ニ對スル罪 ハ一箇人タル家國ニシテ犯罪ノ物體タル場合ヲ包含ス  
ルモノ即チ第一國事犯内乱及外患ニ關スル罪第二外國ニ對スル罪第三百三十  
三條及第三百三十四條第三官權ノ執行ニ抗スル罪官吏ノ職務ヲ妨害スル罪官ノ封  
印ヲ破棄スル罪囚徒逃走ノ罪及附加刑ノ執行ヲ逃ルノ罪第四政權ノ執行ニ抗  
スルノ罪公選ノ投票ヲ偽造スル罪第五官吏瀆職ノ罪並ニ第三百七十七條トス但



シ官文書偽造貨幣偽造罪ノ如キハ政府ノ權ヲ害スルノ罪タルヲ以テ之ヲ國家ニ對スル犯罪中ニ列スルヲ可トスルノ學者ナキニアラスト雖モ是レ唯外形上ニ過キス

第三社會ニ對スル罪 此ノ犯罪ハ社會公共ノ幸福安全ヲ害スル所ノ者ニシテ第一社會ノ靜謐ヲ害スル罪兇徒聚集ノ罪私ニ軍用ノ銃器ヲ製造スル罪及人ノ住居ヲ侵ス罪第二公衆ノ危險ヲ生スル罪(放火失火決水ノ罪船舶覆没ノ罪往來通信ヲ妨害スル罪及健康ヲ害スル罪)第三公ノ風俗道義ヲ害スル罪(誣告偽證賭博猥褻淫重婚ノ罪死屍ヲ毀棄スル罪風俗ヲ害スル罪及宗教ニ對スル罪)第四公ノ信用ヲ害スル罪(貨幣官文書私印私書度量衡免狀鑑札ヲ偽造スル罪)及身分詐稱ノ罪第五公務ヲ行フヲ拒ム罪(第一百七十七條ヲ除ク)第六商業及農工ノ業ヲ妨害スル罪ヲ包含ス

第四私人ニ對スル罪 第一生命ニ對スル罪(殺人罪)第二身體ニ對スル罪(毆打創傷)第三自由ニ對スル罪(逮捕監禁器具取誘拐ノ罪等)第四名譽ニ對スル罪(誹毀罪)第

五財産ニ對スル罪ヲ包含ス

第五違警罪 此ノ犯罪モ亦之ヲ分析詳説スレハ殆ト重輕罪ニ下ラサル數多ノ類別ヲ爲スコトヲ得サルニアラサルモ是等ノ犯罪タル各地方ニ依リテ必スシモ同一ナラス且極メテ輕微ノ刑ヲ以テ之ヲ處スルニ止マリ其ノ目的トスル所モ亦行政警察ノ本旨ヲ貫徹スルノ補助タルニ過キサルヲ以テ余ハ之ヲ詳説スルノ勞ヲ避ケ單ニ之ヲ安寧警察營業警察衛生警察建築警察等ノ目的ニ出ツルモノニ類別シテ只其ノ大綱要目ヲ論スルニ止マルヘシ

各罪ノ性質異同ヲ詳ニセント欲セハ先ツ一般ノ犯罪構成ノ元素ニ依リ一定ノ標準ニ基キ以テ彼是ノ犯罪ヲ比較スルコトヲ要ス而シテ其犯罪ノ元素ナルモノハ犯罪ノ主體物體手段及所爲ナレトモ一般ノ犯罪ニ普通ナル條件ニ已ハ汎論ニ於テ詳述シタル所ノ如クナルヲ以テ各罪ノ性質異同ヲ論スルニハ此ノ四點ニ付キ特ニ其ノ犯罪タルニ必要ナル條件ヲ考察スルニ過キサルヘシ設例ハ官吏收賂ノ罪ニ就テハ主體ノ官吏タルヲ要ス盜罪ノ物體ハ有形動産ニ限り詐欺取財ハ汎ク有形無形ノ動産不動産ヲ包含シ誹毀罪ノ手段ハ公然ノ演説又ハ



刊行ノ文書等ニ出テス強盜ノ所爲ハ強取ニシテ遺失物ニ關スル罪ハ隱匿ニ成  
リ盜罪ノ所爲ニ就テハ特ニ惡意アルヲ要スルモ過失殺ハ故意アルヲ待タス又  
國事犯ノ所爲ハ豫備隱謀ヲ罪トシ未遂ノトキヲ以テ已遂ト同シク論スル等各  
論ニ於テハ凡テ總則即チ汎論ニ論述シタル原則ノ適用ノ外尙ホ各罪ニ固有ス  
ル主體物體手段及所爲ヲ論述スルニ過キサルナリ而シテ所爲中ニハ有意無意  
已遂未遂ヲ包含スルモ其明瞭ナランコトヲ欲シ別項ニシテ之ヲ論述スヘキナ  
リ  
又講義順序ニ於テモ學者或ハ罪ノ重キヲ先キニスルアリ或ハ輕キモノヨリ論  
スルアリ其ノ配置順序ハ各好ム所ニ從ヒテ未ダ一定ノ主義アラズ蓋シ學理上  
ヨリ論スルトキハ單純罪ヨリ複雜罪ニ論究スルノ方法ヲ執リ謀故殺ノ如キハ  
故殺ヲ先キニシ強竊盜ノ如キモ先ツ竊盜ヨリ始ムルヲ以テ順序ノ當ヲ得タル  
モノトス國事犯ハ諸犯ノ罪ヲ包含スルモノニシテ刑典上ニ於テハ之ヲ首編ニ  
排置スルコト至當ノ順序ナルヘシ故ニ余ハ各論ニ於テ皇室ニ對スル犯罪ヨリ  
論シタルニ拘ハラズ學理上ヨリ論シテ講步ヲ單純犯罪ヨリ複雜犯罪ニ進ムル

コト、ナシ先ツ私權ニ對スル犯罪ヨリ解明セシ

### 私人ニ對スル罪

#### 生命ニ對スル罪

生命ニ對スル罪分テ四種トス第一故意ニ出テタル殺人罪第二過失ニ出テタル  
殺人罪第三自殺ノ罪第四墮胎ノ罪是レナリ然レトモ是等ノ各罪ニ就キ其ノ本  
編ニ入ルニ先チ余ハ此等ノ犯罪ニ普通一般ナル性質及此等ノ犯罪ニ固有スル  
不論罪並ニ宥恕ノ原因ヲ論述セサルヘカラス  
殺人罪ハ權利ヲシテ他人ノ生命ヲ奪フノ所爲ヨリ成ル今此ノ罪ニ一般ナル  
元素ヲ舉クレハ左ノ如シ  
第一 殺人罪ノ主體ハ何人ト雖モ能力アル者ナレハ可ナリ是レ汎論ニ於テ講  
述シタル所ナレハ又贅セス  
第二 殺人罪ノ物體ハ生活スル所ノ有形人ナリ故ニ苟モ生命アル人類タル以



上ハ到底生存ノ見込ナキモノ若クハ癡疾其ノ他異形ナルモノタルト否トチ問ハスト雖モ死屍若クハ妖怪魍魎ニ至リテハ此ノ犯罪ノ物體タルコトヲ得サルナリ

第三 權利ナクシテ人ノ生命ヲ奪フタルモノニアラサレハ殺人罪ヲ構成セズ正當防衛裁判戰爭等ノ如キハ皆權利アリテ人ノ生命ヲ奪フモノニ過キス

第四 然レトモ生命ハ天帝ノ賦與スル所ニシテ天帝ノ外何人ト雖モ能ク生命ヲ奪フコトヲ得ス故ニ所謂殺人ノ所爲ハ人ノ生命ヲ喪失スルノ結果ヲ生スヘキ原因ヲ作爲スルニ過キス假例ハ甲者乙ニ宿怨アリ之ヲ途ニ要シテ其ノ頭ヲ

五寸斬リ乙未タ死セス氣臭奄ニ將サニ絶ントスル所ニ偶、丙者來リ又乙ニ怨恨アルニ付キ更ニ五寸ヲ斬リテ去リ丁亦更ニ五寸ヲ斬リ是ニ至リテ乙者始メテ絶息セシトスルモ甲丙丁ノ三人ハ乙者カ唯一ノ生命ヲ三分シテ是ヲ奪フ能ハ

サレハ三人シテ乙者ノ生命ヲ喪失セシムルノ原因ヲ與ヘタルモノニ外ナラス故ニ殺人罪タルニ要スル所爲ハ單ニ生命喪出ノ源タリシモノヲ指示スルニ過

キスト雖モ其源因タルニハ一般ノ犯罪ニ要スル責任アルノ外尙ホ必ス直接ニ

シテ且確定シタルモノタラサルヘカラス若シ果シテ否トセハ呪咀其ノ他ノ怪力ヲ以テ人ヲ誑死セシメ人ノ落膽スヘキ言ヲ吐テ之ヲ死ニ至ラシメ又ハ貧者ノ窮迫ニ依リ自殺スルヲ傍觀シテ之ニ金錢ヲ惠與セサルモノ、如キハ勿論凡ソ人ノ父母タルモノハ盡ク殺人犯タルヲ免レサルニ至ラン何トナレハ生ハ死ノ源因ナリ人ニシテ苟モ死アル以上ハ父母ハ即チ其ノ子ヲ生ムト同時ニ死亡ノ源因ヲ作爲スルモノナレハナリ死亡ト其ノ直接ニシテ且確定ナル源因トノ關係ヲ稱シテ因果ノ連結ト云フ一體因果ナル字ハドコヤラ坊主臭クテ穩當ナラサル熟字ナレトモ原語カ簡様ナル意味ナレハ致方ナシ今左ニ因果ノ連結ニ關スル一二ノ原則ヲ舉示スヘシ

(一) 因果ノ連結ハ犯罪人カ或ル結果ヲ生スルノ方向ニ就キ外形上ノ原因ヲ與ヘタルトキハ十分ナルモノニシテ縱ヒ其ノ所爲ヨリ遠大ノ結果ヲ生スルモ爲メニ其ノ連結ハ破壊スルモノニ非ス例ヘハ人ヲ殺サントシ毒ヲ食物中ニ盛り之ヲ食スルニ十分ナル處法ヲ施シタル時之ヲ食スルハ其ノ人ノ所爲ニシテ之ヲ食シテ死亡シタル如キハ食スルコトヨリ起リタル者ニシテ遠大ノ



結果ヲ生シタルモノナレトモ犯人ハ已ニ結果ヲ生スル方向ニ自ラ十分ナル外形上ノ原因ヲ與ヘタルモノナレハ強テ之ヲ食セシメサルカ爲メ因果ノ連結ヲ破リ其ノ責任ヲ免レシムルモノニ非サルナリ又游泳ニ巧ナル人其ノ術ヲ知ラサル者ヲ欺キ之ヲ深淵ニ誘導シ其ノ人ノ沈溺スルヲ傍觀シ其ノ死亡ヲ致シタル如キ或ハ産婆赤子ノ臍帶ヲ切斷シテ出血スルヲモ省ミ之ヲ放置シテ死亡セシメタルカ如キ又甲ノ常ニ通行スル道タルヲ知リ是ニ穴ヲ穿チタルヲ以テ甲ハ知ラスシテ是ニ陥リ死去シタル如キ皆遠大ノ結果ナレトモ因果ノ連結ヲ破ルモノニ非サルナリ

(二) 因果ノ連結ハ其ノ死亡ノ結果カ迅速ニ且熟練ナル方法ヲ施ストキハ十分生命ヲ全フシタルナラント云フトキニ於テ之ヲ用ヒサルカ爲メニ死亡セシ場合ニモ尙破フル、モノニアラス例セハ甲者乙ヲ縊殺シタルトキ良醫ヲ呼ビ迅速ニ治療ヲ施シメナハ必ス乙者ハ蘇生スヘカリシ場合ト雖モ甲者ハ夫レヲ口實トシ殺人ノ責ヲ免ル、ヲ得ス然レトモ積極ニシテ且有害ナル技術ノ爲メニ死亡ノ結果ヲ生シ若シ其ノ技術ヲ行フコトナケレハ必ス助命ス

ヘシト云フ場合ニハ因果ノ連結ヲ破リ責任ヲ生スルコトナシ假例ハ余甲ヲ毆打シテ創ヲ蒙ラシメタルモ其ノ創ハ極メテ輕少ニシテ致死ノ原因トナルヘキモノニアラサリシテ甲者ハ藪井竹庵ノ治療ヲ受ケタルカ爲メ竹庵ハ無要ナル截解術ヲ施シ終ニ其所爲ノ爲メニ死亡シタルカ如キハ其ノ死亡ノ原因ハ余カ毆打シタル結果ヨリ生シタルノミニアラサル故余ハ殺人罪ノ責ヲ負フコトナシ

(三) 因果ノ連結ハ被害者ノ身體上ニ或ル格段ナル構造或ハ不十分ナル爲メ又ハ他ノ之ニ加功スル情供アル爲メニ斷絶スルモノニアラス假例ハ余ハ本校ノ小使ナル老叟ヲ蹴倒シテ死ニ致シタルトキ彼ハヨボクシタル叟ナリシ故ニチヨット突倒シタル位ニテクタハリシナレ若シ彼カ強健ナル身體ナリシナラハ決シテクタバルコトハナカルヘケレハ余ハ殺人罪ノ責ニ任セストハ云フコトヲ得ス又余カ君ノ頭ヲ張リ飛シ君カ頭上ニ腫物ノアリシ爲メ君ハ即死シタル時余ハ君ニ腫物ナカリシナラハ假令頭ヲ張リタリトモ死ニ至ルコトナシト云フヲ口實トシ其ノ責ヲ免ル、ヲ得ス



然レトモ之ニ反シテ其ノ加功ノ事柄タル全ク偶然ノ出來事ヨリ來リタルト  
 キハ因果ノ關係ヲ起スモノニアラス假例ハ人ヲ轉倒シタルトキニ偶、巨巖ノ  
 天上ヨリ墜下スルニ際シ夫カ爲メニ死亡シタル如キハ偶然ノ出來事ヨリ生  
 シタルモノナレハ其ノ責任ヲ負フコトナカルヘキナリ  
 以上叙述シタル因果ノ連結ナル三原則ハ醫師ノ鑑定陪審官ノ事實調ヘニ依リ  
 犯人ノ行フタル所爲ハ果シテ死亡ヲ來セタル原因トナルヤ否ヤヲ判定スルヨ  
 リ始メテ因果ノ連結アルヤ否ヤヲ知ルコトヲ得ヘシ故ニ醫師陪審官ノ證明ニ  
 依リテ裁判官犯罪ノ責任ヲ定ムルナリ

正當防衛

特別不論罪ノ原因ナル正當防衛ノ一般ノ原理ハ曩ニ汎論ニ於テ講述シタル所  
 ナレハ今日ハ唯單ニ其ノ必要ナル條件ヲ擧ケテ以テ畧説スベシ  
 抑、正當防衛トハ自己又ハ他人ノ生命身體ニ對シタル不法ノ攻撃ヲ除去セン爲  
 メニ欲クベカラザル正當ノ所爲ヲ云フモノニシテ是ヲ分析スルトキハ次ノ數

則ヲ演繹シ得ヘシ

一、攻撃ハ不法ナルコトヲ要ス 我カ刑法ニハ不正ノ文字ヲ使用スルト雖モ法  
 律ニ反スル行爲ヲ指シタルモノナレハ之ヲ不法ト解スルヲ穩當ナリトス故  
 ニ若シ不法ニアラサルトキハ正當防衛ノ權アルヘカラス假令ハ獄吏ノ如キ  
 ハ罪人ヲ絞臺ニ登セテ見事ニ三寸ノ蟲ノ息ヲ絶タシムルモ法律ハ未タ之ヲ  
 以テ殺人犯ナリト認メス又該犯人ハ正當防衛ノ權アリトテ獄吏ニ抵抗スル  
 コトモ能ハサルナリ何トナレハ獄吏ノ行爲タル法律ノ命シタル所ニシテ我  
 カ職務ヲ執行スルニ過キサレハナリ又正當防衛ハ我カ權利ヲ行フモノナレ  
 ハ法律カ之ヲ默許若クハ宥恕スルノミニシテハ未タ足レリトセス必スヤ法律  
 ノ命シタル正當ノ所爲ナラサルヘカラス然ラハ此ノ二者ノ區別ハ何レニ存  
 スルヤ彼ノ抗拒スヘカラサル強制ニ對シテ自身ヲ防禦スルハ可ナルモ他人  
 ヲ殺傷スルカ如キハ法律上未タ以テ正當ナリト認ムルニハアラス已ムヲ得  
 サルノ所爲ナリトシテ法律之ヲ罰スルノ權利ヲ放棄スルニ過キササルナリ例  
 へハ破船ノ場合ニ二人ニテ一ノ浮袋ヲ爭フトキ一人ハ他ノ一人ヲ擠スモ法



律上之ヲ不法トナサス但シ亦正當ノ所爲ナリトモセス而シテ之ヲ罰セサル  
ハ已ムヲ得サルノ所爲ナルヲ以テ國家ノ棄權ニ基クナリ故ニ曰ク不法ニア  
ラサルト已ムヲ得サルトハ混同スヘカラサルナリ然レトモ此ノ點ニ關シテ  
ハ歐洲學者間ニモ夙ニ異論アル大疑問ニシテベルテル氏ノ如キハ此ノ場合  
ニ正當防衛權アリト主張シテ曰ク一方ハ他方ヲ撲ツ故ニ他方ハ一方ヲ殺ス  
モ互ニ正當防衛ノ權アルト同一ナリト云ヘリ然レトモ是ハ無論机上ノ空論  
ニシテ數多ノ學者ハ相續キテ攻撃セリ余モ各論ノ第一版ヲ刊行スル當時ベ  
ルテル氏ノ説ヲ信セシモ今ニ至リ翻然其ノ非ナルヲ知レリ試ニ一ノ例ヲ以  
テ示サノニ茲ニ剛者アリ余ノ手ニ刀ヲ握ラシメテ強テ他人ノ頭部ヲ目掛ケ  
アハヤ一刀ヲ下サントスルトキ他人ハ余ニ對シテ正當防衛權アリトシテ予  
ヲ殺傷スルモ可ナルヤ予ハ實ニ迷惑ナル位地ニアリト云ハサルヲ得ス他人  
ナル其ノ人カ若シベルテル氏自身ナルトキハ必ス其ノ正當防衛權アルコト  
ヲ主張スルナルヘシ然レトモ是レハ大ナル誤謬ナリト云ハサルヲ得ス但シ  
剛者ニ對シテ正當防衛權アルノミ余ハ剛者ノ一ノ機械ナルノミ果シテ然ラ

ハ他人ハ生命ノ危急ニ陷ルモ尙ホ優然トシテ袖手スヘキヤ豈夫レ然ラシ此  
ノ場合ニハ最早刑法第七十五條ヲ適用シテ已ムヲ得サルノ所爲ナリトシテ  
斷センコソ至當ナレ  
攻撃ハ不法ナラサルヘカラサル故ニ單ニ善クナイトカ又ハ不正ナリトノミ  
ニテハ不可ナリ然ラハ則チ不法ナルコトヲ解スルノ能力アル人類ナラサル  
ヘカラス若シ完全ノ人ニアラスシテ自然力又ハ幼者瘋癲人妖怪其ノ他ノ動  
物ヨリ攻撃セラル、モ是等ニ對シテ正當防衛權アルコトナシ然ルニベルテ  
ル氏ノ説ヲ敷衍スルトキハ犬ノ吠ユルニ對シテモ尙ホ正當防衛ノ權アリト  
云フニ至ルヘシ例ヘハ茲ニ十二歳以下ノ幼者アリ秋水ヲ閃シテ深夜閨房ニ  
至リ夫婦ヲ脅カシテ曰ク有リ金ヲ出サ、レハ汝等ヲ虐殺スト此ノ場合ニ夫  
婦ハ危機迫ルモ尙ホ正當防衛權ナキヤ曰ク然リ唯刑法第七十五條ノ適用ア  
ルノミ又若シ十二歳以下ナルコトヲ知ラサルカ若シハ瘋癲人タルコトヲ知  
ラスシテ反撃シタルトキハ如何トハ隨分困難ナル問題ナルモ畢竟知ラサル  
トキハ事實ノ不識ナルヲ以テ可ナリト論決セサルヘカラス然レトモ十二歳



以下ノ幼者ヲ殺シテ丁年以上ノ者ナリト思ヒシト抗辯スルモ不可ナラン故ニ此等ヲ區別スルノ標準ハ下手者ノ心中ノ思考ニアラスシテ情供ヲ以テ判斷セサルヘカラス即チ何人カ見ルモ十二歳以下ノモノナラン若クハ丁年以上ノモノト思フナラントノ如キ外形のヨリ區別スルヲ至當トス梅ヶ谷ノ如キ骨格ノ強盜アラハ何人モ十二歳以下ノ幼者ト思フマシ實際稀有ノ大兵ニシテ十二歳以下ノモノナルモ丁年以上ノモノト認定シテ可ナリ

二、攻撃ハ現在ナラサルヘカラス 受ケタル攻撃ニシテ危機既ニ去リタルトキハ正當防衛權ヲ使用スルコトヲ得サルナリ即チ他日ニ至リテ前日ノ事ヲ追想シ渠奴憎キカナト思ヒ惟フモ既ニ後ノ祭ニシテ何ノ効モアラサルナリ然ルニ我カ刑法三百十六條ニハ危害已ニ去リタル後ニ於テ勢ニ乘シ仍ホ害ヲ暴行人ニ加ヘタルモノハ其ノ罪ヲ宥恕スルコトヲ得トセリ

三、攻撃ハ暴行ナラサルヘカラス  
 四、攻撃ハ生命身體ニ對スルモノタルコトヲ要ス 本項ハ表面上生命身體ト限リタルモ我カ刑法ノ主義ニ從フトキハ名譽自由等ヲモ包含スルモノト解セ

サルヘカラス然ラハ財産ニ對シテハ此ノ權ナキカ曰ク然ラス或ル場合ニ於テハ我カ刑法モ財産ノ防衛權ヲ認メタリ即チ第三百十五條ノ特例是レナリ

- 一 財産ニ對シ放火其ノ他暴行ヲ爲スモノヲ防止スルニ出テタル時
- 二 盜犯ヲ防止シ又ハ盜賊ヲ取還スニ出テタル時
- 三 夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戶牆壁ヲ踰越損壞スル者ヲ防止スルニ出テタル時

五、其所爲ハ之ヲ防衛スルニ必要ナルモノナラサルヘカラス 自己ノ身體生命ヲ防衛スルニ必要唯一ノ方法ナルコトヲ要スル故ニ若シ十分避ケ得ヘキ猶豫ノ存スルトキハ此ノ權ヲ口藉スルモ畢竟濫用タルヲ免カレサルナリ然ルニ二三ノ學者ハ十分避ケ得ヘキ餘地アルモ尙ホ此ノ權ヲ實行スルヲ得ヘシト抑、誤レリト云フヘシ若シ此ノ說ニシテ正當ナラシメハ世人ハ續々正當防衛ナルコトヲ主張シテ殺人罪ノ責任ヲ負ハサルニ至ルノ危險ヲ生スルニ至ルモ知ルヘカラス

又學者中ニハ雙方ノ力ノ權衡ヲ取ルノ平均論ヲ唱フルモノアリト雖モ此ノ



説タル陳腐ニシテ採ルニ足ラサルナリ何トナレハ其ノ力ハ平均ヲ得サルモ之ヲ防衛スルニ十分ナル所爲ナルトキハ此ノ權ヲ實行スルコトヲ得ヘケレハナリ

以上五個ノ原則ハ正當防衛ニ必要ナル條件ナルコトハ一般學者ノ是認スル所ナリ然ルニ我カ立法者ハ不思議ニモ尙ホ二個ノ條件ヲ必要トセリ即チ六不正ノ所爲ニ依テ招キタルモノハ云々即チ自己ノ所行ヨリ自ラ暴行ヲ招クトキハ此ノ限ニアラストノ謂ナリ之ヲ言ヒ換ユレハ相談ヅクノ所爲ナルトキハ正當防衛權ナシトノ規定ナリ蓋シ立法官カ斯ノ如ク制限ヲ附シタル所以ハ畢竟防衛權ノ濫用アラシトコトヲ恐レテナリ例ヘハ一人カ甲ヲ殺サント決意シテ彼ニ一拳ヲ加フヤ否ヤ甲ハ驟然奮起刀ヲ拔テ來ル余ハ笑坪ニ入リテ之ヲ掩撃シ之ヲ寸斷スルモ尙ホ正當防衛ナリト主張スルモノアラシカノ稀有ノ想像ヲ廻シテ巧ニ制定シタルノ法律ナリ此ノ巧ナル法律ハ其ノ結果上却テ不都合ヲ生セリ何トナレハ一旦自己ノ不正ニ由テ招キタルトキハ一方ヨリ如何ナルコトヲ爲サハルモ己ハ袖手シテ防衛スルコトヲ得サルカ

理論上斯ノ如キ不當ナルコトアラシヤ故ニ此ノ法文ヲ解スルモノハ須ク其ノ適用ヲ狹隘ナラシメ攻撃ヲ招ク所ノ不正ノ所行ハ重大ニシテ且其ノ所行ノ直接ニ原因シタル場合トスヘシ

七、殺傷ナラサルヘカラス 本項ハ實ニ奇々怪々ナリト云ハサルヲ得ス即チ第三百十四條中ニハ暴行人ヲ殺傷シタルモノトアリ凡ソ正當防衛ニハ如何ナル所爲ヲ施スモ無罪ナルヘキヲ至當トスルニ斯ノ如ク制限ヲ置クトキハ吾人ハ一旦危急ノ地ニ迫ルモ小心翼々トシテ彼ノ肉身ニ注目セサルヘカラス何トナレハ若シ衣服ヲ破ルカ拔刀ヲ折ルカノ所爲アレハ却テ財産毀損罪ノ公訴ヲ受ケサルヲ得サレハナリ然レトモ立法官ノ主旨ハ此ノ邊ニ迄ハ御氣ヲ附ケラレタルコトハアラサルモ佛國刑法ニ此ノ文字アリシ故ニ之ヲ學ハレタルナラン

### 挑撥

挑撥トハ我ヨリ他人ニ對シテ憤怒ヲ起サシムルモノニテ我カ刑法第三百九條



ニ曰ク自己ノ身體ニ暴行ヲ受クルニ困リ直チニ怒ヲ發シ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ其ノ罪ヲ宥怒スト又第三百十一條ニ曰ク本夫其ノ妻ノ姦通ヲ覺知シ姦所ニ於テ直チニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺傷シタル者ハ其ノ罪ヲ宥怒ス此ノ二條ハ皆挑撥ニ出テタル場合ヲ規定シタルモノナリ而シテ其ノ罪ヲ宥怒ストハ無罪トノ謂ニハアラスシテ二等若クハ三等ヲ輕減スルトノ意ナリ今其ノ所爲ニ要スル重ナル條件ヲ説明セハ左ノ如シ

(一) 不正ノ暴行ヲ受クルコト

自己ノ身體ニ對スル暴行ナルコト 茲ニ所謂身體トハ生命名譽自由ヲモ包含スルモノト解スヘシ何トナレハ身體ノミトスルトキハ奇怪ナル結果ヲ生スヘケレハナリ試ニ見ヨ身體ニ對スル暴行ハ宥怒ノ原因トナリ生命ニ對スル暴行ハ宥怒ノ原因トナラストハ輕重ヲ失スル偏屈論ニアラスヤ且身體ヲ自己ト制限シタルハ餘リ區域ノ狹隘ナルヲ覺ユ例ヘハ父子相伴ヒテ春夜逍遙スル際暴行人來リテ父ヲ害セントス父ハ少シモ怒ラスシテ子ハ却テ孝順ノ心禁スル能ハス暴行人ヲ制止セントシテ之ヲ傷ケタリ然ルニ尙ホ宥怒

ノ原因トナラサルナリ扱テ此ノ宥怒ノ特典ヲ親屬ノ場合ニマテ擴張センカ  
不可ナリ何トナレハ我カ刑法ニ所謂親屬ハ其ノ範圍ノ汎キニ過クルヲ如何  
セン

(三) 自己ニ過失ナキヲ要ス 此條件ハ正當防衛ノ場合ニハ理論ニ適セサルモ

挑撥ノ場合ニハ學理上一ノ非難ナシ何トナレハ挑撥ハ他人ヨリ暴行ヲ受ケタルノ憤怒ヨリ來ルモノナレハ其ノ憤怒ノ原因タル自己ノ過失ヨリ出テタルトキハ宥怒ノ原因トナラサルヤ明カナリ畢竟スルニ通常人ノ怒ラサルヘカラサル場合ニ怒ルノ怒ニシテ即チ正當ノ怒所謂聖人茲ニ嚇トシテ怒ルノ怒ナリ

(四) 挑撥ノ所爲ハ憤怒ノ繼續中ナラサルヘカラス 本項ハ法律カ怒リ上戸ヲ

保護スルノ場合ナリ即チ激怒ノ自ラ禁スル能ハサル瞬間ニ行ヒタルモノナラサルヘカラス他日往事ヲ回顧シテ惟ラシ曩日彼ハ我レニ對シテ暴行ヲ加ヘタリ我レ當時少々怒レリ故ニ今彼ヲ傷ケントテ害ヲ加フルモ宥怒トハナラサルナリ何トナレハ不平去リ怒治リタル後ニ於テハ挑撥ノ原由存スサレ



又自己ノ身體ニ暴行ヲ受クルト雖モ憤怒ヲ發セサルトキハ宥怒ノ限ニアラス故ニ諸君ハ宜シク適當ニ怒ルコトヲモ稽考セサルヘカラス何トナレハ怒テサルトキハ是等ノ特例ニ浴スル能ハサレハナリ

以上説明スル所ニ由リ宥怒ノ原因タル場合ハ畧ホ盡シタリト雖モ我カ刑法上有名ナル第三百十二條ノ姦所ニ於テ姦夫若クハ姦婦ヲ殺傷シタル者及第三百十二條ノ晝間故ナシ人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戸牆壁ヲ踰越損壞セントスル者ヲ防止スル爲メ之ヲ殺傷シタル場合ノ如キ共ニ法律上憤怒ヲ發シタルモノト推測シ以テ挑撥ニ準シテ宥怒スヘキモノトセリ然リト雖モ此ノ場合ニハ不正ノ暴行ヲ受クルコトノ一條件ヲ缺ケルコトヲ知ルヘシ何トナレハ彼ノ姦夫姦婦ノ姦スルモ余ノ身體ニ於テ何ノ損益アラサレハナリ

### 謀故殺ニ關スル罪

謀故殺ノ間ニハ嚴然タル區別アリテ相混同スルノ患ナキモノナレトモ我カ裁

判例ヲ見ルトキハ十中九分九厘ハ誤判ニ陥レリ是レ法律ヲ解釋シ及之ヲ適用セルモノ、過失ナリト云ハサルヲ得テ故殺トハ人ヲ殺スノ意アリテ爲ス有意ノ殺人犯ヲ云ヒ謀殺トハ豫メ謀テ人ヲ殺シタルモノヲ云フ即チ一言以テ之ヲ蔽ヘハ豫謀ノ結果ニ出ツルモノヲ謀殺トシ感激ニ由ルモノヲ故殺トスルナリ此ノ二者ノ區別ヲナスコトハ舉證ノ點ニ於テ大ニ其ノ便益ヲ知ル何トナレハ謀殺ニ於テハ必ス其ノ豫謀ニ出テタルコトヲ證明セサルヘカラス若シ其ノ豫謀ニ出テタルコトヲ證明スルコト能ハサレハ最早謀殺罪ナル刑辟ハ存セス去レトモ故殺ハ豫謀ニアラサル爾餘ノ有意ノ殺人犯ナレハ巨細ノ證明ナクモ犯人ヲシテ無罪トナラシムルノ憂ハ更々ナキ所ナリ  
實際ニ起リタル一事件ニ接シタリ該事實ニ因レハ風來漢ナル甲ハ旅客乙ノ懷中暖ナルヲ覺リ之ヲ奪ハント計畫シ居レリ然レトモ時機ヲ得ス遂ニ共ニ旅宿ヲ出テ羊腸タル山路ニ入ル該山路タル一條ノ峻坂ニシテ他ニ間道ナシ其ノ相伴ヒテ通過スルヤ一樵夫アリ能ク之ヲ知ル然ルニ數時後甲ハ山路ヨリ出テ來ルモ乙ハ未ダシ出テヌ道理ナレ乙ハ非命ニ死シテ其ノ屍體ハ谿谷ノ間ニア



リトハ是ヲ以テ甲ハ乙ヲ謀殺セルトノ公訴ヲ受ケタリ此ノ事實ニ據ルトキハ  
 殺傷ヲ目撃シタルノ證人ナク何時如何ナル理由ニテ何ヲ以テ斃セシヤ實ニ不  
 明ナリト云ハサルヲ得ス實際ハ感激ニヨリ挑撥ノ爲メ殺意ヲ生シタルヤモ未  
 タ知ルヘカラサルナリ本件ノ如キ豫謀ニ出テタルコトヲ證明スルノ具ナキト  
 キハ故殺ト認ムルモ學理上最モ穩當ナリトス  
 謀殺罪ニ要スル豫謀ナルモノハ意思ニ屬セスシテ所爲ニ屬スル者ナリ換言セ  
 ハ豫謀ハ實行ニ固着スルト云フニ過キス故ニ豫メ人ヲ殺サント謀ルモ殺時他  
 ノ激スル所ト爲リ是ヲ殺シタルトキハ假令ヒ豫謀ノ前ニ存スルモ殺時ノ感激  
 ニ因リ消滅スルナリ例ヘハ甲ハ余ノ仇ナリ予ハ惟ラク是レ不俱戴天ノ仇ナリ  
 機會サヘアレハ復讐セント一心思ヒ込ミタルニ豈圖ランヤ甲ヨリ余ニ對シテ  
 暴行ヲ加フルカ若クハ衆人稠座ノ中ニテ辱ムルコトアルトキハ余ハ其ノ恥辱  
 ニ堪ヘサラン爲メ一刀之ヲ斬殺セリト假定セヨ此ノ場合ニ擬スル處分ハ如  
 何余ハ豫メ謀リシニハ相違ナキモ殺時ハ却テ感激ノ爲ニ挑撥セラレタリ故ニ  
 是レハ謀殺ニ非スシテ故殺ト解スルヲ學理上至當ナリト信ス獨逸刑法ニハ明

カニ實行ニ固着スル豫謀ナルコトヲ示セリ其ノ條文ヲ掲ケハ曰ク謀殺トハ人  
 ナ殺スニ豫謀ヲ以テ實行シタル所爲ナリトアリ古代風ノ刑法ハ常ニ豫メ謀リ  
 テアリテ意思ヲ指スモノ、如シ豫備ト豫謀トハ其ノ意味ノ異ナルコト斯ノ如  
 シナルニ我カ多數ノ裁判官ハ此ノ區別ヲ混スルヨリ知ラス準備ヲ以テ豫謀ト  
 解シ前例ノ甲者ハ旅人ヲ殺スノ豫謀アリト認定セリ成程豫備ハアリシモ其ノ  
 豫謀ノ如何ハ是ヲ證明スルノ人ナケレハ未ダ知ルヘカラサルナリ且奇ナルハ  
 該宣告書ニ事實ヲ記シタル末段ニ至リテ特筆シテ右ノ事實ナルニ因リ之ヲ法  
 律ニ照ストキハ第何條ニ該當スト言渡セリ去レトモ是レ裁判官カ事實ヲ捏造  
 シテ自ラ法ヲ適用シタルモノト云ハサルヘカラス何トナレハ眞正ノ事實ヲシ  
 テ明カナラシムルノ證人ナク又之ヲ明カナラシメハ謀殺罪ニ問ハル、コトア  
 ラサレハナリスノ如キ笑フヘキ例ハ其ノ數枚擧スルニ違アラス恰モ彼ノ犯人  
 ハ昨日庖刀ヲ買ヒ求メタル故ニ謀殺ナリト云フニ同シ諸君他日司法官トナル  
 モ若クハ代言人トナルモ迂遠ナル間ニ合セ法律家ノ所爲ニ倣ハサランコト轉  
 タ希望シテ止マサルナリ康熙字典ニテ謀故殺ナル文字ヲ解スルトキハ何ノ意



味モ包含セズ

謀故殺ノ種類

謀殺 謀メ豫テ人ヲ殺シタル者

故殺 感激ニ出テ人ヲ殺シタル者

毒殺 毒物ヲ施用シテ人ヲ殺シタルモノヲ云フ是レハ殺人ノ所爲ヲ自ラ

セサルノ場合多キ故ニ其ノ感激ナルヤ豫謀ナルヤハ殆ト知り難キモ

此ノ罪ハ特別ニ重ク罰セリ

慘酷殺 支解折割其ノ他慘酷ノ所爲ヲ以テ人ヲ殺シタルモノニテ即チ首

胴手足等ト寸斷セシ目モ當テラレヌ殺シ方ナリ是レ重ニ謀殺ノ場合

ナリ去レトモ又數時間感激ノ繼續スル人アレハ格別ナリトス

重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ己ニ犯シテ其ノ罪ヲ免ル、爲メ

人ヲ故殺シタル者

詐欺罪 人ヲ殺スノ意ニ出テ詐稱誘導シテ危害ニ陥レ處ニ致シタル者

謀故殺ヲ行ヒ誤テ他人ヲ殺シタルモノ是レ已ニ汎論ニ於テ説明シ

タルカ如ク目的物ノ錯誤ノ場合ナリ

右ハ殺人罪ノ種類ニシテ此ノ他尙ホ親殺シ子殺シノ罪ヲ別ニ規定セリ子ノ如

キハ如何ニ事理ヲ辨識セサル赤子ト雖モ純然タル一個人ナレハ通常人ニ對ス

ル殺人犯ト其ノ罪辟ニ差違ヲ生スルノ理由ナキコトヲ知ルヘシ但シ實際上特

別ノ惡慣習存スルトキハ裁判官ノ斟酌ヲ要スル所ニシテ宣告ニ躊躇スルコト

アルヘシ現ニ余ノ朋友ニ千葉ノ人アリ余ニ語ケテ曰ク嗚呼哀哉千葉ノ俗タル

此處ニシテ此ノ風アリ實ニ痛マシト其ノ所以ヲ尋ヌルニ曰ク地方惡習ナルカ

ナ毎戶三兒ヨリ以上ヲ生育スルコトヲ欲セサル故ニ不幸ニシテ四子五子ヲ産

スルトキハ皆之ヲ墮胎セシムルカ或ハ絞殺スルナリ而シテ人之ヲ怪マス以テ

常トスト尙ホ語ヲ次テ曰ク余モ不幸ニシテ絞殺セラルヘキノモノナリシカ其

ノ殺サルヘキ日ニ當リ適母氏ニ恙アルヲ以テ果サス荏苒日時ヲ經過スルヤ維

新ノ革命トナリ大御世ノ照代トナリテ遂ニ餘喘ヲ今日ニ保ツニ至リシ後年母

ノ物語リニ知リテ驚ヒタト余ニ繰リ返ヘスコト斯ノ如シ



自殺ニ關スル罪

自殺ハ故意ヲ要スル犯罪ニシテ若シ故意ナキトキハ自殺ニアラサルナリ英法ニテハ「セルフマターダー」ナルモノアリ是レハ大ナル不注意ヲ以テ自ラ生命ヲ奪フノ所爲ヲ云フ假令ハ危険ナル機關中ニ誤テ頭部ヲ挿入シ以テ死ヲ致スカ或ハ大海波濤ノ中へ没シテ死スルカ如キ皆故意アラサレハ目スルニ自殺ヲ以テスヘカラサルナリ

此ノ犯罪ハ罰スヘキヤ或ハ罪ノ成立スヘキモノナルヤ否ヤニ就テ一般ノ原理ハ既ニ汎論ニ於テ講述セリ但シ時トシテハ風俗上ヨリ之ヲ罰スルノ已ムヲ得サル場合アリ即チ我カ國維新前ノ如ク武士横行ノ時代ニ方テハ自殺ヲ以テ却テ良俗美風トシ吾モ人モ一點之ヲ非難シタルコトナシ赤穂四十七士ノ屠腹ハ義烈ナリト稱讚スルニアラスヤ然ルニ時勢ノ進歩ト共ニ今日ニ至テハ之ヲ野蠻視スルモ適固陋ノ徒アリテ相率ヒテ自殺ヲ行フカ如キコトアレハ其ノ風俗ヲ害スルコト如何シヤ上古希臘ニ於テ兵士ノ自殺ヲ罰セシモ其ノ罰スヘキノ

理由アルカ爲メニ罰セシムハアラサルナリ

若シ自殺ヲ以テ罪トシ罰センカ如何ナル刑ヲ以テ之ニ加フルヤ死體ニハ感知ナシ感知ナキノ身體ハ恰モ土偶木像ト毫モ異ナラサルナリ故ニ身體刑ノ如キハ其ノ目的ヲ達セサルコト知ルヘシ今假リニ身體刑ヲ廢シ之ニ代フルニ財産刑ヲ以テセンカ其ノ結果タル同一ナルノミナラス却テ延テ相續人ヲ罰スルカ如キ現象ヲ呈スルニ至ラン相續人何ノ罪カアル犬ノ罰猫ニ及フトハ此ノ謂ヒナリ斯ノ如ク已遂ハ刑ノ目的ヲ達スルヲ得スシテ未遂ニノミ重大ナル責任ヲ負ハシメントセハ豈不都合ナラスヤ故ニ曰ク自殺ハ罰セサルヲ以テ可トスオルトラン氏モ曰ク自殺者ハ重ニ精神錯亂ノ人ニ多ケレハ到底罰スルヲ得サルヘシト其ノ基本タル犯罪ニシテ成立セサレハ之ヲ教唆補助シタリトテ犯罪トナルノ道理アラサルナリ然ルニ我カ刑法ハ第三百二十條ニ於テ其ノ罪ヲ定メ教唆者ヲ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ併テ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其ノ他自殺ノ補助ヲナシタルモノハ一等ヲ減ストナシタルハ理論ニ合シタルノ規定トスルヲ得ス之ニ反シテ嘱托ヲ受ケ手ヲ下シタルモノハ純然タ



ル謀殺ナレハ之ヲ教唆者ト同一ノ刑ニ處スルハ不權衡ナルノミナラス謀殺罪  
ヲ自殺罪中ニ規定シタルハ其ノ當ヲ失シタルモノト云フヘシ尙ホ諸君ノ聞ク  
ヲ欲スル情死ノ如キハ雙方合意上即チ承諾ヲ受ケテ生命ヲ授受スルモノナレ  
トモ自殺ノ加工者ナレハ無罪ニアラスシテ謀殺罪ニ擬セラルヘシ何トナレハ  
生命ハ承諾上之ヲ與ヘタリ奪フタリスルコト能ハサレハ其ノ承諾ハ無効ノモ  
ノナレハナリ

### 過失殺罪

過失殺トハ人ノ死亡ノ結果ヲ知ラスシテ行フタル場合ヲ云フモノニシテ犯罪  
構成ノ事實ニ關シテハ一ノ故意アラサルナリ我カ刑法ハ第三百十七條ニ於テ  
二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處スト規定セリ彼ノ有名ナル「ノルマント」号  
沈沒事件ノ如キ其ノ罪タルヤ尙ホ此ノ範圍ヲ出テス然ルニ英國ニテハ之ヲ三  
ケ月ノ輕禁錮ニ處シタリ我レノ罰金ト英ノ體刑ト其ノ刑ノ輕重如何ソヤ當時  
世人ノ囂々トシテ此ノ體刑ヲ以テ不足ナリトセシハ我カ刑法ノ規定ヲ知ラサ

十八

ルノ人ト云フヘシ  
過失罪ヲ以テ輕シ罰スルハ耶蘇舊教ノ主義ニシテ我カ國モ佛國ヨリ此ノ主義  
ヲ因襲シ來レリ

### 墮胎ニ關スル罪

墮胎罪トハ不正ニ婦女ノ胚胎若クハ胎兒ヲ殺スノ意思ヲ以テ之ヲ墮シ若クハ  
殺スノ所爲ヲ云フモノニノ畢竟婦女ノ胎中ニアル生命ヲ有スル塊物ノ生命ヲ  
奪フニ過キサルナリ故ニ其ノ物體タルモノハ生命アル塊物ナリト知ルヘシ然  
ルニ或人ハ之ヲ非難シテ曰ク胎中ノ塊物ハ未タ以テ人類ナリト云フヲ得サレ  
ハ生命ニ關スル罪中ニ之ヲ規定スルノ穩當ナラサルコト尙ホ犬猫猿モ生命ア  
リ此ノ生命ヲ奪フ所爲ヲ刑法ニ掲クルト同一ナルカ如シト去レトモ是レハ極  
端ノ論ニシテ取ルニ足ラス斯ク墮胎罪ヲ罰スルハ其ノ塊物タル將來人間トナ  
リ得ルモノナレハナリトノ理由ニアルナリ

墮胎罪ハ必スシモ胎中ヨリ塊物ヲ引出シ現實ニ墮胎セシムルコトヲ必要トセ



ス其ノ生命ヲ絶ツニ充分ナルトキハ之ヲ胎外ニ出サ、ルモ犯罪トナルコトハ  
瞭然タリ例ヘハ婦女ノ妊娠スルコトヲ知リテ其ノ腹ヲ蹴リ若クハ其ノ脊ヲ亂打  
シテ胎内ノ塊物ノ呼吸ヲ絶タシメタルトキハ現ニ外部ニ墮胎セシメサルモ犯  
罪ハ成立スヘシ其ノ方法手段ノ如キハ問ハサルヲ以テ種々アルヘシト雖モ内  
部ヨリ藥物ヲ以テスルモノト外部ヨリ蹴ルカ打ツカ如キモノトノ二ツニ歸ス  
ルナリ

本罪ハ塊物ノ胎内ニアルコトヲ必要トスル故ニ分娩ノ際直チニ死セシムルカ  
如キハ最早他ノ犯罪ヲ構成シ或ハ謀殺トナリ或ハ過失殺トナルナリ

試ニ諸君ニ問ハン今茲ニ人アリ孕婦ヲ捕ヘ其ノ腹中ノ膨大ノ塊物ノ生命ヲ絶  
ノ意思ヲ以テ劇シク之ヲ蹴ルト同時ニ安ス々々ト分娩セリ是レ墮胎ノ已遂ナ  
ルヤ或ハ未遂ナルヤ又其ノ蹴ラレタル際安産セシモ直チニ赤子ハ死セリト云  
フ此ノ事實ニ於テハ墮胎罪ナルヤ又ハ其ノ他ニ何等ノ犯罪アルカ  
我カ刑法ハ此ノ犯罪ヲ種々ニ區別シタルヲ以テ左ニ之ヲ掲載セシ

一 懷胎ノ婦女藥物其ノ他ノ方法ヲ以テ墮胎シタルモノ一月以上六ヶ月以

下ノ重禁錮 (第三百三十條)

二 藥物其ノ他ノ方法ヲ以テ墮胎セシメタルモノ

前條ニ同シ (第三百三十一條第一項)

三 因テ婦女ヲ死ニ致シタルモノ一年以上三年以下ノ重禁錮

(第三百三十一條第二項)

四 醫師穩婆又ハ藥商前條ノ罪ヲ犯シタルモノ前條ノ罪ニ一等ヲ加フ

(第三百三十二條)

五 懷胎ノ婦女ヲ威迫シ又ハ誑騙シテ墮胎セシメタルモノ一年以上四年以

下ノ重禁錮 (第三百三十三條)

六 懷胎ノ婦女タルヲ知テ毆打其ノ他暴行ヲ加ヘ因テ墮胎セシメタルモノ

二年以上五年以下ノ重禁錮 (第三百三十四條第一項)

七 墮胎セシムルノ意ニ出テタルモノ輕懲役

(第三百三十四條第二項)

其ノ他我カ刑法ニ於テハ第三百三十五條ニ犯罪ノ結果ニ因テ之ヲ罰スルコト



ヲ規定シタリ

### 身體ニ對スル罪

身體ニ對スル犯罪トハ身體ノ完全ノ成立ヲ傷害スル總テノ所爲ヲ云フ故ニ此ノ定義ニ因ルトキハ身體ニ對スル犯罪ノ場合ハ甚タ廣濶ナレトモ我カ刑法ニ於テ他ノ各國ノ刑法ヨリ其ノ適用ヲ狹隘ニシタルハ其ノ手段ニ制限ヲ附シ以テ毆打ト規定セシテ以テナリ抑身體傷害ノ罪ハ暴行ヲ以テ之ヲ行ヘハ可ナルニ何故ニ打ツコトヲ想像シテ毆打セシヤ畢竟小説中ニ散見スル鐵拳交々下ルノ喧嘩ヲ豫防セシカ爲メナルカ勿論毆打ハ暴行ノ一種ナレトモ暴行ト云フトキハ其ノ範圍汎クシテ解釋ニ窮スルノ憂ナキニアラスヤ今印度刑法中ニアル毆打外ノ暴行罪ヲ示サシニ沐浴場ニ水管ヲ設ケ是ヨリ温湯ヲ浴室ニ導クハ通常ノコトナルカ今一人ノ浴スルニ際シ熱湯ヲ此ノ水管ヨリ注入シ爲ニ身體ヲ糜爛若クハ火傷セシムルカ如キ或ハ乘馬ニ慣レサル人ノ馬上其ノ控馭ニ苦シムヲ見テ傍ヨリ之ヲ驚カシメ馬逸人傷ノ場合ノ如キ或ハ急流ニ輕軻ヲ繫キタ

ルヲ見テ筋ニ其ノ筋ヲ切斷シ爲メニ其ノ船ハ激湍ノ爲メ覆没シ因テ人ヲ負傷セシメタルカ如キ此ノ數例ハ果シテ適當ナル毆打罪ト云フヲ得ヘキヤ並ニ我カ歴史ニ有名ナル千早籠城ノ糞汁ヲ敵軍ニ灌クカ如キ之ヲ一私人相互間ノ所爲トセハ何罪ニ擬スヘキヤ人アリ我カ刑法ヲ辯護シテ曰ク之レ熱湯ナル一ノ棒ナリ糞汁ナル一ノ棒ナリト然レトモ是等ハ取ルニ足ラサルノ暴論ナレハ我カ刑法ヲシテ圓滑ニ活用セシメント欲セハ毆打ナル文字ヲ解シテ身體ノ完全ヲ傷害シ苦痛ヲ與フル暴行ナリト了セサルヘカラス

次ニ考究スヘキハ創傷ナル意義是レナリマイエル氏曰ク身軀ノ完全ヲ侵害スル所ノ身體上ノ現象即チ創傷ナリ故ニ髮ヲ剪リ鬚ヲ挾ムモ亦身體上ノ完全ヲ缺損シタルモノナレハ身體ニ對スル犯罪ナリトセリ然ルニ之ヲ純理上ヨリ考フルトキハ毛髮ヲ截リ若クハ爪ヲ剪ル如キハ身體上ノ完全ヲ侵害スル現象ニアラスシテ唯生理上ノ現象ナルノミ故ニ決シテ創傷トハ云フヘカラサルナリ我カ刑法ハ毆打ノ手段ニ限ルヲ以テ同氏ノ說ハ到底我カ國ニ行ハル、モノニアラス去リトテ毛髮ヲ截リ鬚又ハ爪ヲ剪ムモ法律上何等ノ救正ヲモ與ヘサル



トキハ實ニ不可ナルナカラシヤ學者或ハ之ヲ單ニ民事上ノ賠償ニ留ムルト云  
フト雖モ印度刑法ノ如キハ是ヲ以テ別罪トナスハ規定ノ其ノ宜キヲ得タルモ  
ノナリ彼ノ婦人ノ最モ愛スル金毛綠髮ヲ截リ去ルカ如キ賠償ノミニテハ未ダ  
以テ飽キ足ラサルヘシ

毆打アリ且創傷アルモ若シ權利者ノ所爲ナルトキハ罪トナラサルナリ外科醫  
ノ治療ヲ施スカ如キ父母ノ子弟ニ對スル懲戒權ノ如キハ法律カ正當ニ此等ノ  
人ニ附與セシ特權ナレハ其ノ範圍内ニ於テハ自由ナレトモ其ノ程度ヲ越ユル  
コトアレハ法律ハ最早之ヲ勘宥セサルナリ例ヘハ父母カ愛兒ヲ懲戒セン爲メ  
一手ヲ折リ一目ヲ失フカ如キハ既ニ越權ノ所爲ニシテ暴行ナリト云フヘシ但  
シ輕微ナル毆打ナルトキハ是等權利者外ノ人ト雖モ尙ホ承諾上無罪ナルコト  
アリ彼ノ擊劍家ノ相搏ツ力士ノ相格スル如キ又時宜ニ因リテハ常ニ默諾アリ  
ト推測サル、場合アリ諸君カ矢場等ニテ少女ニ肩ヲ打タル、是レナリ去レト  
モ反對ノ意ヲ表セルニ尙ホ打チ爲メニ生理上ノ現象ヲ生セシトキハ無論本罪  
ヲ構成スルニ足ル但シ濫用ナキコト希望ノ至リ矣

刑罰及種類

一 毆打致死 人ヲ毆打創傷シ因テ死ニ致シタルモノ

重懲役 (第二百九十九條)

二 毆打篤疾人ヲ毆打創傷シ其ノ兩目ヲ瞎シ兩耳ヲ聾シ又ハ兩肢ヲ折リ及  
舌ヲ斷チ陰陽ヲ毀敗シ若クハ知覺精神ヲ喪失セシメタルモノ

輕懲役 (第三百條第一項)

三 毆打廢疾 人ヲ毆打創傷シ其ノ一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾シ又ハ一肢ヲ折リ  
其ノ他身體ヲ殘廢シタルモノ 二年以上五年以下ノ重禁錮

(第三百條第二項)

四 人ヲ毆打創傷シ二十日以上ノ時間疾病ニ罹リ又ハ職業ヲ營ム能ハサル  
ニ至ラシメタルモノ 一年以上三年以下ノ重禁錮

(第三百一條第一項)

五 人ヲ毆打創傷スルモ其ノ疾病休業ノ時間五十日ニ至ラサルモノ  
一月以上一年以下ノ重禁錮 (第三百一條第二項)



疾病休業ニ至ラスト雖モ身體ヲ創傷シタルモノ

十一日以上一月以下ノ重禁錮 (第三百一條第三項)

六 豫謀毆打 豫メ謀リテ人ヲ毆打創傷シ休業廢篤疾又ハ死ニ致シタルモノ  
ノ 第二百九十九條ヨリ第三百一條ニ至ルノ刑ニ一等ヲ加フ

(第三百二條)

七 重輕罪ヲ犯セニ便利ナル爲メ又ハ已ニ犯シテ其ノ罪ヲ免ル、爲メ人ヲ  
毆打創傷シタルモノ 第三百二條ノ刑ニ同シ

(第三百九條)

八 過誤毆打 毆打ニ因リ誤テ人ヲ創傷シタルモノ

毆打創傷ノ刑ニ同シ (第三百四條)

九 詐欺毆打 詐欺誘導シテ危害ニ陷レ因テ疾病休業ニ致シタルモノ

毆打創傷ノ刑ニ同シ (第三百八條)

十 過失毆打 過失ニ因テ人ヲ創傷シタルモノ

廢篤疾ニ致シタルモノ

十圓以上百圓以下ノ罰金 (第三百十八條)

十一 疾病休業ニ至ラシメタルモノ

二圓以上五十圓以下ノ罰金 (第三百十九條)

右ハ我カ刑法ニ規定スル毆打罪ノ種類ニシテ皆結果ニ因リ其ノ罪ヲ定メタル  
モノナレハ適用ニ困難ヲ生スルコト少カラサルナリ

第三百條第二項第三項トノ間ハ其ノ權衡ヲ得タルモノニアラス何トナレハ兩  
目兩耳兩肢ヲ失ハシムルハ其ノ一ヲ失ハシムルヨリ害惡ノ度タル甚シキニ相  
違ナキモ元來ヨリ一目一肢ヲ有スル人ニ對シ他ノ一ヲ失ハシメタルトキハ結  
果ヨリ見ルニ其ノ兩目兩肢ヲ失ハシメシト毫モ擇ム所ナキナリ然ルニ我カ刑  
法ハ此ノ間ニ刑ノ輕重ヲ置クハ蓋シ考ヘノ過キタルニアラスヤ寧ロ兩目ヲ瞎  
スルト云ハスシテ明ヲ失セシメタルモノハ云々トノ如キ文法ヲ用フルノ優レ  
ルニ如カサルナリ

齒ヲ折リ鼻ヲ劓ルカ如キハ全ク失ハシムルモ第一項中ニハ包含サレサルナリ  
兩目ヲ瞎セシムルモ又ハ兩肢ヲ折ルモ輕懲役ナリ然ルニ目耳肢ノ一及其ノ他